

令和7年度
授業概要

幼児教育学科



学校法人 高松学園

飯田短期大学

IIDA JUNIOR COLLEGE

「卒業認定・学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」

◆幼児教育学科

幼児教育学科の「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)

1. 個人の尊厳を尊重し、人々や地域の課題に取り組む豊かな人間性を備えた学生
2. 保育者としての豊かな教養、専門的な知識・技術を備え、学び続ける基礎を身に付けた学生
3. 保育者の素養をもち、主体的に社会の発展・向上に参画し寄与する態度を身に付けた学生

幼児教育学科の学修成果

1. 他者との信頼関係を築くためのコミュニケーション能力を身につけている。
2. 保育の本質・目的を理解できる。
3. 保育の対象を理解できる。
4. 保育の内容と方法を理解し、保育を実践できるための技能を身につけている。
5. 保育者に求められている表現力を身につけている。
6. 多様化する保育ニーズに対応できる専門的知識・技能を身につけている。
7. 保育者としてふさわしい倫理観、人間性を身につけている。

幼児教育学科の「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)

1. 豊かな人間性を備えた保育者の資質を養うため、基礎・教養科目及び専門教育科目を相互補完的に組み合わせた教育計画を編成します。
2. 専門的知識・技術を備えた教養豊かな保育者を養成するための専門科目をもって教育計画を編成します。
3. 幼稚園、保育所、家庭、その他の関係者との連携・協力を努め、より実践的な学修を実現できる教育計画を編成します。

幼児教育学科の「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)

1. 保育者を目指す上で必要な学修にかかわる基礎的学力を有している人
2. 保育者としての実践の基礎となる教養・人間性を磨いていく明確な意思がある人
3. 保育者としての専門的知識・技術・態度を身に付ける基本的姿勢を備えた人
4. 現代社会に関わる様々な事象に関心をもち、地域社会の健全な発展のために主体的に参画する基本的姿勢を備えた人

幼児教育学科の学修成果の評価(アセスメント・ポリシー)

学科が掲げるディプロマ・ポリシーの到達目標の達成度や達成されるカリキュラム編成になっているかを以下の方法でアセスメントします。

1. 学修成績評価
2. 単位取得状況 (GPA)
3. 免許・資格の取得状況
4. 卒業率
5. 進路状況 (就職率・進学率)
6. 学生満足度アンケートの結果
7. 卒業アンケート (卒業後評価) 結果
8. 卒業研究
9. 実習施設からの評価

◆基礎教養科目カリキュラム・マップ（幼児教育学科）

基礎教養科目

| 学修成果 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 |
|-------------|---------------------------|---------------------|------------------------------|
| | 建学の精神を基にし、豊かな人間性を身につけている。 | 専門的な知識・技術・態度を備えている。 | 社会の発展・向上に寄与できる課題解決能力を修得している。 |
| 美しく生きる | ○ | ○ | ○ |
| 心理学 | | ○ | |
| 哲学 | ○ | ○ | |
| 日本国憲法 | | ○ | ○ |
| 教育学 | | ○ | |
| 倫理学 | | ○ | |
| 介護福祉の基本 | ○ | ○ | ○ |
| 生活と化学 | | ○ | |
| 生物学 | | ○ | |
| 環境と人間 | | ○ | |
| 科学史 | | ○ | |
| 数学基礎 | | ○ | |
| 英語 | | ○ | ○ |
| 英会話 | | ○ | ○ |
| ドイツ語 | | ○ | ○ |
| スポーツと健康（理論） | | | ○ |
| スポーツと健康（実技） | | | ○ |
| 音楽 | ○ | ○ | ○ |
| 美術 | ○ | | ○ |
| キャリアデザイン | ○ | ○ | ○ |
| 地域社会学 | | ○ | ○ |
| 基礎コミュニケーション | ○ | ○ | |
| 文章表現 | | ○ | ○ |
| 生活の中の経済 | | ○ | ○ |
| 情報処理 | | ○ | |
| 簿記論Ⅰ | | ○ | |
| 簿記論Ⅱ | | ○ | |
| 社会貢献活動 | ○ | ○ | ○ |

◆幼児教育学科 カリキュラム・マップ

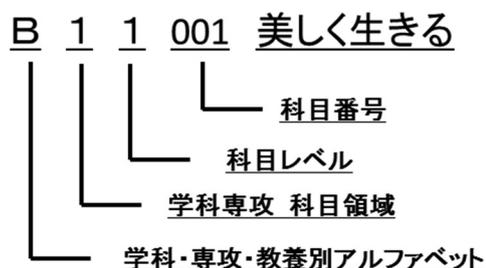
専門科目

| 学修成果 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | 学修成果 5 | 学修成果 6 | 学修成果 7 |
|----------------|------------------------------------|-----------------|--------------|-------------------------------------|-------------------------|-----------------------------------|-----------------------------|
| | 他者との信頼関係を築くためのコミュニケーション能力を身につけている。 | 保育の本質・目的を理解できる。 | 保育の対象を理解できる。 | 保育の内容と方法を理解し、保育を実践できるための技能を身につけている。 | 保育者に求められている表現力を身につけている。 | 多様化する保育ニーズに対応できる専門的知識・技能を身につけている。 | 保育者としてふさわしい倫理観、人間性を身につけている。 |
| 教職論 | | ○ | | ○ | | | ○ |
| 教育学原論 | | ○ | | | | ○ | ○ |
| 保育原理 | | ○ | ○ | | | | ○ |
| 社会的養護Ⅰ | | ○ | ○ | | | ○ | ○ |
| 幼児教育実習Ⅰ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ |
| 幼児教育実習Ⅱ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 保育・教職実践演習（幼稚園） | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 保育実習Ⅰ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 保育実習指導Ⅰ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 保育実習Ⅱ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 保育実習指導Ⅱ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 保育実習Ⅲ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 保育実習指導Ⅲ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 子どもの保健 | | | ○ | ○ | | ○ | ○ |
| 子どもの健康と安全 | | | | ○ | | ○ | ○ |
| 子どもの食と栄養 | | | ○ | ○ | | | |
| 発達心理学 | | ○ | | | | ○ | |
| 子どもの家庭支援の心理学 | ○ | | ○ | | | ○ | ○ |
| 教育心理学 | | | ○ | | | | ○ |
| 臨床心理学 | | | ○ | | | ○ | |
| 子ども家庭福祉 | | ○ | ○ | | | ○ | ○ |
| 社会福祉 | | ○ | ○ | | | ○ | ○ |
| 子育て支援 | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ |
| 児童文化 | ○ | | | ○ | ○ | | |
| 音楽Ⅰ | | | | ○ | ○ | | |
| 音楽Ⅱ | | | | ○ | ○ | | |
| リトミックⅠ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ |
| リトミックⅡ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ |
| からだとあそび | | | | ○ | | ○ | |
| 身体表現 | ○ | | | | ○ | | |
| ひととのかかわり | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ |
| 言語表現 | ○ | | | ○ | ○ | | |
| 図画工作 | ○ | | | ○ | ○ | | |
| 保育の国語 | ○ | | | ○ | ○ | | |
| 保育内容総論 | | | ○ | ○ | | | |
| 保育内容（子どもと健康） | | | ○ | ○ | | | |

| 学修成果 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | 学修成果 5 | 学修成果 6 | 学修成果 7 |
|----------------|------------------------------------|-----------------|--------------|-------------------------------------|-------------------------|-----------------------------------|-----------------------------|
| | 他者との信頼関係を築くためのコミュニケーション能力を身につけている。 | 保育の本質・目的を理解できる。 | 保育の対象を理解できる。 | 保育の内容と方法を理解し、保育を実践できるための技能を身につけている。 | 保育者に求められている表現力を身につけている。 | 多様化する保育ニーズに対応できる専門的知識・技能を身につけている。 | 保育者としてふさわしい倫理観、人間性を身につけている。 |
| 保育内容（子どもと人間関係） | | | ○ | ○ | | | |
| 保育内容（子どもと環境） | | | ○ | ○ | | | |
| 保育内容（子どもとことば） | | | ○ | ○ | | | |
| 保育内容（子どもの表現） | | | ○ | ○ | ○ | | |
| 幼児理解と教育相談 | ○ | | ○ | | | ○ | ○ |
| 心理療法 | ○ | | ○ | | | ○ | ○ |
| 保育・教育課程総論 | | | ○ | ○ | | | |
| 乳児保育 I | | | ○ | ○ | | ○ | |
| 乳児保育 II | | | ○ | ○ | | ○ | |
| 社会的養護 II | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ |
| 特別支援教育（概論） | ○ | ○ | | | | ○ | |
| 教育方法論 | | ○ | ○ | ○ | | | |
| 子ども家庭支援論 | | ○ | ○ | | | ○ | ○ |
| 個別支援研究 | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ |
| 個別支援実習 | ○ | | | | | ○ | ○ |
| Expression I | ○ | | | ○ | ○ | | |
| Expression II | ○ | | | ○ | ○ | | |
| ゼミナール I | ○ | | | ○ | ○ | | |
| ゼミナール II | ○ | | | ○ | ○ | | |
| 卒業研究 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

科目ナンバリングについて

授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みです。本学の科目ナンバリングについては、以下の通りです。



○学科・専攻・教養別アルファベット

| | | | |
|---|--------------|---|------------|
| B | 基礎教養科目 | T | 専攻科地域看護学専攻 |
| L | 生活科学学科生活科学専攻 | J | 専攻科助産学専攻 |
| C | 生活科学学科介護福祉専攻 | Y | 専攻科養護教育専攻 |
| F | 生活科学学科食物栄養専攻 | | |
| E | 幼児教育学科 | | |
| N | 看護学科 | | |

○学科専攻 科目領域

◆基礎教養科目の領域別到達目標

1. 【人間の理解】
 - ・人間の本质について探求する能力を身につける。
2. 【人間と社会】
 - ・社会人として必要な幅広い教養を身につける。
3. 【自然と生活】
 - ・自然科学の知識を身に付け、自己の生き方を選択できる。
4. 【外国語】
 - ・外国語を修得し、コミュニケーション能力を身につける。
5. 【自己表現】
 - ・他者と共感しつつ、自己表現能力を身につける。
6. 【キャリア】
 - ・自己の生き方を考え、社会人の基盤としての知識・技能及び態度を身につける。

◆幼児教育学科の領域別到達目標

幼児教育学科では、各科目を以下の領域に分類し、科目の到達目標を定めます。

1. 【保育の本質・目的に関する科目】
 - ・教育および福祉の基本的な考えが理解できる

2. 【保育の対象の理解に関する科目】

- ・子どもの発達や子どもにとってふさわしい生活が理解できる

3. 【保育の内容と方法に関する科目】

- ・保育の内容および方法について理解できる指導計画の作成ができ、それを実践展開する力が身に付く

4. 【保育の表現技術】

- ・保育者にとって必要な表現力を身につけ子どもの表現力を育てるための力を身につける

5. 【教育・保育実習】

- ・幼稚園・保育所・施設での実践を通し、実践力を身につける

○科目レベル

学習する内容において、当該科目を履修することが概ねふさわしい開講期や、カリキュラムにおける履修の順次性を考慮し設定しています。なお、学年とレベルは必ずしも一致するものではありません。また、履修学年を限定するものではありません。

- 1 基礎的内容
- 2 発展的内容
- 3 応用的内容
- 4 総合的内容

○科目番号

001～999 までの科目番号

目次

| | | | |
|-----------------|----|----------------|----|
| 1. 基礎教養科目 | | 子どもの健康と安全 | 51 |
| 美しく生きる | 11 | 子どもの食と栄養 | 52 |
| 心理学 | 12 | 発達心理学 | 53 |
| 哲学 | 13 | 子ども家庭支援の心理学 | 54 |
| 日本国憲法 | 14 | 教育心理学 | 55 |
| 倫理学 | 15 | 臨床心理学 | 56 |
| 介護福祉の基本 | 16 | 子ども家庭福祉 | 57 |
| 生活と化学 | 17 | 社会福祉 | 58 |
| 生物学 | 18 | 子育て支援 | 59 |
| 環境と人間 | 19 | 児童文化 | 60 |
| 数学基礎 | 20 | 音楽Ⅰ | 61 |
| 英語 | 21 | 音楽Ⅱ | 62 |
| 英会話 | 22 | リトミックⅠ | 63 |
| スポーツと健康（幼児教育学科） | 23 | リトミックⅡ | 64 |
| 音楽（基礎） | 24 | からだとあそび | 65 |
| 美術 | 25 | 身体表現 | 66 |
| キャリアデザイン | 26 | ひととのかかわり | 67 |
| 地域社会学 | 27 | 言語表現 | 68 |
| 基礎コミュニケーション | 28 | 図画工作 | 69 |
| 文章表現 | 29 | 保育の国語 | 70 |
| 生活の中の経済 | 30 | 保育内容総論 | 71 |
| 情報処理（幼児教育学科） | 31 | 子どもと健康（保育内容） | 72 |
| 簿記論Ⅰ | 32 | 子どもと人間関係（保育内容） | 73 |
| 簿記論Ⅱ | 33 | 子どもと環境（保育内容） | 74 |
| 社会貢献活動 | 34 | 子どもとことば（保育内容） | 75 |
| | | 子どもの表現（保育内容） | 76 |
| | | 幼児理解と教育相談 | 78 |
| 2. 幼児教育学科 | | 心理療法 | 79 |
| 教職論 | 37 | 保育・教育課程総論 | 80 |
| 教育学原論 | 38 | 乳児保育Ⅰ | 81 |
| 保育原理 | 39 | 乳児保育Ⅱ | 82 |
| 社会的養護Ⅰ | 40 | 社会的養護Ⅱ | 83 |
| 幼児教育実習Ⅰ | 41 | 特別支援教育（概論） | 84 |
| 幼児教育実習Ⅱ | 42 | 教育方法論 | 85 |
| 保育・教職実践演習（幼稚園） | 43 | 子ども家庭支援論 | 86 |
| 保育実習Ⅰ | 44 | 個別支援研究 | 87 |
| 保育実習指導Ⅰ | 45 | 個別支援実習 | 88 |
| 保育実習Ⅱ | 46 | ExpressionⅠ | 89 |
| 保育実習指導Ⅱ | 47 | ExpressionⅡ | 90 |
| 保育実習Ⅲ | 48 | ゼミナールⅠ | 91 |
| 保育実習指導Ⅲ | 49 | ゼミナールⅡ | 92 |
| 子どもの保健 | 50 | 卒業研究 | 93 |

1. 基礎教養科目

| | | | | | |
|-------------------|--|-------|---------|-----|-----------|
| 対象学生 | 基礎（人間の理解） 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 美しく生きる B11101 | 前期 | 講義 | 2 | |
| 担当教員 | 高松 彰充 | | | | |
| 授業の概要 | <p>宗教とは、教えを自己の中心におくことである。自己の内面を見つめ、自分はどのような存在か、いかに生きるべきかを探求する姿勢を親鸞聖人の教えを書き記した『歎異抄』を中心として学ぶ。本講義は実務家教員の授業で、寺院住職である教員が担当する科目である。宗教に携わる実務家としての視点を交えて、学生に対して授業を展開していく。</p> | | | | |
| 到達目標 | <p>本学建学の精神、親鸞聖人の教えを通し、真の生きがいを自ら探求する姿勢を養う。</p> | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | | |
| | ○ | ○ | ○ | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 美しく生きるとは 2. 思い立つところ 3. 平等とは 4. 信じるということ 5. 善人・悪人 6. 生老病死 7. 他人のために生きる（親切とは） 8. 大切な人 9. 思い通りになる人 10. 縁とは 11. 壁 12. 何のために 13. 欲 14. 不可称・不可説・不可思議 15. 美しく生きるとは(総括) | | | | |
| 事前・事後学習について | <p>特別予習は必要ありません。講義を受けた後、配布資料やテキストを見返して自分自身と照らし合わせてください。そこから自身の学びや考えを深めていってください。</p> | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | <p>日常生活の中で、講義で学んだこと・配布資料・テキスト等を使用し、自己の内面を見つめ振り返りを行うようにして下さい。（学習に必要な時間 30分程度）</p> | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 0 | | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 85 | 講義内容の理解 | | |
| | その他 | 15 | 授業態度等 | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | <p>講義を受講するにあたり、指定された座席で授業を受けるようにしてください。</p> | | | | |
| 使用テキスト | <p>授業時にレジュメを配付します。</p> | | | | |
| 参考書 | <p>雑草の輝き（著者：高松信英 東本願寺出版）</p> | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|---|-------|---------------------------|-----|-----------|
| 対象学生 | 基礎（人間の理解） 12 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 心理学 B11102 | 後期 | 講義 | 2 | |
| 担当教員 | 黒岩 長造 | | | | |
| 授業の概要 | この授業では、心理学全般についての講義を行います。毎回のテーマ毎にその変遷と現在の考え方について説明していきます。日常生活における事例を紹介しながら、心理学的視点についての講義も行っていきます。 | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・心理学の学問領域が理解できる。 ・人間の考え、感情、行動の概略について理解できる。 ・日常の出来事について心理学的視点で考察できる。 | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | | |
| | | ○ | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学を学ぶとは 2. 心理学の歴史 3. 脳と知覚について 4. 知能と学習について 5. 感情や欲求について 6. 性格について 7. 発達について 8. 社会と性差について 9. 集団について 10. 社会と仕事についての心理学 11. 子どもと家庭について 12. 深層心理について① 13. 深層心理について② 14. 「こころ」の病について 15. まとめ | | | | |
| 事前・事後学習について | 自分の「こころ」はどこにあるか、最初の授業で400字で書いて提出を求めるので、あらかじめ準備しておいてください。 毎回、授業内容について、ワークシート形式で記述し提出してもらいます。成績評価の対象となるので、テキストや図書館での資料を読んで予習を行ってください。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 授業に集中できるように事前に毎回1時間程度教科書を読んで理解しておいてください。 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 0 | | | |
| | 実践 | 75 | 各講義のテーマごとに課すワークシートにおける理解度 | | |
| | レポート | 25 | 対人援助における心理学的視点考察の習熟度 | | |
| | その他 | 0 | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | レポート課題に対する添削を行い返却します | | | | |
| 使用テキスト | 面白いほどよくわかる心理学 渋谷昌三 西東社 | | | | |
| 参考書 | 適宜授業中に紹介します。 | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|--|--------|---------------------------|-----|-----------|
| 対象学生 | 基礎（人間の理解） 12 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 哲学 B11103 | 前期 | 講義 | 2 | |
| 担当教員 | 奥井 現理 | | | | |
| 授業の概要 | この授業は、学生の皆さんが哲学のもたらす知的興奮を味わえること、かつ、日々の学習や生活における思考に学んだことを生かせること、の二点を目指して行われます。 | | | | |
| 到達目標 | 哲学を学ぶことを通して、思考の質を高めることができる。 哲学史を学ぶことを通して、未来の見通しを立てる視点をもつことができる。 哲学を学ぶことを通して、健全な批判力を涵養することができる。 | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | | |
| | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 哲学すること 「哲学すること」は、「哲学を学ぶこと」とは少し違います。 まずはオリエンテーションとして、簡単な思考体験をしてみましょう。 2. 自分の哲学(1) 自分のことは自分が一番わかっている、とは本当でしょうか。 オーソドックスな自分／他人の違いから考えてみましょう。 3. 自分の哲学(2) 個性とは何であるのか、個性的であることとはどういうことか、考えてみましょう。 4. 心の哲学(1) 心と脳の関係から考えをスタートしてみましょう。 5. 心の哲学(2) 心とは何であるのか、正確には私たちは何を心と呼んでいるのかを考えてみましょう。 6. 生の哲学(1) 生とは何か、生命とは何か、大昔から多くの人たちが考えてきました。 過去の哲学者たちの思想を学んでみましょう。 7. 生の哲学(2) 「生」「死」「自殺」「安楽死」等の、生命に関する実践的な問題を考えてみましょう。 8. モラルの哲学(1) 誰かが作った決まり、礼儀、伝統、上っ面だけ…というイメージを疑って考えてみましょう。 9. モラルの哲学(2) モラルの源流はどこにあるのか、そして今はどこを流れているのかを踏まえた上で、現代的なモラルの問題に取り組んでみましょう。 10. ことばの哲学 「語の意味とは何か」はウィトゲンシュタイン『青色本』冒頭の一句です。ことばの不思議に取り組んでみましょう。 11. 宗教の哲学 なぜ宗教で争いが起こるのでしょうか。代表的な宗教を題材に考えてみましょう。 12. 科学・技術の哲学(1) 初歩的な科学の哲学から、思考を始めましょう。 13. 科学・技術の哲学(2) 技術倫理の世界から、私たちの学習・生活まで、哲学してみましょう。 14. 社会の哲学(1) 「社会で通用する・しない」とはよく聞きますが、その「社会」って何のことを指しているのでしょうか。 15. 社会の哲学(2) アダム・スミス、マルクス、ケインズ……経済の哲学を扱ってみましょう。 | | | | |
| 事前・事後学習について | 特別な事前学習・事後学習を課すことは原則としてありません。ただ、配付した資料をノートに貼り付ける等の、学習成果が散逸しないようにするための作業は怠りなく行ってください。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 各自必要ならば 90 分程度参考書等を学習して下さい。 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 0 | | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 100 | 知識ではなく思考・理解が主たる評価観点になります。 | | |
| | その他 | 0 | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 私語は厳禁です。 | | | | |
| 使用テキスト | 使わない。授業時にプリントを配る。 | | | | |
| 参考書 | 授業中に有益な参考書を示す。 | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|--|----------------|---------------------------|------|-----|-----------|--|--|--|--|
| 対象学生 | 基礎（人間と社会） 12 | | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | |
| 科目名 | 日本国憲法 | B21104 | 後期 | 講義 | 2 | 必修 | | | | |
| 担当教員 | 長谷川 敬子 | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | <p>「法学入門及び憲法について」 現代のように自由と人権が保障された法制度のもとにあっても、民主政治を更に深めていくためには、市民が憲法に対して正しい理解を持ち、自らの手でより良い国をつくるために国政に参画してゆくことが不可欠である。このような民主政治を担う市民を教育する者にふさわしい憲法に対する常識の涵養を最小限度の目標とし、時間の許す範囲で女性の法的地位に対する考察を深める。</p> <p>本講義は実務家教員の授業で、現在弁護士である教員が担当する科目である。法律に携わる実務家としての視点を交えて、学生に対して授業を展開していく。</p> | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 日本国憲法に対する知識・理解を深め、主権者たる国民を教育する立場あるいは福祉に関わる立場においてその知識が生かせるようにする。 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | | | | | | | |
| | | ○ | ○ | | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. (1)はじめに (2)法律を学ぶ 2. (3)憲法とは何か (4)憲法の特質 3. (5)立憲主義と現代国家、法の支配 4. (6)国民主権の原理 (7)基本的人権の原理 5. (8)基本的人権の限界 6. (9)包括的基本権と法の下での平等 7. (10)精神的自由権 8. (11)経済的自由権、人身の自由 9. (12)受益権、参政権、社会権 (13) 統治の原理 1 10. (14) 国家機関の見学ないしグループ研究 11. (15)国会、統治の原理 2 12. (16)内閣 13. (17)裁判所 14. (18)地方自治 (19)憲法保障 15. (20)平和主義の原理 | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | <p>大教室での授業となるため、講義が主体とならざるを得ないが、法的な物の考え方に習熟してもらいたいので授業中に随時質問を行うことがある。</p> <p>事前に、使用テキストの予定する講義分野を読んでくること。</p> <p>事後に、もう一度読み直すことで、疑問点がでたら次の講義にぶつけてもらいたい。</p> | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 事前に1時間程度、事後に30分程度は、使用テキストの講義分野に目を通す | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 90 | 憲法ないし憲法的なものの考え方に関する知識の涵養度 | | | | | | | |
| | 実践 | 0 | | | | | | | | |
| | レポート | 5 | 課題について適切に検討しているか | | | | | | | |
| その他 | 5 | 授業に真摯に取り組んでいるか | | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | レポートについては、確認し、返却する。その際解説するので、理解を確実にすること。 | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 「伊藤真の憲法入門」 伊藤真 日本評論社 | | | | | | | | | |
| 参考書 | <p>「憲法」伊藤正巳</p> <p>「憲法 第三版」芦部信喜、高橋和之改訂、岩波書店</p> <p>「世界の憲法集」阿部照哉、畑博行編、有信堂</p> | | | | | | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|---|-------|-------|-----|-----------|
| 対象学生 | 基礎（人間と社会） 12 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 倫理学 B21106 | 後期 | 講義 | 2 | |
| 担当教員 | 奥井 現理 | | | | |
| 授業の概要 | 人それぞれでしょうか？個人の権利でしょうか？と言いながら自分の好みだけは頑強に譲らない声の大きい人が得をする、よくわからないものには近づかずに安全そうで過剰な防衛をすることで面倒が増える、本人がいいと言っているんだからいいでしょう、で納得せざるをえない……こういう状態の社会を「相対の森」と呼びましょう。この講義が提示するのは、こうした現代社会という窮屈で生きづらい「相対の森」から脱出する試みです。 | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・好き嫌い、善い悪い、正しい正しくないの区別を意識する思考の質を実現することができる。 ・善い悪いの根拠を考えることができる。 ・何らかのフィールドにおける自らの指針を形成する糸口をつかむことができる。 | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | | |
| | | ○ | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. これまで私は何を信じてきたのか——相対の森から脱出する試み 2. 人の心は利己的にできているのか 3. 道徳は結局は利己的な目的をもつのか 4. 宗教は道徳の根拠になるのか 5. 異文化の道徳規範は尊重されるべきか 6. フェミニズムによるケア倫理を倫理的に評価しよう 7. 生殖医療・人工妊娠中絶を倫理的に評価しよう 8. エンハンスメント（医療による肉体増強・改造）を倫理的に評価しよう 9. 臓器移植を倫理的に評価しよう 10. 万能細胞・クローン技術を倫理的に評価しよう 11. 教育の倫理学 12. 家族の倫理学 13. 環境の倫理学 14. 終末期の倫理 15. 相対の森の出口で——これからの私は何を指針にするのか | | | | |
| 事前・事後学習について | 特別な事前学習・事後学習を課すことは原則としてありません。ただ、配付した資料をノートに貼り付ける等の、学習成果が散逸しないようにするための作業は怠りなく行ってください。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 各自、必要ならば90分程度参考書等を学習して下さい。 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 0 | | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 100 | 理解・思考 | | |
| | その他 | 0 | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 私語は厳禁です。 | | | | |
| 使用テキスト | 毎回、資料を配付します。 | | | | |
| 参考書 | ジェームズ・レイチェルズ、スチュアート・レイチェズ著 次田憲和訳『新版 現実を見つめる道徳哲学—安楽死・中絶・フェミニズム・ケア—』ほか（授業で提示する） | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|---|-------|-------------------|------|-----|-----------|--|--|--|--|
| 対象学生 | 基礎（人間と社会） 12 | | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | |
| 科目名 | 介護福祉の基本 B21107 | | 前期 | 講義 | 2 | | | | | |
| 担当教員 | 太和田 雅美・田部 一順・村山 真紀子 | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 超高齢社会となった日本において、介護問題は、誰もが身近なところで感じていると思います。本授業では、介護と福祉についての基本となる考え方と、介護に関する基礎的知識・技術を学びます。ご家族が介護が必要になった時、少しでも知っていることが役に立つことがたくさんあります。介護福祉士実務者研修を受講する人は、必修となります。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・尊厳の保持、自立支援、ノーマライゼーション等、福祉の基本理念を理解できる。 ・介護に関する基礎的知識・技術及び対人援助のコミュニケーションについて理解できる。 ・介護に関する基礎的技術を身につける。 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | | | | | | | |
| | ○ | ○ | ○ | | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護の基本 人間の多様性の理解、尊厳の保持と自立支援、基本理念の理解 2. 介護福祉に関する倫理 倫理とは何か 介護福祉士の職業倫理 3. 生活支援と ICF ICF を理解し、具体的な生活支援につなげる 4. コミュニケーション技術 介護におけるコミュニケーション 5. 生活支援技術① 食事の介護 6. 生活支援技術② 入浴の介助 7. 生活支援技術③ 着脱の介助 8. 生活支援技術④ 整容の介助 9. 生活支援技術⑤ 移動・移乗の介助、ボディメカニクス 10. 生活支援技術⑥ 移動・移乗の介護-「持ち上げない介護」-リフト 11. 生活支援技術⑦ 排泄の介助1 12. 生活支援技術⑧ 排泄の介助2（演習） 13. 介護過程Ⅰ 介護過程の基礎的理解 介護過程の意義・目的 14. 介護過程Ⅱ 介護過程の展開の実際① 具体的事例の理解 15. 介護過程Ⅱ 介護過程の展開の実際② 具体的事例の理解 | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 介護福祉の基本的な学習になります。毎回授業の終わりに小テストを行い、それを全体の評価とします。欠席をした場合も、テストを取りに来てやって提出していただければ加点になりますので、必ず取りにきてください。実技の授業は介護実習室になります。動きやすい服装で、かかとのある上履きを持参してください。 | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 実務者研修受講者は、併せて通信の提出課題に取り組んでください。（各課題2時間程度） | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 70 | 各回小テストを行う。(5×14) | | | | | | | |
| | 実践 | 0 | | | | | | | | |
| | レポート | 30 | 介護を実践する時に大切にしたいこと | | | | | | | |
| その他 | 0 | | | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 実務者研修のスクーリング（1～3日目）にあてられますので、実務者研修受講生は必ず受講してください。実務者研修の課題は添削し、回答例と共に返却します。小テストは採点して、レポートはコメントを付けて返却します。 | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 毎回、プリントを配布します。 介護福祉士実務者研修テキスト第2巻（中央法規出版） 介護福祉士実務者研修受講者は指定のテキストを持参してください。 | | | | | | | | | |
| 参考書 | 介護職員等実務者研修テキスト（中央法規出版） *「介護福祉士実務者研修」（通信課程）を受講する人は、上記テキストの購入が必要ですが、受講料に含まれていますので、受講手続きをすれば初日に配布されます。 | | | | | | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|--|--------|-------------|-----|-----------|
| 対象学生 | 基礎（自然と生活） 12 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 生活と化学 B31108 | 前期 | 講義 | 2 | |
| 担当教員 | 塚田 和也 | | | | |
| 授業の概要 | 化学は物質をミクロな目で捉えるため、苦手意識をもつ人が多い。しかし、実は生活に関わるすべての物質は元素記号で表すことができる。また、各専門を学ぶためには基礎化学の知識が必要である。本講義では、基礎化学の知識を学ぶと共に、安全で健康的な環境にやさしい生活を営むために必要な、空気・水・食物・住居・衣類・洗剤・プラスチック等についての科学的な知識を学ぶ。さらに、多角的なもの見方・考え方を身に付け、自分で情報を整理し、物を選択する力を養う。 | | | | |
| 到達目標 | 化学的な基礎知識を習得すると共に、生活に必要なもの（空気・水・食物・金属・セラミックス・衣類・洗剤・プラスチック）について、科学的なもの見方を身に付ける。さらに、健康で安全な生活であるとともに環境に配慮した生活を送るために、様々な情報を多角的にとらえ、判断する力を身に付ける。 | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | | |
| | | ○ | | | |
| 授業計画 | 1. 化学の基礎① 化学という学問、元素について 2. 化学の基礎② 原子の構造・性質 3. 化学の基礎③ 元素の周期表 4. 化学の基礎④ イオンの成り立ちとイオン結合 5. 化学の基礎⑤ 共有結合・金属結合・分子間にはたらく力・結合の強さ 6. 化学の基礎⑥ 物質量 7. 化学の基礎⑦ 化学反応式 8. 化学の基礎⑧ 酸と塩基の反応 9. 化学の基礎⑨ 化学反応と熱 10. 生活の中の化学① 酸性と塩基性の化学 11. 生活の中の化学② 衣服の化学 12. 生活の中の化学③ 洗濯の化学・水の化学 13. 生活の中の化学④ プラスチックの化学・料理の化学 14. 生活の中の化学⑤ コロイドの化学・薬の化学 15. 生活の中の化学⑥ 化石資源の化学・身近な材料（セラミックス 金属）の化学 | | | | |
| 事前・事後学習について | 専門科目を学ぶために必要な化学の基礎知識を身に付けるために、元素記号に慣れ、物質を化学式で表すことができるよう予習・復習をしてください。そして、化学反応式も理解できるよう練習しましょう。また、身の回りのものについて、成分表示を気にしたり、添加物やシャンプー成分などにも関心を持ちましょう。生活に必要な物質の性質を理解し、健康・環境を保持するために必要なことを調べてまとめ、人に伝える能力を身に付けましょう。そのためにも、化学の基礎について必要な知識を習得するため、講義毎の課題に取り組みましょう。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 前半の化学の基礎では、授業計画を確認し、使用するテキストや高校の教科書の該当する内容を予習してください（30分程度） 後半の生活の中の化学においては、あらかじめ授業プリントを配布するので記入してきてください（毎回およそ1時間）。 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 0 | | | |
| | 実践 | 50 | 授業プリント、小テスト | | |
| | レポート | 50 | レポート | | |
| | その他 | 0 | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 授業に集中できるように、事前にテキストや参考書等を読んで予習してください。（毎回1時間程度） | | | | |
| 使用テキスト | 「身の回りから見た化学の基礎」 芝原寛泰・後藤景子 化学同人 | | | | |
| 参考書 | 教養としての基礎化学：身につけておきたい基本の考え方 馬場 正昭（著）化学同人 まるわかり！基礎化学（教養基礎シリーズ） 田中永一郎（著）、松岡雅忠（著）南山堂 基礎化学（栄養科学イラストレイテッド） 土居 純子（著）羊土社 | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|--|--------|---------------|-----|-----------|
| 対象学生 | 基礎（自然と生活） 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 生物学 B31109 | 前期 | 講義 | 2 | |
| 担当教員 | 高木 一代 | | | | |
| 授業の概要 | 専門科目を学ぶために必要な生物の知識を学ぶ。そのためには化学的な知識も必要となるため、それらも合わせて学ぶこととする。生物体を構成する成分や細胞、組織、物質輸送のしくみ、遺伝子の設計図をもとにたんぱく質が作られるしくみ、恒常性を保つしくみ（神経系・内分泌系）、外敵から身を守るしくみ（免疫系）などについて学習する。 | | | | |
| 到達目標 | 専門科目（生化学や生理学など）を学ぶために必要な、生命現象を理解するための知識を得ることを目標とする。 | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | | |
| | | ○ | | | |
| 授業計画 | 1. 第1章 世界を構成する物質 2. 第2章 生体物質 3. 第3章 身体内外の圧力 4. 第4章 細胞 (1) いろいろな細胞 (2) 細胞膜 5. (3) 核 (4) 細胞小器官 6. (5) 栄養と代謝 7. 第5章 電気 8. 第6章 遺伝情報 9. 第7章 細胞分裂 10. 第8章 人体の階層構造 (1) 組織 (2) 器官 (3) 器官系 11. 個体の維持に関する生物学 (1) 血液を知る (2) 肝腎なはなし 24時間休みなくはたらくタフな臓器 12. (3) 自律神経とホルモン からだの自動調節 13. 第9章 ホメオスタシス 14. 第10章 生体防御機構と免疫 (1) 非特異的生体防御機構 (2) 特異的生体防御機構(免疫) (3) 自己免疫疾患 15. 第11章 成長と老化 | | | | |
| 事前・事後学習について | テキストを読んで予習してください（毎回およそ1時間）。 授業を受けた後、主要なところをノートにまとめてください（毎回およそ1時間）。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 毎回、予習・復習にそれぞれ1時間程度 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | | | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 100 | 課題に適合した内容かどうか | | |
| | その他 | 0 | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 授業中または授業後に質問があれば、出席カードに記入してください。次の授業時に全体に対して解説します。 毎回の授業のまとめをその都度行っておきましょう。 | | | | |
| 使用テキスト | 解剖生理や生化学をまなぶ前の 楽しくわかる 生物・化学・物理 岡田隆夫（著）羊土社 ブルーバックス 大人のための生物学の教科書 株式会社講談社 | | | | |
| 参考書 | 系統看護学講座専門基礎 生化学 人体の構造と機能2 畠山鎮次 医学書院 イラストでまなぶ生化学 前場良太 医学書院 ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能② 臨床生化学 MCメディア出版 生理学・生化学につながる ていねいな化学 羊土社 解剖生理や生化学をまなぶ前の楽しくわかる 生物・化学・物理 羊土社 | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|--|--------|--------------------------|-----|-----------|
| 対象学生 | 基礎（自然と生活） 12 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 環境と人間 B31110 | 後期 | 講義 | 2 | |
| 担当教員 | 高木 一代 | | | | |
| 授業の概要 | 環境の変化は私たちの生活を大きく変える可能性があります。この授業では、①人の成長に、身近な環境（家庭環境や地域社会）がどのように関与しているのか、②地球の環境問題と私たちの生活との関わり、③急激な環境変化（災害など）への対応について学びます。 | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境は人にさまざまな影響を与えていると感じることができる ・ 地球の環境問題と私たちの生活を関連づけて考えられる ・ 急激な環境変化への対応を考えられる | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | | |
| | | ○ | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 人間と環境との関わり（私の常識・非常識） 2. 地球の歴史と温暖化の現状 3. 地球環境を考える① ～ゴミ問題～ 4. 地球環境を考える② ～日本の災害の歴史～ 5. 地球環境を考える③ ～水とのかかわり～ 6. 地球環境を考える④ ～紫外線～ 7. 地球環境を考える⑤ ～外部講師の先生を予定しています～ 8. 環境変化への対応① ～炊き出し計画 献立を考えてみよう～ 9.-10. 環境変化への対応② ～炊き出し体験 パッククッキング（2コマ連続）～ 11. 救命救急法① ～人工呼吸、AEDの使い方～ 12. 救急救命法② ～三角巾の使い方～ 13. 環境変化への対応③ ～避難を考える（クロスロードゲーム体験とマイタイムラインの作成）～ 14. 環境変化への対応④ ～災害時における避難所生活を考える～ 15. まとめ | | | | |
| 事前・事後学習について | 環境問題に関する新聞等の報道に関心を持ち、環境省などのホームページへも積極的にアクセスし最新の情報を収集する。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 環境日誌に、家庭で環境保全活動を行なった記録の記入（毎日）と、新聞やインターネットなどから環境に関連する記事を探し、環境日誌に添付する（一週間で一つ）のに約90分程度必要。 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 0 | | | |
| | 実践 | 100 | 授業への取り組み 50%、課題（環境日誌）50% | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 0 | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 感染症の状況により授業内容を変更する場合があります。また、対面授業が難しい状況になった場合や授業内容により、遠隔授業または授業を補講日に変更しておこなう場合があります。 炊き出し体験は白衣またはエプロン、三角巾、手ふき用のタオルを持参して下さい。 | | | | |
| 使用テキスト | なし（授業時にプリントを配布します） | | | | |
| 参考書 | 「環境白書」環境省 | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|--|--------|--------------------|-----|-----------|
| 対象学生 | 基礎（自然と生活） 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 数学基礎 B31112 | 後期 | 講義 | 2 | |
| 担当教員 | 宮澤 傳二 | | | | |
| 授業の概要 | この授業では、基本的な数学の問題を解くことを通して論理的に考える力を養う。 | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 数学的能力を高める。 ・ 就職試験に対応できる数学力を身に付ける。 | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | | |
| | | ○ | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、SPI 対策 1 料金の割引、代金の清算 2. SPI 対策 2 分割払い、損益算 3. SPI 対策 3 速さ、集合 4. SPI 対策 4 順列・組合せ、確率 5. SPI 対策 5 推論 [1] [2] 6. SPI 対策 6 推論 [3] [4] [5] 7. SPI 対策 7 資料の読み取り、グラフと領域 8. SPI 対策 8 ブラックボックス、流れと比率 9. 基礎確認 1 計算問題、割合と比 10. 基礎確認 2 方程式、因数分解 11. 基礎確認 3 関数、いろいろな問題 (1) 12. 基礎確認 4 平面図形、作図 13. 基礎確認 5 合同と相似、円の性質 14. 基礎確認 6 空間図形、三平方の定理 15. 基礎確認 7 場合の数と確率、いろいろな問題 (2)、まとめの問題練習 | | | | |
| 事前・事後学習について | <p>事前：授業前までにテキストを一読すること。</p> <p>事後：解けなかった問題を再度解いて、数学的な考え方を確認する。</p> | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 30～40 分程度。 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 50 | 講義した数学基礎の内容に関する理解度 | | |
| | 実践 | 50 | 主体性：課題への取り組み方状況 | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 0 | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | <p>繰り返し、解けなかった問題に挑戦し解法を身につける。</p> <p>講義で扱った問題用紙は、採点・添削し返却。</p> | | | | |
| 使用テキスト | <p>文系女子大学生の数学演習 東洋英和女学院大学学習サポートセンター 編 誠文堂新光社</p> | | | | |
| 参考書 | | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|--|-------|--------------------|-----|-----------|
| 対象学生 | 基礎（外国語） 12 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 英語 B41113 | 前期 | 演習 | 2 | |
| 担当教員 | ジョナサン・ヒギンズ | | | | |
| 授業の概要 | 応用のきく基礎力をつけることに重点を置く。家庭学習よりも授業に参加して、その場で集中した演習を行い、英語の持つ独特なイントネーションやアクセントを身につけてゆく。 | | | | |
| 到達目標 | 基礎会話をテキストで学び、それをもとに、“買い物をする”“レストランの場面”“友達と趣味や興味のある事柄について語り合う”といった、日常の様々なシチュエーションを短い文章を用いて会話することができる。 | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | | |
| | | ○ | ○ | | |
| 授業計画 | <p>基本会話をテキストで学び、それをもとにレストランにて、買い物をする、友達と趣味や興味のある事柄について語り合うといった日常の様々なシチュエーションを短い簡単な文章で会話してみる。グループごとに役を割り当て発表する。</p> <p>授業は次の3段階をふまえて行われる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グループごとに場面設定とテキストを考える。 2. 作成されたテキストの修正を教師がする。 3. それぞれに発表する <ol style="list-style-type: none"> 1. 1. The Family 2. People You Know 2. 5. Life 10. Accidents 3. 11. Shops 14. Kitchen 4. 15. Food 16. Heath 5. Review 1 6. 19. Shapes 20. Measurements 25. Hotels 7. 26. Travelling 28. Weather 8. 33. Using Your Hands 34. Do and Make 9. 36. Phrasal Verbs 1 10. Review 2 11. 37. Phrasal Verbs 2 12. 38. Thanking 13. 39. Giving Directions 14. 40. On the telephone 15. Review 3 | | | | |
| 事前・事後学習について | 取り上げるレッスンは多くないですが、イントネーションやリズムを考えて繰り返し練習してみましょう。この授業で目指しているのは流暢で自然な英語を話すことです。家庭学習の時間を多く割く必要はありませんので、授業時間内にパートナーと練習して小テストに備えて下さい。何度直されてもがっかりしないで、果敢に挑戦することが上達の早道です。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 授業の内容に合わせて必要な時間準備してください。 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 50 | 授業内で会話テストを行います。 | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 50 | 授業内でリスニングテストを行います。 | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | わからないことは積極的に質問してください。 | | | | |
| 使用テキスト | Daily English for College Students Book 1 (Glennis Pye "Vocabulary in Practice Book 3", CAMBRIDGE.) | | | | |
| 参考書 | 和英・英和辞書 | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|--|--------|--------------------|-----|-----------|
| 対象学生 | 基礎（外国語） 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 英会話 B41114 | 1年後期 | 演習 | 2 | 必修 |
| 担当教員 | ジョナサン・ヒギンズ | | | | |
| 授業の概要 | 応用のきく基礎力をつけることに重点を置く。家庭学習よりも授業に参加して、その場で集中した演習を行い、英語の持つ独特なイントネーションやアクセントを身につけてゆく。 | | | | |
| 到達目標 | 基礎会話をテキストで学び、それをもとに、“買い物をする”“レストランの場面”“友達と趣味や興味のある事柄について語り合う”といった、日常の様々なシチュエーションを短い文章を用いて会話することができる。 | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | | |
| | | ○ | ○ | | |
| 授業計画 | <p>基本会話をテキストで学び、それをもとにレストランにて、買い物をする、友達と趣味や興味のある事柄について語り合うといった日常の様々なシチュエーションを短い簡単な文章で会話してみる。グループごとに役を割り当て発表する。</p> <p>授業は次の3段階をふまえて行われる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グループごとに場面設定とテキストを考える。 2. 作成されたテキストの修正を教師がする。 3. それぞれに発表する <p>1-3. At Immigration and Customs 4-5. Getting to a Hotel 6-8. Taking the Subway 9-10. At a Fast-Food Restaurant 11-12. Shopping 13-15. At the Airport</p> | | | | |
| 事前・事後学習について | 取り上げるレッスンは多くないですが、イントネーションやリズムを考えて繰り返し練習してみましょう。この授業で目指しているのは流暢で自然な英語を話すことです。家庭学習の時間を多く割く必要はありませんので、授業時間内にパートナーと練習して小テストに備えて下さい。何度直されてもがっかりしないで、果敢に挑戦することが上達の早道です。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 授業の内容に合わせて必要な時間準備してください | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 50 | 授業内で会話テストを行います。 | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 50 | 授業内でリスニングテストを行います。 | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | わからないことは積極的に質問してください。 | | | | |
| 使用テキスト | Takuji Shimada, Bill Benfield(2019)“Travel English at Your Fingertips”, SEIBIDO. | | | | |
| 参考書 | 和英・英和辞書 | | | | |

| | | | | | | | | | |
|-------------------|---|-------|----------------------------|------|-------|-----|-----------|--|--|
| 対象学生 | 基礎（自己表現） 12 | | | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | |
| 科目名 | スポーツと健康（幼児教育学科） B51116 | | | 通年 | 講義・実技 | 2 | 必修 | | |
| 担当教員 | 松本 彰之 | | | | | | | | |
| 授業の概要 | ・スポーツ・運動の実践を通して受講生の健康増進を図るとともに、健康とスポーツ・運動との関連、安全に運動を行うための方法について講義を行う。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ・運動に楽しく参加することができる。 ・他者と協力しながら、スポーツを行うことができる。 ・健康的なライフスタイルについて理解する。 ・安全にスポーツを行う態度・知識を身につけることができる。 | | | | | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | | | | | | |
| | | | ○ | | | | | | |
| 授業計画 | <p>（前期）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実技 オリエンテーション 2. 実技 選択実技 3. 実技 選択実技 4. 実技 選択実技 5. 実技 選択実技 6. 実技 選択実技 7. 実技 選択実技 8. 講義 健康推進のためのライフスタイル① 9. 講義 健康推進のためのライフスタイル② 10. 講義 ライフスタイルと生活習慣病ー運動不足と高血圧ー 11. 講義 ライフスタイルと生活習慣病ー糖尿病と脂質異常症ー 12. 講義 運動処方 13. 講義 運動とストレス① 14. 講義 運動とストレス② 15. 講義 運動とストレス③（演習） <p>（後期）</p> <ol style="list-style-type: none"> 16. 実技 選択実技 17. 実技 選択実技 18. 実技 選択実技 19. 実技 選択実技 20. 実技 選択実技 21. 実技 選択実技 22. 実技 選択実技 23. 実技 選択実技 24. 実技 選択実技 25. 講義 生涯スポーツ① 26. 講義 生涯スポーツ②（演習） 27. 講義 安全に運動するために① 28. 講義 安全に運動するために② 29. 講義 安全に運動するために③ 30. 講義 健康的な生活を目指してートレーニング法ー | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 選択実技はバスケットボール・バレーボール・バドミントン・卓球・テニスなどから1つを選択して行います。事前に実施種目を連絡するので、各種目のルールなどを確認してください。なお、実技・講義ともに受講人数や状況、天候によってシラバスの内容が多少変更することがあります。 | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 授業前には教員から支持された項目について資料などを確認しておいてください（30分程度） | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | |
| | 試験 | 0 | | | | | | | |
| | 実践 | 50 | 授業への参加態度、意欲、パフォーマンス | | | | | | |
| | レポート | 50 | スポーツ・健康・保健体育等をテーマとした最終レポート | | | | | | |
| その他 | 0 | | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 実技を伴う科目になります。実技の場合は必ず運動しやすい服装、場に応じたシューズを使用すること。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 必要に応じて資料を配布します。 | | | | | | | | |
| 参考書 | 特になし。 | | | | | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|---|-------|--|-----|-----------|
| 対象学生 | 基礎（自己表現） 12 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 音楽（基礎） B51118 | 前期 | 講義 | 2 | |
| 担当教員 | 若原 真由子 | | | | |
| 授業の概要 | 現在われわれが一般教養として学ぶ「音楽」とは西洋音楽（クラシック）であることを踏まえ、西洋芸術音楽の成立や歴史について知識を得て、作曲家自身の人となりやその当時の歴史的の背景を学び、クラシック音楽に親しむ。 | | | | |
| 到達目標 | 西洋音楽の基礎知識として、西洋音楽史の大きな流れや、作曲家、有名な楽曲等に触れることにより、敷居が高いように思われる西洋音楽（クラシック）に親しみを持って、より音楽を楽しめるようになる。 また普段あまり意識されないが、確実に我々に影響を与えている音や音楽の存在に気づき、さまざまな視点から音楽をとらえられるようになる。 | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | | |
| | ○ | ○ | ○ | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入、西洋音楽（クラシック）とは何か、西洋音楽史概観、使用される楽器の紹介 2. 交響曲/ベートーヴェン、ブラームス、マーラー 3. 交響曲/ブラームス、マーラー他、古典からロマン 4. 声楽曲①/シューベルト、シューマン 5. 声楽曲②/ドイツリート以外の世界の歌カンツォーネ（伊）、シャンソン（仏）等 6. オペラ①、声楽+管弦楽+演劇+美術等総合芸術として/ヴェルディ、プッチーニ 7. オペラ②/イタリアオペラとドイツオペラ/ワーグナー 8. 独奏曲①、ピアノ曲、ヴァイオリン曲等/ショパン、 9. 独奏曲②/リスト、ドビュッシー 10. 協奏曲①、独奏楽器（ピアノ）+管弦楽/ラフマニノフ、チャイコフスキー 11. 協奏曲②、独奏楽器（ヴァイオリン）+管弦楽/メンデルスゾーン・バルトルディ 12. 宗教曲①、バロック/バッハ、ヘンデル 13. 宗教曲②/古典からロマン 14. オールマイティな作曲家/モーツァルト、R. シュトラウス 15. 音楽療法と西洋音楽の関係 | | | | |
| 事前・事後学習について | 特に予習は必要ありませんが、授業で用いた楽曲や紹介した楽曲については再聴してみてください。また、TVやBGMなど、身の回りでは意外と多くのクラシック音楽が用いられています。そのような曲にも耳を傾け、興味を向けてほしいと思います。西洋音楽史の流れに沿って紹介していくので、授業がすべて終了する頃には大まかな時代の名前と流れが理解できているように、随時復習しておくことを求めます。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 次回に取り上げる作曲家やお薦めの曲などを紹介しますので、聴いてみてください。10分～30分程度。 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 0 | | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 70 | 音楽だけではなく社会的背景を含めた歴史の理解について、資料から自らの見解を述べることを求める | | |
| | その他 | 30 | 授業毎にレポートを作成、提出 | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | レポートは添削の上返却します。 | | | | |
| 使用テキスト | 特になし。 必要なプリントを随時配布する。 | | | | |
| 参考書 | 授業中に紹介する。 | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|---|-------|-----------------------------|-----|-----------|
| 対象学生 | 基礎（自己表現） 12 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 美術 B51119 | 後期 | 演習 | 2 | |
| 担当教員 | 青木 千恵美 | | | | |
| 授業の概要 | 身の周りにある様々なモノに関わるテクスチャー、色彩について学ぶ。サンプリングを通してこれらの要素を改めてとらえ、味わい、また、資料の解説などにより理解を深める。自身の感性にフィットするテクスチャーや配色、心地よく感じられる生活空間などについて意識し、考える。 | | | | |
| 到達目標 | ケント紙の特徴を活かし、様々なテクスチャーを作成することができる。 色彩の分類、配色の基本的な考え方について理解し、資料や配色のサンプルを作成することができる。 | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | | |
| | ○ | | ○ | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、身の周りからのテクスチャーの採集 2. ケント紙のテクスチャーバリエーションの作成① 3. ケント紙のテクスチャーバリエーションの作成② 4. テクスチャーの採集、バリエーションの作成に関する合評会 5. 色彩の分類 6. 色彩の三要素 7. トーン分類① 8. トーン分類② 9. 色の対比 10. 配色の基本的な考え方① 色相配色 11. 配色の基本的な考え方② トーン配色 12. 色彩の心理的効果 13. 言葉のイメージを表現する配色① 14. 言葉のイメージを表現する配色② 15. 合評会 まとめ | | | | |
| 事前・事後学習について | 身の周りにあるモノや自然の中にある色や形、テクスチャー等を改めて観察し、とらえてみてください。 課題およびワークシートのファイリングは、自身の興味、関心が詰まったものになるよう、課題に取り組んでください。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 素材の収集、構成の試行錯誤等に対して積極的に取り組み、自身の発想力、構成力を高めていきましょう。(30分程度～) | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 0 | | | |
| | 実践 | 70 | サンプリング、ワークシートの内容の充実度、資料の完成度 | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 30 | 課題への取り組みの姿勢 | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 提出された課題およびワークシートに対して、コメントを記載し返却します。 演習の内容から、受講人数については、30名までとします。(登録において、30名以上となった場合は抽選とします。) | | | | |
| 使用テキスト | プリントを配布します。材料費として1000円を集金します。 | | | | |
| 参考書 | 必要に応じて紹介します。 | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|--|--------|--------------------|-----|-----------|
| 対象学生 | 基礎（キャリア） 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | キャリアデザイン B61120 | 1年前期 | 演習 | 1 | |
| 担当教員 | 菱田 博之・青木 千恵美 | | | | |
| 授業の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 生きることや人生について、また職業とは何かについて演習やグループディスカッションを軸に論議し、将来的な生き方を展望する。 ・ 保育現場から実践者を講師に招き、現場からの生の声を聴きながら、保育に関する仕事の基礎を確認する。（ボランティアやインターンシップなど、学外での実践的な学びについてもその方法を解説し推奨する。） ・ 学生生活を充実したものにし、社会へのスムーズな移行に向けて、自身の生き方、働き方の見取り図（キャリアプラン）を作成する。 | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育に関する仕事についての基礎的事項を理解する。保育者としての職業観を身につける。 ・ ディスカッションに参加し、自分の意見を主張できる。また、他者の意見を聞き、自分の意見を修正できる。 ・ 保育者になるための学びを体系的に理解する。 ・ 自分のキャリアプランが作成でき、他者の前で発表できる。 | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | | |
| | ○ | ○ | ○ | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の学びについて：保育者となるための学びの系統的理解 2. 保育者としての特性についての自己理解 3. キャリアデザインのために①資格・免許取得のために必要なこと 4. 保育の学びについてー学びマップの作成ー 5. 作成した学びマップを用いた演習 6. 保育者としてのキャリア①変化の時代におけるキャリアプランとは 7. 保育者としてのキャリア②社会人としてのマナー講座（外部講師を交えて） 8. キャリアデザインのために②履歴書の記入 9. 保育者としてのキャリア③保育者の仕事（外部講師を交えて） 10. 保育者としてのキャリア④児童発達支援の仕事（外部講師を交えて） 11. 保育者としてのキャリア⑤ようこそ先輩！（外部講師を交えて） 12. キャリアデザイン作成① 13. キャリアデザイン作成② 14. キャリアデザイン発表 15. 履修カルテの作成 | | | | |
| 事前・事後学習について | 授業の後には、ワークシート・配布資料について確認し復習をしておくこと。また、外部講師を迎える授業の前には、予め質問したい内容を考えておくこと。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | ワークシート・配布資料を確認し復習をしておくこと。（毎回 30 分程度） 外部講師への質問を考えておくこと。（都度 30 分程度） | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 0 | | | |
| | 実践 | 60 | キャリアデザインの発表 | | |
| | レポート | 40 | 小レポート及びキャリアデザインの内容 | | |
| | その他 | 0 | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | レポート課題に対する添削を行い返却します | | | | |
| 使用テキスト | 久富陽子著 保育の学びスタートブック（萌文書林）、2012年 | | | | |
| 参考書 | 授業で適宜紹介します | | | | |

| | | | | | | | | | |
|-------------------|--|--------|--------------------------|------|------|-----|-----------|--|--|
| 対象学生 | 基礎（キャリア） 1 | | | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | |
| 科目名 | 地域社会学 | B61121 | 前期 | 講義 | 2 | | | | |
| 担当教員 | 武分 祥子 | | | | | | | | |
| 授業の概要 | <p>本学のある飯田下伊那地域と周辺地域についての歴史、特徴、コミュニティの現状を社会学の視座から学びます。その上で、将来、地域で生活し専門職としての役割を果たして行く上で必要な視点を持ち、さらに地域づくりのために自分たちは何ができるかをグループ単位で考えます。様々な学科専攻の学生との交流・取り組みも本授業の課題です。</p> | | | | | | | | |
| 到達目標 | <p>①飯田下伊那地域を中心にこの地域の特徴をさまざまな素材をもとに幅広く学ぶ。 ②将来地域で個人としてよりよく豊かに生き、さらに専門職としての役割を果たしていくために必要な社会学的視点を身につける。 ③自分自身が地域づくりの担い手となることを自覚し、取り組む課題を見出せる。</p> | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | | | | | | |
| | | ○ | ○ | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域社会学を学ぶために（全体のながれ） 2. 飯田下伊那地域の特徴（統計、自然、文化）① 3. 飯田下伊那地域の特徴（統計、自然、文化）② 4. 飯田下伊那地域の歴史①：自然災害を中心に 5. 飯田下伊那地域の歴史②：社会的な出来事より 6. 飯田下伊那の地域づくり、地域づくりの課題 事例① 7. 飯田下伊那の地域づくり、地域づくりの課題 事例② 8. 飯田下伊那の地域づくり、地域づくりの課題 事例③ 9. 飯田下伊那の地域づくり（まとめ）とフィールドワークガイダンス：調査計画の立案にむけて 10. フィールドワークの準備：計画立案 11. フィールドワーク実施 12. フィールドワーク報告の作成 13. フィールドワークのまとめ、発表① 14. フィールドワークのまとめ、発表② 15. 総括～飯田下伊那の課題とそのために自分が取り組む課題 | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | <p>飯田下伊那地域（その周辺も含む）に関わる情報を事前に収集し受講してください。各回において用紙に記入しながら授業を進め、成果物をすべて綴じていきます（ポートフォリオ）。調査ガイダンスをもとに、実際の場所へ行ったり、調査したりしますので、現地まで自分で行けるように事前準備をお願いします。</p> | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | <p>授業回ごとに事前に必要な情報収集を求めます（1時間程度）。</p> | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | |
| | 試験 | 0 | | | | | | | |
| | 実践 | 30 | フィールドワークでの取り組み（①②③） | | | | | | |
| | レポート | 40 | 学んだことを総括した最終レポートの内容（①②③） | | | | | | |
| | その他 | 30 | ポートフォリオへの記入（②③） | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | <p>ポートフォリオを随時確認しますので、毎回持参してください。</p> | | | | | | | | |
| 使用テキスト | <p>特に指定しない。授業中に資料を配布する。</p> | | | | | | | | |
| 参考書 | <p>特に指定しない。</p> | | | | | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|--|-------|--|-----|-----------|
| 対象学生 | 基礎（キャリア） 12 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 基礎コミュニケーション B61122 | 前期 | 講義 | 2 | |
| 担当教員 | 黒岩 長造 | | | | |
| 授業の概要 | コミュニケーションについての基本的な考え方について学ぶ。 自身のコミュニケーション様式を知り、より良い他者とのコミュニケーションとは何かについて実際の体験を通じて考える。 | | | | |
| 到達目標 | <p>（知識・理解）コミュニケーションに関する心理学の基本的な理論を理解できる。</p> <p>（技能・技術）他者とのコミュニケーションを行うことができる。</p> <p>（思考・判断）自身のコミュニケーション様式について考えを深めることができる。</p> <p>（関心・意欲・態度）自身のコミュニケーション様式を見直し、他者とのより良いコミュニケーションについて意欲を高めることができる。</p> | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | | |
| | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：人とコミュニケーションをしてみようⅠ（偏愛マップ） 2. 人とコミュニケーションをしてみようⅡ（一文回し書き・句読点音読） 3. コミュニケーションの基本的な考え方：言語・非言語コミュニケーションと感情 4. 言語コミュニケーションを体験するⅠ（絵のワーク） 5. 言語コミュニケーションを体験するⅡ（話す位置・態度のワーク） 6. 非言語コミュニケーションを体験するⅠ（パーソナルスペースのワーク） 7. 非言語コミュニケーションを体験するⅡ（ボール投げのワーク） 8. 自分を知るⅠ：現在の自分のコミュニケーション様式を把握する（エゴグラム） 9. 自分を知るⅡ：現在の自分の心の状態を把握する（カラーージュ） 10. 自分と他者の違いを知る：カラーージュの共有 11. 他者との関係のなかの自分を知るⅠ：他者からの影響：説得的コミュニケーション 12. 他者との関係のなかの自分を知るⅡ：集団のなかの自分：援助行動・同調行動 13. 他者とコミュニケーションを豊かにする方法Ⅰ：共感力を高めるワーク 14. 他者とコミュニケーションを豊かにする方法Ⅱ：ワークを考えよう 15. ワークの発表会 | | | | |
| 事前・事後学習について | 事前学習：日常生活において、自身のコミュニケーションスタイルについて考えを深めておくこと 事後学習：講義やワークを通して学んだことを日常生活のコミュニケーションに活かす | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 授業に集中できるように事前に毎回1時間程度プリントを読んで理解しておいてください。 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 0 | | | |
| | 実践 | 50 | ・講義やワークの体験から学んだ「コミュニケーション」を高めるための方法を考えることができる。 | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 50 | 毎回のリアクションペーパー：・講義の内容の理解度・自分の感じたことや考えの説明力 | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | レポート課題に対する添削を行い返却します。 | | | | |
| 使用テキスト | 授業で資料を配布します。 | | | | |
| 参考書 | 藤本忠明・東正訓, (2004). ワークショップ 人間関係の心理学. 京都：ナカニシヤ出版. 藤本忠明・栗田喜勝・瀬島美保子・橋本尚子・東正訓, (1993). ワークショップ心理学. 京都：ナカニシヤ出版. 齋藤孝, (2004). コミュニケーション力. 東京：岩波書店. 齋藤孝, (2004). 偏愛マップ. 東京：NTT 出版. | | | | |

| | | | | | | | | | |
|-------------------|---|--------|------------------|----------------------|------|-----|-----------|--|--|
| 対象学生 | 基礎（キャリア） 12 | | | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | |
| 科目名 | 文章表現 | B61123 | | 前期、後期 (通年ではありません) | 演習 | 2 | | | |
| 担当教員 | 中野 裕子 | | | | | | | | |
| 授業の概要 | レポートを書く時の基本的ルールを始め、社会人として必要な実践的文章の書き方(履歴書、小論文、報告書、メール、手紙、敬語の使い方)を学びます。授業の前半でその日の単元の講義、問題演習等をし、後半では課題に取り組み、提出して頂きます。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・実践的文章を書くための基本的な知識を身につける。 ・明快な文章で論理的な思考を組み立て、意図が伝わる文章をかくことができる。 ・ある題材について、情報を整理し、意見文が書けるようになる。 | | | | | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | | | | | | |
| | | ○ | ○ | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 自己紹介文を書いてみよう。 2. 必要な情報の入った文章(5W1H) 絵をみて説明文を書いてみよう。 3. 筋の通った文章の書き方(主語・述語の呼応、接続詞の使い方) 例文を分かりやすく直してみよう。 4. 意見文の書き方① 中心的な柱となる文の作り方 200字で意見文を書いてみよう。 5. 意見文の書き方② 柱を補強する文の作り方 200字で意見文を書いてみよう。 6. 小論文の書き方① 事実と意見を分けて書く 例文の事実と意見を分けて二段落で書こう。 7. 小論文の書き方② 二段落で小論文を書く 与えられた論題を400字で書こう。 8. 小論文の書き方③ 二段落の小論文を書く 与えられた論題を400字で書こう。 9. 小論文の書き方④ 三段落で小論文を書く 事実、意見(賛否)、意見(根拠)の三段落で小論文を書こう。 10. レポートを書く時の3つの法則 事実、意見(賛否)、意見の三段落で小論文を書こう。 11. 履歴書・エントリーシートの書き方 自己PR文を書いてみよう。 12. 手紙・メールの書き方 恩師に手紙を書いてみよう。 13. 敬語の使い方① 尊敬語・謙譲語・丁寧語の問題演習 14. 敬語の使い方② 決められた題材で小論文(400字～600字)を書こう。 15. 決められた題材で小論文(400字～600字)を書こう。 | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 特に必要ありませんが、教員の指示に従って、提出物は必ず時間内に出してください。またプリント類は保管し、就活、レポートの際に活用して下さい。 | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 各自、必要に応じて学習してください。 | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | |
| | 試験 | 0 | | | | | | | |
| | 実践 | 0 | | | | | | | |
| | レポート | 0 | | | | | | | |
| | その他 | 100 | 随時、提出する課題で評価します。 | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 課題の作業は集中して時間内に提出しましょう。課題はその都度、添削して返却しますが、十五回目の課題は提出後、返却しません。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 適宜、資料配布。 | | | | | | | | |
| 参考書 | <p>樺島忠夫『文章表現法－五つの法則による十の方策－』（角川選書 303、1999年3月）</p> <p>藤吉豊・小川真理子『「文章術のベストセラー100冊」のポイントを一冊にまとめたみた』（日経BP、2021年1月）</p> | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|---|--------|---------------------|------|-----|-----------|--|--|--|--|
| 対象学生 | 基礎（キャリア） 12 | | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | |
| 科目名 | 生活の中の経済 | B61124 | 後期 | 講義 | 2 | | | | | |
| 担当教員 | 武分 祥子 | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 本授業は学生が自分の生活のなかの経済動向を、自分たちを取り巻く題材をもとに理解を深めます。普段の生活は何に誰に支えられているのか、労働は社会にとってどのような価値があるのか、社会動向と経済はどのような関係があるのかなど、身の回りの実際の経済状況がわかる新聞やライフイベントなどを取り上げた資料を活用します。学生の要望に応じて教材を検討していきます。最後に本授業で学んだことや考えたことをもとにレポート作成し総括していきます。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | ①自分の生活や人生、職業と関わっていく経済のしくみを理解することができる。 ②身の回りの経済の理解に基づいて、自分の将来をより具体的に設計できる。 ③将来個人としてよりよく豊かに生き、さらに専門職としての役割を果たしていくために必要な経済学的視点を身につける。 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | | | | | | | |
| | | ○ | ○ | | | | | | | |
| 授業計画 | 1. 「生活の中の経済」の全体像～授業の進め方、目標 2. SDGs とは 3. 「長く使う」ことと環境 4. すべての人を幸せにする商品 5. 売り上げを伸ばしみんなが喜ぶ販売 6. イベントの効果 7. 新規ビジネスの評価 8. 将来に向けた顧客づくり 9. 世界を変える取り組み 10. 自分にとっての「持続可能な開発」取り組み～計画立案 11. 取り組み実践① 12. 取り組み実践② 13. 自分の取り組みの評価と課題 14. これからの経済と私たち～発表と意見交換 15. 総括 *本授業はゼミ形式（課題の分担、発表、ディスカッション）で実施するため、4名以上の登録により開講が可能となります。登録者数によっては開講できない場合があります。 | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 受講生の皆さんの考えや知りたいことを中心に授業を進めていきたいと考えています。そのために受講生には必ず毎回のゼミ形式の授業でディスカッションをしてもらいます。授業の事前・事後学習では、経済に関係する情報収集をして、そのことに対して自分の考えをもつよう心がけてください。 | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 事前にテキストを読んでおいてもらいます（1時間程度）。 | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 0 | | | | | | | | |
| | 実践 | 50 | 自分の課題への取り組み（到達目標②③） | | | | | | | |
| | レポート | 40 | 小論文の内容（①②③） | | | | | | | |
| | その他 | 10 | 参加時の取り組み状況、発言等（①③） | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 一人ひとりのレジュメと資料に対して添削しコメントを返却します（口頭、記述）。必要によって複数回やり取りをします。 | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 竹内謙礼、SDGs アイデア全集、技術評論社 | | | | | | | | | |
| 参考書 | 特に指定しない。適宜資料を配布する。 | | | | | | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|---|-------|---|-----|-----------|
| 対象学生 | 基礎（キャリア） 12 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 情報処理（幼児教育学科） B61125 | 後期 | 演習 | 2 | 必修 |
| 担当教員 | 篠田 恵 | | | | |
| 授業の概要 | ICT を活用するための基礎的能力を養うため、アプリケーションの基礎を学び、実務に対応できるスキルを身につける。 また、情報化社会に伴い、ネットワークコミュニケーションの特徴や、セキュリティ対策の必要性についての意識の向上と理解を深める。 | | | | |
| 到達目標 | タッチタイピングを身につける。 修学・研究に最低限必要なスキルおよび、就職後、実務に必要となるスキルを習得する。 また、ネットワーク社会で身につけておくべき基本的なセキュリティーやモラルについても理解する。 | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | | |
| | | ○ | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> Windows 基礎とパソコンの基本、Word の画面構成、タッチタイピング、Teams のクラス登録について 文字入力の方法と文章入力、Teams を活用したアンケート、課題提出、データダウンロードについて セキュリティーと情報モラル、Teams を活用した遠隔授業について Word の基本機能、書式設定、ビジネス文書 様々な文書の作成と編集、表の利用 表現力をアップする機能を使った文書の作成 レポートの作成、Excel の画面構成、データ入力と基本操作 セルの書式設定と印刷準備 ビジネスで使われる計算式と簡単な関数 実務に対応した関数（統計・数学／三角・論理） グラフの作成と編集（目的別グラフの作成） データベースの利用（検索・並べ替え・抽出）、Word と Excel の連携、実技試験（Word, Excel） PowerPoint の基本操作、スライドの作成、グラフィックを利用したアピール方法とアニメーション効果 実技試験解説、Teams を活用した共同作業 タイピングテスト、理解テスト（NESS 利用）、Teams を活用した共同作業（発表） | | | | |
| 事前・事後学習について | タッチタイピングを自分のものにできるよう、毎日少しの時間を取り分けて練習しましょう。毎回復習として課題（必須）を出しますので、早めに取り組み、学んだことを自分のものとしてしっかり身につけましょう。課題提出は Teams を基本とします。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | タイピング練習（毎日 15 分） 授業内で配布する課題（宿題）への取り組み（毎回 20 分～1 時間 30 分程度 個人差あり） | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 80 | オフィスソフトを利用したデータ分析・文書作成の実技試験（第 12 回目）、タイピングテスト（第 15 回目）、NESS 上でプレゼン・情報セキュリティ分野理解テスト（第 15 回目） | | |
| | 実践 | 15 | 毎回の提出課題到達度 | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 5 | 授業に取り組む姿勢 | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | どんな職業に就くとしても、パソコンの基本技術は必ず身につけておきたいものです。この授業では、タッチタイピングといった基本操作から幅広くいくつかのソフトウェアについて学びますが、そのどれもが今後役に立つはずのものです。ぜひ自分のものにしましょう！授業で新しく習得した知識・技能は、毎回宿題として出される課題を通してしっかり復習しましょう（課題提出は必須）。また、実技試験後、14 回目の授業で解説を行いますので、欠席しないようにしてください。 | | | | |
| 使用テキスト | イチからしっかり学ぶ！ Office 基礎と情報モラル Office2019 対応（noa 出版） Teams による遠隔授業の受け方（学校から配布される資料） | | | | |
| 参考書 | 特に指定しない | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|---|-------|----------------|-----|-----------|
| 対象学生 | 基礎（キャリア） 12 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 簿記論 I B61126 | 前期 | 演習 | 1 | |
| 担当教員 | 橋本 幸二郎 | | | | |
| 授業の概要 | <p>楽譜が世界共通の音楽言語であるように、簿記は世界共通のビジネス言語です。本授業では簿記初学者を対象として、会計の基礎である複式簿記を理解することにより社会・経済の仕組みを学んでいきます。</p> <p>簿記は全てのビジネスの原点です。わずかな期間の学習であっても修得したその知識は、必ず皆さんの生涯にわたって役に立ちます。</p> <p>また会計職や事務職を希望される人には不可欠な知識です。</p> <p>本講義は実務家教員の授業で、税理士資格(官報合格)・日商簿記検定1級を有し、関東信越税理士会員である教員が担当する科目である。</p> <p>税務に携わる実務家としての視点を交えて、学生に対して授業を展開していく。</p> | | | | |
| 到達目標 | 複式簿記の理解とともに、社会、経済の仕組みを理解する。 | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | | |
| | | ○ | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 簿記の基礎 2. 商品売買 その1 3. 商品売買 その2 4. 商品売買 その3 5. 現金預金 6. 小口現金・有形固定資産 7. 約束手形・電子記録債権債務 8. その他の取引 その1 9. その他の取引 その2 10. その他の取引 その3 11. その他の取引 その4 12. 仕訳問題・答案練習 その1 13. 仕訳問題・答案練習 その2 14. 仕訳問題・答案練習 その3 15. 仕訳問題・答案練習 その4 <p>※1 特別講義について 本授業では、プロサッカークラブチーム松本山雅 FC の運営会社である(株)松本山雅のご厚意により同社の財務諸表を教材として使用させて頂いています。</p> <p>また、同社取締役の特別講義を予定しています。</p> <p>プロスポーツビジネスを運営する取締役の特別講義は、みなさんが学ぶ簿記が実社会において、どのように必要とされているのかを具体的に知る機会になるはずです。</p> <p>※2 授業計画の変更について 簿記は税法や会計制度の制定改廃により影響を受けます。</p> <p>本授業では最新の制度に基づいて授業を行います。</p> <p>そのため授業計画を変更する場合があります。</p> | | | | |
| 事前・事後学習について | 授業で行った演習問題を次の授業までに再度解き直してみてください。 | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 演習問題の事後学習 (30分から1時間程度) | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 60 | 複式簿記の理解 | | |
| | 実践 | 30 | 演習問題への取り組み | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 10 | 目的意識をもって取り組む姿勢 | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 毎授業において、問題演習を行います。 | | | | |
| 使用テキスト | 滝澤ななみ「簿記の教科書 日商3級 商業簿記 第13版」TAC 出版 | | | | |
| 参考書 | 特に指定はありません。 | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|---|-------|-----------------|-----|-----------|
| 対象学生 | 基礎（キャリア） 12 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 簿記論Ⅱ B61127 | 後期 | 演習 | 1 | |
| 担当教員 | 橋本 幸二郎 | | | | |
| 授業の概要 | <p>資格は見えないアクセサリーです。</p> <p>本授業では、日本商工会議所が実施する簿記検定（日商簿記3級）に合格するために必要な知識と技術を、演習を通じて習得していきます。</p> <p>そのため簿記論Ⅰを修得後に履修することが望まれます。</p> <p>簿記の知識と資格を得ることは、職業の選択肢を増やし、社会での活躍の場を広げます。</p> <p>検定の合格には当然に努力が必要となりますが、将来の自分のために、今の時間を使ってみてください。なお、上位級を目指す学生については別途教材を用意します。</p> <p>本講義は実務家教員の授業で、税理士資格(官報合格)・日商簿記検定1級を有し、関東信越税理士会員である教員が担当する科目である。</p> <p>税務に携わる実務家としての視点を交えて、学生に対して授業を展開していく。</p> | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 会計の基礎である複式簿記を理解し、企業の取引を仕訳により記録することができる。 ・ 簿記一巡の手続きを理解し、財務諸表（貸借対照表及び損益計算書）を作成することができる。 | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | | |
| | | ○ | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 現金過不足 2. 当座借越・貯蔵品 3. 貸倒引当金 4. 固定資産の減価償却・売却 5. 売上原価の算定 6. 前払費用・前受収益・未収収益・未払費用 7. 消費税・法人税等 8. 勘定の締切・剰余金の配当 9. 商品有高帳・伝票会計 10. 答案練習 精算表 11. 答案練習 財務諸表 12. 答案練習 決算整理後残高試算表 13. 答案練習 直前対策その1 14. 答案練習 直前対策その2 15. 答案練習 直前対策その3 | | | | |
| 事前・事後学習について | <p>簿記は「習うより慣れろ」です。</p> <p>事後学習として授業で行った演習問題を解き直してみてください。</p> | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 事後学習として、授業で使用した演習問題の再確認（おおむね30分程度） | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 50 | 基本的な商業簿記の知識と理解 | | |
| | 実践 | 30 | 演習問題への取り組み | | |
| | レポート | 0 | | | |
| | その他 | 20 | 目的意識をもって、取り組む姿勢 | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 毎授業において、演習問題の解答解説を行います。 | | | | |
| 使用テキスト | 滝澤ななみ「簿記の問題集 日商3級 商業簿記 第13版」TAC出版 | | | | |
| 参考書 | 特に指定はありません。 | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|---|-------------|---------------|-----|-----------|
| 対象学生 | 基礎（キャリア） 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 |
| 科目名 | 社会貢献活動 B62128 | 1・2年次 通年 | 演習 | 1 | |
| 担当教員 | 青木 千恵美・三浦 弥生 | | | | |
| 授業の概要 | 本科目では、社会貢献活動（ボランティア活動等）を通し、建学の精神を学びます。 | | | | |
| 到達目標 | 1. 学外における自主的・実践的な活動を通して、社会に貢献することができる。 2. 自身が活動した中で学んだことを、実践レポートにまとめることができる。 | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | | |
| | ○ | ○ | ○ | | |
| 授業計画 | <p>単位認定方法</p> <p>本科目の単位認定は、シラバスに基づいて履修を行う科目ではありません。</p> <p>在学期間中に取り組んだ、実働30時間以上行った社会貢献活動（ボランティア活動・地域支援活動・福祉活動・学習支援活動・NPO活動・国際貢献活動他※1）について単位認定を行います。</p> <p>活動後、実践レポート（※2）と必要書類を教務課へ提出し単位認定を行ってください。必要書類の提出をもって履修登録を兼ねることとします。</p> <p>提出書類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位認定申請書 ・30時間以上の活動実践記録 ・社会貢献活動の実践レポート <p>※1 サークル活動で行うボランティアも該当します。</p> <p>※2 実践レポートは、学外における自主的・実践的な活動を通して学んだこと、身につけたこと等を文章としてまとめてください。</p> | | | | |
| 事前・事後学習について | 活動を行う上で、必要なことを事前に学習してください | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 1時間程度 | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | |
| | 試験 | 0 | | | |
| | 実践 | 0 | | | |
| | レポート | 50 | 活動を通して何を学んだか | | |
| | その他 | 50 | 活動実践記録の取り組み状況 | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | お世話になったボランティア先の責任者（あるいはそれに相当する方）の証明をいただいた活動実践記録を提出してください。態度やマナーも含めての社会貢献活動であることを自覚して、自分の活動を振り返ってください。 | | | | |
| 使用テキスト | 使用しない。 | | | | |
| 参考書 | 特に指定しない。 | | | | |

2. 幼兒教育学科

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|---|-------|---------------------|-------|-----------|-------|-------|--|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | | |
| 科目名 | 教職論 E14001 | 2年後期 | 講義 | 2 | 必修 | | | | | |
| 担当教員 | 波多 彩花 | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 1年次からの学習内容や実習を基にしながら、保育者の役割と倫理、幼稚園教諭と保育士の制度的位置づけ、保育者の協働を学ぶとともに、保育者の専門性について理解を深める。保育者の専門的成長について学び、自分が目指す保育者像を構築する中で、自分の課題を分析する。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・保育者の役割と倫理について理解する。 ・幼稚園教諭と保育士の制度的位置づけについて理解する。 ・保育者の専門性について理解する。 ・保育者の協働について理解する。 ・保育者の専門的成長について理解する。 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | 学修成果4 | 学修成果5 | 学修成果6 | 学修成果7 | | | |
| | | ○ | | ○ | | | ○ | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育者の役割と倫理（役割・職務内容/倫理） 2. 保育者の制度的位置付け（法令等における定義/資格要件等） 3. 保育者の専門性（保育者の資質・能力） 4. 保育者の専門性（養護及び教育の一体的展開） 5. 保育者の専門性（家庭との連携と保護者に対する支援） 6. 教育及び保育の専門性（計画に基づく保育の実践と省察・評価） 7. 教育及び保育の専門性（教育及び保育の質の向上） 8. 保育者の連携・協働（教育及び保育における職員間） 9. 保育者の連携・協働（専門職間及び専門機関との連携）① ＊特別講師 10. 保育者の連携・協働（専門職間及び専門機関との連携）② ＊特別講師 11. 保育者の連携・協働（地域における自治体や関係機関等との連携・協働） 12. 保育者の資質向上とキャリア形成（資質向上に関する組織的取り組み） 13. 保育者の資質向上とキャリア形成（専門性の向上とキャリア形成の意義）＊特別講師 14. 保育者の資質向上とキャリア形成（専門性の向上とキャリア形成の意義） 15. 保育者の資質向上とキャリア形成（組織とリーダーシップ） | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 1年次からの学習内容や実習での経験を振り返り、各回で扱う内容に関して考える。シラバスに明記された内容に該当するテキストの章について事前に一読しておくこと。授業内容のポイントをまとめ、復習をして理解を深める。 | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 予習：テキスト等に目を通してきてください。（30分程度） 復習：授業配布資料、テキスト等で振り返りを行ってください。（30分程度） | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 0 | | | | | | | | |
| | 実践 | 40 | 演習での成果、提出物（ワークシート等） | | | | | | | |
| | レポート | 60 | レポート課題に対する理解と的確な考察 | | | | | | | |
| | その他 | 0 | | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | テキストと配布資料を使用します。テキストは必ず持参してください。 原則として、提出された課題については、添削等を行いません。 | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 大豆生田啓友・秋田喜代美・汐見稔幸 編著『アクティベート保育学②保育者論』ミネルヴァ書房 | | | | | | | | | |
| 参考書 | 必要に応じて、授業内で紹介します。 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|-------------------|---|---------|-----------------------------|--------|--------|-----------|--------|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 1 | | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | |
| 科目名 | 教育学原論 | E 11002 | 1 年前期 | 講義 | 2 | 必修 | | |
| 担当教員 | 奥井 現理 | | | | | | | |
| 授業の概要 | 教育・保育や学校・教師の必要性や使命を考え、教員免許状を有するに値する人間としての姿勢を涵養する科目です。本来教育・保育とは何か、本来教師は何をする職なのかを、深く考えましょう。 | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育・保育の諸概念、教育・保育の意義・使命（本質・目標）を理解し思考することができる ・地域・家庭・学校等における教育・保育を、理念・社会・制度といったものから安全教育や学校・家庭・地域の連携といった方策等さまざまな位相から考察・理解することができる ・過去・現代（西洋・日本）における教育の歴史及び思想を学び、課題を見だし未来の教育・保育を考察することができる | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | 学修成果 5 | 学修成果 6 | 学修成果 7 | |
| | | ○ | | | | ○ | ○ | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ワーク (1) 本講義のガイダンス（課題提示と演習、長期的課題学習の提示ほか） 2. 序章 教育に関する〈ことば〉—その概念の規定 (1) 教育の理念や教育の定義を、まったくのゼロベースから考えてみましょう。 3. 序章 教育に関する〈ことば〉—その概念の規定 (2) 「学校」や「人間形成」とは何であるかを、「教育」概念をもとに考えてみましょう。 4. 「ホモ・エドゥカンドゥス（教育を必要とするヒト）」の来歴 (1) ルソーやカントなどの思想を学び、現代の教育観や子ども観の源流を学習します。 5. 「ホモ・エドゥカンドゥス（教育を必要とするヒト）」の来歴 (2) 「子どもは教育を必要とする」という現代の教育観・子ども観を学習します。 6. 〈学校〉の誕生とその発展 「学校」の誕生期から近代までの社会の変化・歴史的経緯及び思想を振り返ります。 7. ワーク (2) 新しい課題提示と演習ほか 8. 公教育の黎明と受容過程——日本の学校教育 (1) 日本の公教育制度誕生から発展の歴史的経緯を学び、その教育観・子ども観の形成された歴史的・思想的経緯を振り返ります。 9. 教育改革の動向と背景——日本の学校教育 (2) 平成以降の教育改革は、はたしていかなる教育理念や思想・制度の下に行われているのかを考察します。その際「学校・家庭・地域の連携」という方策で取り組まれる教育活動（安全教育・対応含む）を具体的に取上げます。 10. 生徒指導上の諸問題と教員の現在 学校安全や児童虐待をはじめとする具体的な課題を取扱い、考察します。乳児～児童への虐待問題への対応や、学校安全への対応等に、学校・家庭・地域で連携していかに取り組むべきかを考察します。 11. ワーク (3) 新しい課題提示と演習ほか 12. 「教育を必要とする子供」の現実 (1) 実際には、子どもはどのように知識や技能を身に付けているのかを学習します。 13. 「教育を必要とする子供」の現実 (2) 文化と人間形成との関連を考察します。 14. 教えることの意味と公の教育への期待 (1) 人間が人間に「教える」とは、本当には何をしていることなのかを考察します。 15. 教えることの意味と公の教育への期待 (2) 新たな教育理念や思想の方向付けを考えましょう。 | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 授業の終わりに、毎回のワークシート提出を求めます。これは次回に返却します。返却されたワークシートをノートに貼り付け、考察の手がかりとして下さい。三回のワークで提示される課題学習は、知識観点で評価されます。 | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 各自、必要ならば90分程度参考書等を学習して下さい。 | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | |
| | 試験 | 100 | 知識ではなく思考・理解を問うペーパーテストを行います。 | | | | | |
| | 実践 | 0 | | | | | | |
| | レポート | 0 | | | | | | |
| その他 | 0 | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 私語は厳禁です。 | | | | | | | |
| 使用テキスト | 『教育の原理—子供・学校・社会をみつめなおす—改訂版』 紺野祐ほか著 学術出版会、2019年 | | | | | | | |
| 参考書 | 適宜指定する。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|---|-------|-------------------------------------|-------|-----------|-------|-------|--|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | | |
| 科目名 | 保育原理 E11003 | 前期 | 講義 | 2 | 必修 | | | | | |
| 担当教員 | 壬生 江美 | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 保育士資格、幼稚園教諭免許を取得するための必修科目であり、国の将来を担う子どもたちを育てる重要な科目である。保育・幼児教育（就学前教育）の意義、保育・幼児教育の基本原則、保育の内容と方法を保育の歴史（思想や制度、主要な国内外の人物についてまで）を振り返りつつ、具体的な事例などを通して、保育の現状とその課題、また未来についても学ぶ。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・保育・幼児教育（就学前教育）の意義と目標を理解する。 ・保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育の基本を理解する。 ・保育・幼児教育の「ねらい」「内容」「方法」の基本と指導計画を理解する。 ・保育・幼児教育の歴史、思想や制度の変遷、重要な人物の思想を理解する。 ・保育の現状や課題、未来を考えることができる。 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | 学修成果4 | 学修成果5 | 学修成果6 | 学修成果7 | | | |
| | | ○ | ○ | | | | ○ | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の方向性と保育実践の基礎となる発達観 2. 保育に関する諸法令などからみる保育の原理 3. 保育所保育指針、幼稚園教育要領、教育・保育要領にみる保育の原理 4. 養護と教育の一体化について 5. 保育実践の基本構造について 6. 多様な保育内容とその方法 7. 子育て支援について学ぶ 8. 西洋と日本の保育の創成期 9. 西洋の保育実践の発展過程 10. 日本の保育実践の発展過程 11. 倉橋惣三に学ぶ一児童中心主義の保育を探る 12. 保育者の在り方を考える 13. これからの保育について 14. 保育の現状と課題（1）諸外国の保育の現状 15. 保育の現状と課題（2）日本の保育の現状と課題 | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 毎時間、テキストを読んで事前学習をしてください。事後学習としてテキストやプリントを使い、振り返りを行いましょ。 | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | テキスト及び授業内で配布したプリントを確認し、復習を行ってください。（60分程度） | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 80 | 保育原理に関する知識・理解 | | | | | | | |
| | 実践 | 20 | 態度（演習への取り組み）思考・表現（ワークシートによる学びの振り返り） | | | | | | | |
| | レポート | 0 | | | | | | | | |
| | その他 | 0 | | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 講義を聞き、テキストに書き込みをして学びを深めていきます。必ずテキストを持参しましょう。 | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 佐伯一弥ほか（2023）改訂2版 『Workで学ぶ保育原理』わかば社 | | | | | | | | | |
| 参考書 | 幼稚園教育要領解説（最新版）文部科学省/著 フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）内閣府・文部科学省・厚生労働省/著 フレーベル館 保育所保育指針解説（最新版）厚生労働省/編 フレーベル館 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|--|---------|------------------|--------|--------|-----------|--------|--|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 1 | | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | |
| 科目名 | 社会的養護 I | E 31004 | 1 年前期 | 講義 | 2 | | | | | |
| 担当教員 | 隣谷 正範 | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 現代社会における子ども（児童）や家庭を取り巻く状況、社会的養護を必要とする子ども・保護者に対する保育士の役割等について理解することを目的とする。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 次に示す内容について理解している（説明できる）ことを到達目標とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷 ・子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本 ・社会的養護の制度と実施体系等 ・社会的養護の対象・形態、関係する専門職等 ・社会的養護の現状・課題 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | 学修成果 5 | 学修成果 6 | 学修成果 7 | | | |
| | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会的養護の理念及び基本原理等 2. 家庭の機能と家庭での養育 3. 社会的養護の成り立ち ①（明治期以前） 4. 社会的養護の成り立ち ②（大正期以降） 5. 子どもの権利擁護と社会的養護 6. 社会的養護に関わる法律等 7. 施設養護と家庭養護／施設養護の過程 8. 社会的養護の領域と概要①（養護系施設） 9. 社会的養護の領域と概要②（養護系施設） 10. 社会的養護の領域と概要③（障害系施設） 11. 社会的養護の領域と概要④（障害系施設） 12. 社会的養護の領域と概要⑤（家庭養護） 13. 自立支援及び学校・機関との連携 14. 社会的養護に関わる専門職・専門機関と倫理 15. 施設の運営管理／社会的養護と地域福祉 | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 事前学習では、テキストの該当箇所を読んで、次回の授業で取り扱う内容を把握してきてください。事後学習では、授業で取り扱った内容に関して、厚生労働省のホームページ内で確認したり、図書館所蔵の雑誌を活用する等して最新の情報や取り組みについて把握することを望みます。 | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 授業内容を深く理解できるように、事前にテキストの該当箇所を読み、分からない用語等を各自で調べておいてください（毎回 30 分～1 時間程度） | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 90 | 社会的養護に関する基礎知識の理解 | | | | | | | |
| | 実践 | 0 | | | | | | | | |
| | レポート | 0 | | | | | | | | |
| | その他 | 10 | 授業への貢献度、振り返りの内容等 | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 各自が復習できるように、試験終了後に解答を公開します。 | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | <ol style="list-style-type: none"> 1) 喜多一憲 監、堀場純矢 編『みらい×子どもの福祉ボックス 社会的養護 I（最新版）』みらい 2) 福祉・保育小六法編集委員会 編『福祉・保育小六法 2025 年版』みらい | | | | | | | | | |
| 参考書 | 必要に応じて、授業内で紹介します。 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|--|--------|--|--------|-----------|--------|--------|--|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | | |
| 科目名 | 幼児教育実習 I E51005 | 1年通年 | 演習・実習 | 3 | 必修 | | | | | |
| 担当教員 | 波多 彩花・松永 幸代 | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | <p>事前指導：幼児教育実習 I に必要な知識及び技術等を学習する。 事後指導：幼稚園や保育者、子どもの発達等について理解を深める。 実習：観察・参加実習を通して、下記に示す学習内容を目指す。 本実習は実務家教員の授業で、教員免許を有する教員が担当する科目である。 幼児教育、保育実務家としての視点を交えて、学生に対して授業を展開していく。</p> | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <p>以下に示す内容の達成を到達目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園における子どもの実態、保育者の役割、生活について体験的に理解。 ・それぞれの実習の時期の子どもの発達の理解。 ・幼稚園の生活を見通した子どもの発達の過程を理解。 ・子ども理解の視点や教育・保育の観察の仕方、記録のまとめ方を身につける。 ・子ども理解から教育・保育の展開までの基本的な考え方を理解する。 ・実習を通して保育者としてのあるべき姿について理解する。 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | 学修成果 5 | 学修成果 6 | 学修成果 7 | | | |
| | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | <p>【事前・事後指導】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス/幼児教育実習の意義と目的（実習先の選定を含む） 2. 見学実習ガイダンス 3. 見学実習 4. 見学実習 5. 実習施設の理解 6. 実習準備①（実習記録の記載方法と留意点） 7. 実習準備②（自己紹介グッズの計画及び作成） 8. 実習準備③（自己紹介グッズの発表） 9. 実習準備④（実習先との連絡調整等） 10. 実習準備⑤（実習施設の概要整理等） 11. 実習準備⑥（実習中の諸注意・対処方法の確認等） 12. 実習準備⑦（訪問指導依頼書等の作成） 13. 実習準備⑧（実習課題の作成） 14. 事前指導まとめ② 15. 事後指導（振り返り/実習の総括/課題の明確化） <p>【幼児教育実習】※主な学習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 幼稚園における子どもの生活と保育者の援助や関わり (2) 幼稚園教育要領に基づく教育・保育の展開 2. 子どもの理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの観察とその記録による理解 (2) 子どもの発達過程の理解 (3) 子どもへの援助や関わり 3. 教育・保育内容及び同環境 <ol style="list-style-type: none"> (1) 各種計画に基づく教育・保育内容 (2) 子どもの発達過程に応じた教育・保育内容 (3) 子どもの生活や遊びと教育・保育環境 (4) 子どもの健康と安全 4. 教育・保育の計画・観察・記録 <ol style="list-style-type: none"> (1) 全体的な計画と指導計画及び評価の理解 (2) 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育者の役割と職業倫理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育者の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携・協働 (3) 保育者の役割と職業倫理 | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 事前学習として、指示する内容の課題を確実に行うこと。 事後学習として、レポート及び自己課題等の提出に向けて実習記録の要点を整理しておくこと。 | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 各課題の作成及び提出等に関しては自己管理下で遅延が生じないように進めること（各課題の作成時間：概ね1時間～4時間程度）。 実習記録等の記入に取り組むこと（1日1時間程度）。 | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 0 | | | | | | | | |
| | 実践 | 0 | | | | | | | | |
| | レポート | 30 | 事後レポート・事後指導におけるレポート等 | | | | | | | |
| | その他 | 70 | 実習評価・記録の内容・実習諸課題及び実習諸手続きの遂行度（課題提出等を含む） | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 学生便覧に示される実習に関する規定を十分に理解した上で受講すること。実習終了後は、各自の達成度（到達度）がわかるようにフィードバックの機会を設ける。 | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | <ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーバル館 ・安部孝 編著『自分でつくる BOOK&NOTE－教育・保育実習でよりよい時間を過ごそう！－』同文書院 ・小林育子他『幼稚園・保育所・施設 実習ワーク 認定こども園対応改訂版』萌文書林 | | | | | | | | | |
| 参考書 | 必要に応じて、授業内で紹介します。 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|---|--------|--|--------|-----------|--------|--------|--|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | | |
| 科目名 | 幼児教育実習Ⅱ E 52006 | 2 年前期 | 実習 | 2 | 必修 | | | | | |
| 担当教員 | 波多 彩花 | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 事前指導：幼児教育実習Ⅱに必要な知識及び技術等を学習する。 事後指導：幼稚園や保育者、子どもの発達等について理解を深めるとともに、自身の学習課題を明確にする。 実習：観察・参加・指導実習を通して、下記に示す学習内容を目指す。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 幼稚園教育のあり方を一層深く理解するとともに、保育者に求められる専門的能力を身につけることを目指す。 ・習得した教科全体の知識及び技能を基礎として、これらを有機的・総括的に関連づけて実践する力を養う。 ・子ども及び子どもを取り巻く環境に対する理解を深め、保育・教育上の課題を把握する力を養う。 ・保育者としての職務内容及び社会的役割を理解し、あわせて保育者に求められる人間的な成長を培う。 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | 学修成果 5 | 学修成果 6 | 学修成果 7 | | | |
| | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | <p>【事前指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ガイダンス ○幼児教育実習の意義と目的（実習先の選定を含む） ○実習施設の理解 ○実習準備 <ul style="list-style-type: none"> ・実習記録の記載方法と留意点 ・実習先との連絡調整等 ・実習施設の概要整理等 ・実習中の諸注意・対処方法の確認等 ・訪問指導依頼書等の作成 ・実習課題の作成 ○事前指導まとめ <p>※必要に応じて追加の指導内容を加える。</p> <p>【幼児教育実習】※主な学習内容</p> <p>(1) 観察実習（主として実習開始後 数日間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習園の人的・物的環境の把握 ・1日の生活の流れの把握 ・子どもの具体的な生活行動や遊びの理解 ・保育者の職務内容及び役割の理解 <p>(2) 参加実習（主として第1週目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育及び保育の実際の把握 ・1日の生活のリズムの体得 ・子どもとの直接的な関わりを通じた集団指導及び個別指導の方法に関する理解 ・保育者の補助的な立場からの保育内容（展開を含む）への理解 <p>(3) 指導実習：部分実習・責任実習（主として第2週目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の理解と作成 ・指導計画を作成した上での責任実習の実施（実習期間中 最低1回実施） ・保育内容の各領域を踏まえた遊びの体系的・応用的な展開方法及び指導技術の習得 ・集団指導及び個別指導の実践的な理解 ・子どもへの理解と愛情に基づく関わりの実践 <p>【事後指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返り ・実習の総括及び課題の明確化 <p>※実習反省会を通して実習体験の報告や検討、教員からの助言などを基に自身の今後の課題を見出す。</p> | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 事前学習として、指示する内容の課題を確実にすること。 事後学習として、レポート及び自己課題等の提出に向けて実習記録の要点を整理しておくこと。 | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 各課題の作成及び提出等に関しては自己管理下で遅延が生じないように進めること（各課題の作成時間：おおむね1時間～4時間程度）。 実習記録の記入及び指導計画の作成に取り組むこと（1日1時間程度）。 | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 0 | | | | | | | | |
| | 実践 | 0 | | | | | | | | |
| | レポート | 20 | 事後レポート・事後指導におけるレポート等 | | | | | | | |
| | その他 | 80 | 実習評価・記録の内容・実習諸課題及び実習諸手続きの遂行度（課題提出等を含む） | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 学生便覧に示される実習に関する規定を十分に理解した上で受講すること。実習終了後は、各自の達成度（到達度）がわかるようにフィードバックの機会を設ける。 | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | <ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 ・内閣府他『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 ・小櫃智子他『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社 ・田中君枝他『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社（幼児教育実習Ⅰで購入済み） | | | | | | | | | |
| 参考書 | 必要に応じて、授業内で紹介します。 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|--|-------|--------------------|-------|-----------|-------|-------|--|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | | |
| 科目名 | 保育・教職実践演習(幼稚園) E 44007 | 2年後期 | 演習 | 2 | 必修 | | | | | |
| 担当教員 | 菱田 博之・青木 千恵美・松永 幸代 | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 短期大学での学びを振り返り、保育者として求められる資質や能力、知識、技能の習得について確認する。そして、各教員からの問題提起についてグループディスカッションを行い、知識や技能を科目横断的に統合・定着できるようにする。これらを通して、保育者として柔軟かつ多角的な視点を持って実践できる力を身につける。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・2年間の学びをもとに自己の課題を設定し、課題解決に取り組むことができる。 ・保育者として自己の考えを持ち、他者と話し合うことができる。 ・保育事例に対して多面的な視点を持つことができる。 ・保育者の実践力を身につけることができる。 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | 学修成果4 | 学修成果5 | 学修成果6 | 学修成果7 | | | |
| | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | 1-2. オリエンテーション・2年間の振り返り・自己課題の設定 3-4. 履修カルテ・専門職としての基盤の確認 5-6. 担当教員からの問題提起とグループディスカッション① 7-8. 担当教員からの問題提起とグループディスカッション② 9-10. 担当教員からの問題提起とグループディスカッション③ 11-12. 担当教員からの問題提起とグループディスカッション④ 13-14. 担当教員からの問題提起とグループディスカッション⑤及び外部講師を迎えて① 15-16. 担当教員からの問題提起とグループディスカッション⑥ 17-18. 担当教員からの問題提起とグループディスカッション⑦及び外部講師を迎えて② 19-20. 担当教員からの問題提起とグループディスカッション⑧ 21-22. 担当教員からの問題提起とグループディスカッション⑨及び外部講師を迎えて③ 23-24. 担当教員からの問題提起とグループディスカッション⑩ 25-26. 担当教員からの問題提起とグループディスカッション⑪ 27-28. 外部講師を迎えて④ 29-30. まとめ | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | この授業は幼児教育学科で学ぶ2年間の総まとめとして実施される科目です。これまで学んだ知識や技術、経験を振り返り、「どんな保育者になりたいか」、「自分の課題は何か」について考えをまとめて授業に参加してください。授業後も各担当教員からの問題提起やほかの学生の意見を聞いて自問し、考えを深めてください。 | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 担当教員の担当分野について、これまでのテキスト・資料・ノートなどを再確認して、自身の学習してきた内容について再確認をしてください(30分程度)。 | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 0 | | | | | | | | |
| | 実践 | 70 | 毎時限のテーマ理解、文章能力、思考力 | | | | | | | |
| | レポート | 30 | 保育に対する理解、自己課題の振り返り | | | | | | | |
| | その他 | 0 | | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 今までの学びを振り返りますので、事前に教員から受けた指示に従って準備・確認をして授業に臨んで下さい。課題は終了後に解説や添削をして返却します。 | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 特にテキストは使用しない。 | | | | | | | | | |
| 参考書 | 幼稚園教育要領解説、文部科学省、フレーベル館 保育所保育指針解説書、厚生労働省編、フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、内閣府 文部科学省 厚生労働省、フレーベル館 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|-------------------|---|-----------|-----------------------|-------|-----------|-------|-------|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 12 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | |
| 科目名 | 保育実習 I E 51008 | 1年後期、2年前期 | 実習 | 4 | | | | | |
| 担当教員 | 隣谷 正範・壬生 江美 | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 下記、授業計画中の「目的」「学習内容」の達成を本授業科目が目指すところとする。 (※原則として、施設・保育所へ赴き、保育士の指導の下に実習を行う。) 本実習は実務家教員の授業で、施設職員経験、保育士資格等を有する教員が担当する科目である。 保育、福祉の実務家としての視点を交えて、学生に対して授業を展開していく。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 次に示す内容の達成を到達目標とする。 ・保育所、児童福祉施設等の役割や機能の具体的な理解 ・観察や子ども等との関わりを通じた対象者の理解 ・既習の教科目の内容を踏まえた「子どもの保育(支援)」「保護者への支援」等についての総合的な理解 ・保育の計画・観察・記録及び自己評価等についての具体的な理解 ・保育士の業務内容や職業倫理についての具体的な理解 | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | 学修成果4 | 学修成果5 | 学修成果6 | 学修成果7 | | |
| | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| 授業計画 | <p>【目的】 保育実習は、その習得した教科全体の知識及び技能を基礎として、これらを総合的に実践する応用能力を養うために、児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟させることを目的とする。</p> <p>【学習内容】 <保育所実習の内容> 1. 保育所の役割と機能 (1) 保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり (2) 保育所保育指針に基づく保育の展開 2. 子どもの理解 (1) 子どもの観察とその記録による理解 (2) 子どもの発達過程の理解 (3) 子どもへの援助や関わり 3. 保育内容・保育環境 (1) 保育の計画に基づく保育内容 (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容 (3) 子どもの生活や遊びと保育環境 (4) 子どもの健康と安全 4. 保育の計画・観察・記録 (1) 全体的な計画と指導計画及び評価の理解 (2) 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理 (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携・協働 (3) 保育士の役割と職業倫理 <児童福祉施設等(保育所以外)における実習の内容> 1. 施設の役割と機能 (1) 施設における子どもの生活と保育士の支援・援助や関わり (2) 施設の役割と機能 2. 子どもの理解 (1) 子どもの観察とその記録 (2) 個々の状態に応じた支援・援助や関わり 3. 施設における子どもの生活と環境 (1) 計画に基づく活動や支援・援助 (2) 子どもの心身の状態に応じた生活と対応 (3) 子どもの活動と環境 (4) 健康管理、安全対策の理解 4. 計画と記録 (1) 支援計画の理解と活用 (2) 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と倫理 (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 保育士の役割と職業倫理 ※ 障害者支援施設等における実習においては、【到達目標】【学習内容】部分の「子ども」を「利用者」、「保育士」を「対人支援職」にそれぞれ読み替えるものとする。</p> | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 保育及び対人支援の現場において多くの学びを吸収できるように、日頃から関連領域について自己学習をしておくことが望ましい。実習中は、事後指導に備えて日々の出来事を整理しておくこと。 | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 実習期間中は、各自で情報収集等に努めること。 | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | |
| | 試験 | 0 | | | | | | | |
| | 実践 | 0 | | | | | | | |
| | レポート | 20 | 振り返りレポート等 | | | | | | |
| | その他 | 80 | 実習評価、記録の内容、実習諸課題の遂行度等 | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 実習終了後は、各自の達成度(到達度)がわかるようにフィードバックの機会を設ける。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 保育実習指導 I の頁を参照 | | | | | | | | |
| 参考書 | 必要に応じて、授業内で紹介します。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|--|---------------|---------------------|--------|-----------|--------|--------|--|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 12 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | | |
| 科目名 | 保育実習指導 I E51009 | 1年後期、 2年前期 | 演習 | 2 | | | | | | |
| 担当教員 | 隣谷 正範・壬生 江美 | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 保育実習 I に向けてその意義を理解するとともに、当該実習を円滑かつ効果的に行うための各種指導（実習記録の記載方法、実習課題の立案等）を行うことを目的とする。事後指導においては、実習の総括と自己評価を行い、自身の学習目標（課題）を明らかにすることを旨とする。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 次に示す内容の達成を到達目標とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育実習の意義・目的の理解 ・ 実習内容を理解と自らの実習課題の明確化 ・ 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮 ・ プライバシーの保護と守秘義務等についての理解 ・ 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容についての具体的な理解 ・ 事後指導における実習の総括と自己評価を通じた学習課題・目標の明確化 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | 学修成果 5 | 学修成果 6 | 学修成果 7 | | | |
| | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | <p>【保育所実習についての指導】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義と目的（実習先の選定を含む） 2. 実習段階及び学習内容の理解（留意事項等を含む） *特別講師 3. 実習施設の理解 *特別講師 4. 実習課題の設定①（案の作成） 5. 実習課題の設定②（案の修正） 6. 実習準備①（事前課題の作成） 7. 実習準備②（自己紹介グッズの計画） 8. 実習準備③（自己紹介グッズの作成） 9. 実習準備④（自己紹介グッズの発表） 10. 実習準備⑤（実習記録の記載方法と留意点） 11. 実習準備⑥（実習記録の記載方法と留意点） 12. 実習準備⑦（実習先との連絡調整、訪問指導依頼書等の作成） 13. 実習準備⑧（実習中の諸注意・対処方法の確認等） 14. 事前指導まとめ 15. 事後指導における実習の総括と課題の明確化 <p>【施設実習についての指導】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 施設実習に向けての諸説明（実習の手引きを使用） 2. 施設実習の意義と目的（実習段階及び学習内容の理解を含む） 3. 施設施設の理解①（児童福祉施設） *特別講師 4. 実習施設の理解②（障害者支援施設） *特別講師 5. 実習先の選定／施設保育士等の役割理解 6. 訪問指導依頼書等の作成 7. 事前課題及び実習計画書等の作成 8. 事前課題の確認及び実習計画書等の修正 9. 実習準備①（児童文化財等を用いた活動計画の作成） 10. 実習準備②（児童文化財等を用いた活動計画の実施） 11. 実習準備③（実習記録の記載方法と留意点） 12. 実習準備④（実習記録の記載方法と留意点） 13. 実習準備⑤（実習中の諸注意・対応方法の確認等） 14. 事前指導まとめ 15. 事後指導における実習の総括と課題の明確化 | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 実習担当者から指示する課題や書類の作成等については、期限を厳守すること。 | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 各課題の作成及び提出等に関しては、自己管理の下に遅延が生じないように進めること（各課題の作成時間：概ね1時間～4時間程度）。 | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 0 | | | | | | | | |
| | 実践 | 0 | | | | | | | | |
| | レポート | 20 | 事後指導におけるレポート等 | | | | | | | |
| | その他 | 80 | 実習諸手続の遂行度（課題提出等を含む） | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 学生便覧に示される実習に関する規定を十分に理解した上で受講すること。実習終了後は、各自の達成度（到達度）がわかるようにフィードバックの機会を設ける。 | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | <p>【保育所】『改訂版 幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社 『改訂版 実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社</p> <p>【施設】『考え、実践する施設実習（最新版）』教育情報出版</p> | | | | | | | | | |
| 参考書 | 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|---|-------|--------------------|-------|-----------|-------|-------|--|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | | |
| 科目名 | 保育実習Ⅱ E 54010 | 2年後期 | 実習 | 2 | | | | | | |
| 担当教員 | 壬生 江美 | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | <p>保育実習Ⅰ及び既習の教科の知識や技能を基盤として乳幼児と実際に関わりながら、保育の理論と実践の関係についてより具体的に学びます。子どもの姿の観察を基に指導計画書を作成し、責任実習を行います。子どもとの関わりの中から、客観的に保育を省察する力や自身の今後の課題について考察する力を身に付けていきます。また、実際に施設へ行き実習を行い、実習施設の担当者に指導をしていただきます。</p> <p>本実習は実務家教員の授業で、保育士資格等を有する教員が担当する科目である。保育、福祉の実務家としての視点を交えて、学生に対して授業を展開していく。</p> | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。 2. 子どもの観察や関わりからの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。 3. 既習の教科や保育実習Ⅰの経験や学びを踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に理解する。 4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価について実際に取り組み、理解を深める。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践と結び付けて理解する。 6. 保育士としての自己の課題をより明確化する。 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | 学修成果4 | 学修成果5 | 学修成果6 | 学修成果7 | | | |
| | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能の具体的展開 <ol style="list-style-type: none"> (1) 養護と教育が一体となって行われる保育 (2) 保育所の社会的役割と責任 2. 観察に基づく保育理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの心身の状態や活動の観察 (2) 保育士等の動きや実践の観察 (3) 保育所の生活の流れや展開の把握 3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 <ol style="list-style-type: none"> (1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 (2) 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援 (3) 地域社会との連携 4. 指導計画の作成、実践、観察、評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 (2) 作成した指導計画に基づく保育実践と評価 5. 保育士の業務と職業倫理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 多様な保育の展開と保育士の業務 (2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理 6. 自己課題の明確化 | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 既習教科・保育実習Ⅰでの学習を生かして指導計画書の作成、実習準備に計画的に取り組むこと。また、各自で手遊び、絵本、紙芝居、遊び等の教材研究を進めておくこと。実習終了後には、事後指導用のレポートを作成し自己課題を明確にするので、実習記録の内容を整理して要点をまとめておくこと。 | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 実習記録の記入及び指導計画の作成に取り組むこと。(1日1時間程度) | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 0 | | | | | | | | |
| | 実践 | 0 | | | | | | | | |
| | レポート | 20 | 事後指導におけるレポート等 | | | | | | | |
| | その他 | 80 | 実習手続の遂行度(課題提出等を含む) | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 学生便覧に示される実習に関する規定を十分に理解した上で、受講すること。実習終了後には、実習評価、記録等を用いて、その達成度(内容)がわかるように保育実習指導Ⅱの時間を使用してフィードバックの機会を設ける。 | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 保育所保育指針解説(最新版)厚生労働省/編 フレーベル館 2017 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(最新版)内閣府・文部科学省・厚生労働省/著 フレーベル館 2017 | | | | | | | | | |
| 参考書 | 必要に応じて紹介する。 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|--|--------|---------------------|--------|-----------|--------|--------|--|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | | |
| 科目名 | 保育実習指導Ⅱ E53011 | 2年通年 | 演習 | 1 | | | | | | |
| 担当教員 | 壬生 江美 | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 事前指導では、保育実習を有意義な学びとするために、実習の意義・目的を理解し、自己課題を明確にします。また、教材研究、指導計画立案のための技術を学びます。事後指導では、実習の総括と自己評価を行い、新たな自己課題や学習目標を明確にします。 実務経験のある教員（保育士）による科目 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。 2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を身につける。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して理解する。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | 学修成果 5 | 学修成果 6 | 学修成果 7 | | | |
| | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | 1. 保育実習Ⅱの目的・実習の各段階と学習内容（実習先の選定を含む） 2. 保育実習による総合的な学び（1）子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 3. 保育実習による総合的な学び（2）子どもの保育と保護者支援 4. 保育の実践力の育成（1）子どもの状態に応じた適切な関わり 5. 保育の実践力の育成（2）保育の知識・技術を生かした保育実践 6. 計画と観察、記録、自己評価－保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践①－ 7. 計画と観察、記録、自己評価－保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践②－ 8. 計画と観察、記録、自己評価－保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践③－ 9. 保育士の専門性と職業倫理 10. 実習施設の概要整理・巡回指導用地図等の作成 11. 実習課題の設定・実習記録作成の留意点 12. 実習に際しての留意事項（実習中の心構え、守秘義務） 13. 実習直前指導（重要事項の最終確認） 14. 実習事後指導（実習の総括と自己評価） 15. 実習事後指導（課題の明確化） | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 事前学習として保育実習Ⅰで明確になった自己課題を整理しておくこと。また、保育所保育指針を読み込み、理解を深めておくこと。事後学習としては授業で示した課題にきちんと取り組み、提出すること。 | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 授業で配布したプリントの内容などを復習しておくこと。（各回30分程度） 指導計画書の作成にあたっては、事前に内容の検討、資料の収集に取り組んでおくこと。（都度1時間程度） | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 0 | | | | | | | | |
| | 実践 | 0 | | | | | | | | |
| | レポート | 20 | 事前指導におけるレポート等 | | | | | | | |
| | その他 | 80 | 実習諸手続の遂行度(課題提出等を含む) | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | レポート課題に対する添削を行い返却する | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 保育所保育指針解説（最新版）厚生労働省/編 フレーベル館 『改訂版 幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社（保育実習指導Ⅰで購入済み） 『改訂版 実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社（保育実習指導Ⅰで購入済み） | | | | | | | | | |
| 参考書 | 西海聡子編著『遊びが広がる保育内容のアイデア』萌文書林 大豆生田啓友他著『これからの時代の保育者養成・実習ガイド 学生・養成校・実習園がともに学ぶ』中央法規 高山静子著『改訂 保育者の関わり方の理論と実践』郁洋舎 高山静子著『改訂 環境構成の理論と実践』郁洋舎 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|---|--------|-----------------------|--------|-----------|--------|--------|--|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | | |
| 科目名 | 保育実習Ⅲ E 54012 | 2年後期 | 実習 | 2 | | | | | | |
| 担当教員 | 隣谷 正範 | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | <p>下記、授業計画中の「目的」の達成を本授業科目が目指すところとする。 (※ 原則として、施設へ赴き、保育士の指導の下に実習を行う。) 本実習は実務家教員の授業で、施設職員経験、保育士資格等を有する教員が担当する科目である。 保育、福祉の実務家としての視点を交えて、学生に対して授業を展開していく。</p> | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・保育士の指導の意味を読み取り、記録上に的確な形で示すことができる。 ・実習施設の機能と保育士の職務について理解した上で、対象者への適切な関わりができる。 ・活動計画・支援計画等を立案し、実践することができる。 <p>※ これらの具体的な内容は、下記、授業計画中の「目標」に詳しい。</p> | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | 学修成果 5 | 学修成果 6 | 学修成果 7 | | | |
| | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | <p>【目的】 保育実習は、その習得した教科全体の知識及び技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うために、児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟させることを目的とする。 ※ 保育実習Ⅲでは「①児童福祉施設、その他社会福祉施設の養護を実際に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得させる。②家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うと共に、子育てを支援するために必要とされる能力を養う」(『保育士養成』平成13年8月総会特集号より引用)ことが主目的である。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について、実践を通して理解を深める。 2. 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解のもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。 3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 4. 保育士としての自己の課題を明確化する。 <p>※ 「目的」及び「目標」については「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」別紙3「教科目の教授内容」を一部修正して作成。</p> | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | <p>保育実習Ⅲに臨むにあたり、保育実習Ⅰで経験した施設実習での内容について振り返りを行っておくことが不可欠である。実習担当者や教員から指導された事項の確認を行い、自身の課題となる事柄を整理しておくこと。</p> | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | <p>実習期間中は、各自で情報収集等に努めること。</p> | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 0 | | | | | | | | |
| | 実践 | 0 | | | | | | | | |
| | レポート | 20 | 振り返りレポートおよび自己評価等 | | | | | | | |
| | その他 | 80 | 実習評価、記録内容及び実習諸課題の遂行度等 | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | <p>実習終了後は、各自の達成度(到達度)がわかるようにフィードバックの機会を設ける。</p> | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | <p>保育実習指導Ⅲの頁を参照</p> | | | | | | | | | |
| 参考書 | <p>必要に応じて、授業内で紹介します。</p> | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|-------------|--|-------|---------------------|-------|-----------|-------|-------|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | |
| 科目名 | 保育実習指導Ⅲ E53013 | 2年通年 | 演習 | 1 | | | | | |
| 担当教員 | 隣谷 正範 | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 事前指導では、保育実習Ⅲを行う意義等を理解し、実習に必要な準備を行う。加えて、既習教科での知見を生かした保育計画・実践において求められる展開方法・視点等を教授する。事後指導では、振り返りを通して保育士の専門性や職業倫理を理解するとともに、実習を振り返る中で自身の課題等を明確にする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 次の内容の達成を目標とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・保育実習の意義を理解する。 ・実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 ・保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 ・保育士の専門性と職業倫理について理解する。 ・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。 | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | 学修成果4 | 学修成果5 | 学修成果6 | 学修成果7 | | |
| | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習Ⅲの目的（実習先の選定を含む） 既習教科の内容を踏まえた実習の意義を理解する。実習希望施設への受入れ調整を行う。 2. 実習施設の概要整理・訪問指導依頼書等の作成 実習施設の概況について事前に収集した情報を整理する。訪問指導依頼書等を作成する。 3. 実習の各段階と学習内容 保育実習Ⅲの実習序盤・中盤・終盤における学習内容について学ぶ。 4. 実習研究テーマの設定 研究テーマ、及び各々のテーマの達成方法（視点）や事前学習の内容等を設定する。 5. 保育実践力の育成①（KYT：危険予知訓練） 場面・状況に応じた危険予測（予知）の視点を学ぶ。 6. 保育実践力の育成②（KYT：危険予知訓練） 場面・状況に応じた危険予測（予知）の視点を学ぶ。 7. 保育実践力の育成③（保育実践計画） 保育技術を活かした実践計画を作成する。 8. 保育実践力の育成④（保育実践計画） 保育技術を活かした実践計画を実践する。 9. 保育実践力の育成⑤（アセスメントシート） アセスメント（ニーズ把握）の技法について学ぶ。 10. 保育実践力の育成⑥（アセスメントシート） アセスメント（ニーズ把握）の技法について学ぶ。 11. 保育実践力の育成⑦（自立支援計画） 自立支援計画の作成及び実習中の実践例について学ぶ。 12. 実習に際しての留意事項 子どもの最善の利益を念頭においた実習中の心構えのほか、守秘義務について理解する。 13. 実習直前指導 実習の手引き等に沿いながら、重要事項の最終確認等を行う。 14. 実習事後指導（振り返り） 実習全体の内容について、グループ討議や個別指導等を通して振り返る。 15. 実習事後指導（実習の総括・課題の明確化） 自己点検票や振り返り用紙を用いて、実習報告書を作成する。 | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 事前学習として、指示する内容の課題を確実にやっていくこと。事後課題として、レポート及び自己課題等の提出に向けて実習記録の要点を整理しておくことを望む。 | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 各課題の作成及び提出等に関しては自己管理下で遅延が生じないように進めること（各課題の作成時間：概ね1時間～4時間程度）。 | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | |
| | 試験 | 0 | | | | | | | |
| | 実践 | 0 | | | | | | | |
| | レポート | 20 | 振り返りレポート・自己評価等を基に評価 | | | | | | |
| | その他 | 80 | 実習諸手続の遂行度（課題提出等を含む） | | | | | | |
| 受講上の注意・課題 | 保育実習指導Ⅰと同様に、学生便覧に示される実習に関する規定を十分に理解した上で受講すること | | | | | | | | |
| 使用テキスト | ・浦田雅夫 編著『考え、学ぶ施設実習』保育出版社（※1年次に購入済み） | | | | | | | | |
| 参考書 | 必要に応じて、授業内で紹介します。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|--|-------|--------------------------------|-------|-----------|-------|-------|--|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | | |
| 科目名 | 子どもの保健 E21014 | 前期 | 講義 | 2 | | | | | | |
| 担当教員 | 村山 真紀子 | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解し、子どもの身体的な発育・発達と保健について理解します。また、保育者に必要な子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について学びます。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | 学修成果4 | 学修成果5 | 学修成果6 | 学修成果7 | | | |
| | | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの健康と保健 ①保健活動の意義と目的 2. 子どもの健康と保健 ②子どもの出生と母子保健の意義③現代社会における子どもの健康に関する現状と課題 3. 子どもの発育・発達と保健 ①子どもの身体発育と運動機能の発達 4. 子どもの発育・発達と保健 ②生理機能の発達と生活習慣 5. 地域における保健活動と子どもの虐待防止 6. 子どもの健康状態の観察と体調不良時の把握 7. 子どもの病気 ①子どもの免疫の発達と感染症の特徴 8. 子どもの病気 ②感染症の予防および適切な対応 9. 子どもの病気 ③救急疾患の特徴と適切な対応 1. 重症な状態の判断と対応 2. 事故や怪我のときの特徴と対応 10. 子どもの病気 ③救急疾患の特徴と適切な対応 3. 急性疾患による救急対応 11. 子どもの病気 ④新生児の病気、新生児期にわかる先天性の病気の特徴と対応 12. 子どもの病気 ⑤アレルギー疾患の特徴と適切な対応 13. 子どもの病気 ⑥慢性疾患の特徴と適切な対応 14. 保護者との情報共有と家族の支援 15. 子どもの健康診断と関係機関との連携 | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 教科書に目を通してから、授業に臨みましょう。 授業内容のポイントをまとめ、復習をして理解を深めましょう。 | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 予習：シラバスの内容を確認し、教科書に目を通してきてください。(30分程度) 復習：教科書と授業資料を合わせてポイントを理解できるように、個々で工夫をしながらまとめておいてください。(30分程度) | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 90 | 子どもの保健活動と発育・発達の理解、子どもの病気と対応の理解 | | | | | | | |
| | 実践 | 0 | | | | | | | | |
| | レポート | 0 | | | | | | | | |
| | その他 | 10 | 授業態度・取り組み状況 | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 教科書と配布資料を使用します。教科書を必ず持参してください。また、書き込み式の資料もありますが、スマートフォンやカメラでの撮影は禁止します。書き込む時間は確保しますので、必ず授業時間内に書き込んでください。 | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 子どもの保健 テキスト改訂第3版、小林美由紀 編著、診断と治療社、2024 | | | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|--|-------|-------------|-------|-----------|-------|-------|--|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | | |
| 科目名 | 子どもの健康と安全 E23015 | 前期 | 演習 | 1 | | | | | | |
| 担当教員 | 所澤 好美・鈴木 栄子 | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 子どもの保育に必要な健康観察、感染予防における技術と異常の早期発見のための知識と技術、事故予防と応急処置、心肺蘇生法の技術について学ぶ。また、衛生管理ならびに安全管理についても現場の声を聞いて学ぶ。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 2. 事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について具体的に理解する。 3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について具体的に理解する。 4. 感染症対策について具体的に理解する。 5. 保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について具体的に理解する。 6. 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取り組みや保健活動の計画及び評価等について具体的に理解する。 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | 学修成果4 | 学修成果5 | 学修成果6 | 学修成果7 | | | |
| | | | | ○ | | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健的観点を踏まえた保育環境および援助を知ろう 子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康および安全の管理 2. 保健的観点を踏まえた保育環境および援助を知ろう 子どもの健康と保育環境健康および安全の管理の実施体制を知ろう 3. 子どもの体調不良などに対する適切な対応を知ろう 体調不良や傷害が発生した場合の対応と応急処置 4. 保育で必要な保健的対応を知ろう 保育における保健的対応の基本的な考え方 保健的観点を踏まえた保育環境および援助を知ろう 健康診断 5. 保育で必要な保健的対応を知ろう 3歳未満児への対応 6. 子どもがよくかかる感染症の対策を知ろう 感染症の集団発生の予防 7. 子どもがよくかかる感染症の対策を知ろう 感染症発生時と罹患後の対応 8. 保育における健康および安全の管理について知ろう 衛生管理 事故防止および安全対策 9. 保育で必要な保健的対応を知ろう 個別的な配慮を要する子どもへの対応 (慢性疾患や障害を持つ子どもの保育、医療費などの援助、低出生体重児・早産児で生まれた子どもの養護) 10. 保育で必要な保健的対応を知ろう 個別的な配慮を要する子どもへの対応 (アレルギー疾患、神経・筋疾患、先天性心疾患、泌尿器疾患を持つ子どもの養護) 11. 保育で必要な保健的対応を知ろう 個別的な配慮を要する子どもへの対応 (血液疾患、代謝・内分泌疾患、悪性新生物、心身症を持つ子どもの養護) 12. 保育における健康および安全の管理について知ろう 危機管理と災害への備え 13. 保育で必要な保健的対応を知ろう 障害を持つ子どもへの対応 14. 子どもの体調不良などに対する適切な対応を知ろう 救急処置および心肺蘇生法 15. 保育で必要な保健的対応を知ろう 3歳未満児への対応 (衣服の着せ方、排泄のさせ方、保清、沐浴・入浴のさせ方) | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 授業前に「子どもの健康と安全 演習ノート」の教科書に目を通してから、授業に臨みましょう。授業内容のポイントをまとめ、復習をして理解を深めましょう。 | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 予習：子どもの健康と安全、演習ノートに目を通してきてください。(30分程度) 復習：教科書に沿って、演習で行ったことを振り返っておいてください。(30分程度) | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 90 | 定期試験における評価 | | | | | | | |
| | 実践 | 0 | | | | | | | | |
| | レポート | 0 | | | | | | | | |
| | その他 | 10 | 授業態度・取り組み状況 | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 実践的な技術を習得するため、各演習に積極的に参加しましょう。 | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 子どもの健康と安全 演習ノート 改訂第3版 小林美由紀編著、診断と治療社、2024 | | | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|---|-------|-----------------------|-------|-----------|-------|-------|--|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | | |
| 科目名 | 子どもの食と栄養 E24016 | 2年後期 | 演習 | 2 | | | | | | |
| 担当教員 | 高木 一代 | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 小児期における食生活が生涯にわたる健康と生活の基礎である事を学び、小児期の発達段階の特徴に合わせた食生活と栄養摂取について理解し、調理実習や食指導など保育の現場で実践できる力を身につける。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・小児期の発達段階を理解しそれに応じた栄養の意義を理解できる。 ・小児期の発達段階に応じた食事作りができる。 ・保育所保育指針における食育の位置づけを理解できる。 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | 学修成果4 | 学修成果5 | 学修成果6 | 学修成果7 | | | |
| | | | ○ | ○ | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 講義 2. 乳児期の食生活について 講義 3. 乳汁期の栄養と食生活（調乳） 調理実習 母乳栄養・人工栄養について、調乳方法について 4. 離乳期の栄養と食生活（5～6か月） 調理実習 離乳食（5～6か月）の特徴と留意点 5. 離乳期の栄養と食生活（7～8か月） 調理実習 離乳食（7～8か月）の特徴と留意点 6. 離乳期の栄養と食生活（9～11か月） 調理実習 離乳食（9～11か月）の特徴と留意点 7. 幼児期の栄養と食生活について 講義 8. 幼児期の栄養と食生活（1～2歳児） 調理実習 幼児食（1～2歳児）の特徴と留意点 9. 幼児期の栄養と食生活（3～5歳児） 調理実習 幼児食（3～5歳児）の特徴と留意点 10. 幼児期の栄養と食生活（お弁当） 調理実習 留意点と工夫、食中毒について 11. アレルギー対応食 調理実習 アレルギーについて、アレルギー代替食品について 12. 幼児期の栄養と食生活（間食） 調理実習 間食の意義、留意点と工夫 13. 食指導と食育① 講義 食指導の方法、パネルシアターについて、食指導に向けた栄養教育計画 14. 食指導と食育② パネルシアター（作成・発表） 15. 災害時の食事 | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 実習日当日の項目を一読しておくこと。また離乳期・幼児期の発達段階に応じた食事内容の理解を深めるために前週の授業内容を復習して授業に臨んで下さい。 | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 授業中は集中できるように、事前に毎回1時間程度教科書を読んで理解しておいて下さい。 | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 0 | | | | | | | | |
| | 実践 | 40 | 食指導の指導案と発表（パネルシアター） | | | | | | | |
| | レポート | 60 | 発達段階に応じた食事作り・調理実習の評価表 | | | | | | | |
| | その他 | 0 | | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | <p>新型コロナウイルスの状況により、調理実習時間内での試食を中止し、持ち帰りとなる場合があります。その場合は、持ち帰り用の容器と食具を各自準備して下さい。調理実習の評価表は、美味しいとか美味しくないだけではなく、注意しないといけなかった点や、気づいた点、新たな発見や工夫した点などを記入して下さい。</p> <p>パネルシアターは全員作成し、発表してもらう予定です。</p> | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 「子どもの食と栄養 保育現場で活かせる食の基本」第3版 太田百合子、堤ちはる 羊土社 | | | | | | | | | |
| 参考書 | <p>「ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち④ 臨床栄養学」 関戸啓子編 メディカ出版</p> <p>新版「子どもの食と栄養」 岩田章子・寺嶋昌代 みらい</p> <p>「保育保健における食育実践の手引き」 日本保育園保健協議会</p> <p>「保育園におけるアレルギー対応の手引き」 日本保育園保健協議会</p> <p>「保育所保育指針」 厚生労働省</p> | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|--|-------|---------------|-------|-----------|-------|-------|--|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | | |
| 科目名 | 発達心理学 E21017 | 1年前期 | 講義 | 2 | 必修 | | | | | |
| 担当教員 | 黒岩 長造 | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 子どもの発達や学習に関する基本的な心理学の理論を学びます。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達像、障害や疾患 ・発達や学習に関する心理学の理論 ・子どもの発達の評価・測定および分析の方法について基本的な知識を説明することができる。 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | 学修成果4 | 学修成果5 | 学修成果6 | 学修成果7 | | | |
| | | ○ | | | | ○ | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：発達心理学の基本的な考え方 2. 赤ちゃんの不思議な能力・赤ちゃんの基本的な発達像 3. 赤ちゃん和父母との関係：愛着・愛着障害・マラーの理論 4. 子どもの力：情緒の発達、共感性、情動調律 5. ピアジェの理論、ことば・遊び・友達関係の発達 6. 記憶・知能の発達 7. 学習の理論・学習の支援・集団で行う学習の方法 8. 動機づけの理論・性格・自己概念の発達 9. 児童期の発達（愛他行動・道徳性）・青年期の発達（エリクソンの理論） 10. 性役割・親になること 11. 結婚と家族・家族機能①子どもにとっての家族・家族の発達 12. 結婚と家族・家族機能②家族にみられる病理 13. 中年期・高齢期の発達 14. 臨床発達心理のトピック：登園しぶり・自閉症スペクトラム障害・緊急支援 15. 子どもの発達の評価・測定および分析の方法 | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 事前学習：シラバスに明記された内容に該当するテキストの章について事前に一読しておくこと 事後学習：最終レポート課題に備えて、発達の各理論について理解を深め、説明できるようになっておくこと | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 授業に集中できるように事前に毎回1時間程度教科書を読んで理解しておいてください。 | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 0 | | | | | | | | |
| | 実践 | 0 | | | | | | | | |
| | レポート | 60 | 最終レポート | | | | | | | |
| | その他 | 40 | リアクションペーパー4回分 | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | レポート課題に対する添削を行い返却します。 | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 『子どもの発達理解と援助』 全国社会福祉協議会 | | | | | | | | | |
| 参考書 | <p>幼稚園教育要領解説（最新版）文部科学省/著 フレーベル館</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）内閣府・文部科学省・厚生労働省/著 フレーベル館</p> <p>保育所保育指針解説（最新版）厚生労働省/編 フレーベル館</p> <p>適宜授業で紹介する</p> | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|--|--------|---------------------------|--------|-----------|--------|--------|--|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | | |
| 科目名 | 子ども家庭支援の心理学 E 22018 | 1 年後期 | 講義 | 2 | | | | | | |
| 担当教員 | 菱田 博之 | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 子どもの成長や、子どもを取り巻く環境について心理学的視点から学びます。保育者として子どもと関わる際の専門的な知識や技術を身につけます。また、現代の社会状況や子育て家庭やそこでの親子関係などについて、さまざまな事例や課題を通して実践的・主体的に学んでいきます。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | 学修成果 5 | 学修成果 6 | 学修成果 7 | | | |
| | ○ | | ○ | | | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの生涯発達について①：乳幼児期から学童期前期にかけての発達 2. 子どもの生涯発達について②：学童期後期から青年期にかけての発達 3. 子どもの生涯発達について③：成人期・老年期における発達 4. 家庭・家族の意義と機能 5. 親子関係・家族関係の理解 6. 子育ての経験と親としての育ち 7. 親子関係・家族関係における様々な課題 8. 子育てを取り巻く社会的状況 9. ライフコースと仕事・子育て 10. 多様な家庭とその理解 11. 特別な配慮を要する家庭 12. 子どもの精神保健とその課題 13. 子どもの生活・成育環境とその影響 14. 子どもの心の健康に関わる問題 15. まとめと総括 | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 授業前にあらかじめ教員より指定したテーマについて事前に文献などで確認しておくこと（授業初めにその内容について各自に確認します）。普段から授業で取り扱う上記テーマについて、ニュースや新聞などを通して自分はどう考えるかについて意識しておいてください。事後学習については、ワークシートにおいて、教員からのコメントについて各自確認し、更に学習を深めてください。 | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 図書館・参考図書やメディアを通して1時間程度該当のテーマについて調べて、文章化できるよう理解しておくこと。 | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 0 | | | | | | | | |
| | 実践 | 40 | コミュニケーションペーパーの内容（理解度・考察力） | | | | | | | |
| | レポート | 60 | 授業目標における理解度・論理構成力 | | | | | | | |
| | その他 | 0 | | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | <p>単に知識や技術を学ぶだけではなく、相手にどう伝わるのかを踏まえた援助や支援ができるようになることを目指します。</p> <p>講義中、学んだ知識をワークシートなどにまとめる際、まとめた内容を説明した時、相手に十分伝わるかどうかを意識するよう心掛けてください。</p> <p>課題については、試験終了後に解説やレポート課題に対する添削を行い返却します。</p> | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 白川佳子・福丸由佳 編集「(新基本保育シリーズ9) 子ども家庭支援の心理学」中央法規、2019年 | | | | | | | | | |
| 参考書 | 授業内で適宜紹介します。 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|---|--------|---------------------------|--------|-----------|--------|--------|--|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | | |
| 科目名 | 教育心理学 E21019 | 1年後期 | 演習 | 1 | 必修 | | | | | |
| 担当教員 | 菱田 博之 | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 保育者として、保育・教育現場の中での子どものさまざまな様子について心理学の観点から理解できるように学んでいく。保育・教育現場に即した事例を通して、勘や経験や感情だけで判断するのではなく、背景にある理論や根拠を踏まえた保育・教育活動を実践できるよう学んでいく。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの生活全般にかかわる事柄について、心理学的な知識を踏まえて考えることができる。 2. 子どもの成長に必要な事柄について、根拠を踏まえながら考察することができる。 3. 子どもにかかわる事柄について広い視点からとらえることができる。 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | 学修成果 5 | 学修成果 6 | 学修成果 7 | | | |
| | | | ○ | | | | ○ | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの発達理解の視点と方法 2. 個人差に応じた保育・教育 3. 環境としての保育・教育者と子どもへの影響 4. 子ども集団と保育・教育者の援助 5. 子どもの経験と環境づくり 6. 子どもの学びの視点 7. 学びの動機づけ 8. 遊びの中における学び 9. 認知の発達と学び 10. 基本的生活習慣の獲得と支援 11. 自己の主体性の形成と支援 12. 子どもの発達と発達援助 13. 発達課題に応じた支援 14. 発達の連続性と就学への支援 15. 保育・教育における課題と支援 | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | <p>授業前にあらかじめ教員より指定したテーマについて事前に文献などで確認しておくこと（授業初めにその内容について各自に確認します）。普段から授業で取り扱う上記テーマについて、ニュースや新聞などを通して自分はどうか考えるかについて意識しておいてください。</p> <p>事後学習については、ワークシートにおいて、教員からのコメントについて各自確認し、更に学習を深めてください。</p> | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 図書館・参考図書やメディアを通して1時間程度該当のテーマについて調べ、文章化できるよう理解しておくこと。 | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 60 | 講義における内容について | | | | | | | |
| | 実践 | 40 | 毎回講義で配布するワークシートの理解度・論理構成力 | | | | | | | |
| | レポート | 0 | | | | | | | | |
| | その他 | 0 | | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | <p>単に知識や技術を学ぶのではなく、それを踏まえて、自分なりに考え言語化してください。</p> <p>さらに、相手がどのように捉えるのかについても踏まえたいので自分の意見として言語が出来るように意識して講義を受けるようにしてください。</p> <p>課題については、試験終了後に解説を行い返却します。</p> | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | <p>『最新 保育士養成講座』総括編纂委員会編『子どもの発達理解と援助』全国社会福祉協議会、2020年 幼稚園教育要領解説（最新版）文部科学省/著 フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）内閣府・文部科学省・厚生労働省/著 フレーベル館 保育所保育指針解説（最新版）厚生労働省/編 フレーベル館</p> | | | | | | | | | |
| 参考書 | 適宜授業で紹介します。 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|--|--------|------------|--------|-----------|--------|--------|--|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 12 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | | |
| 科目名 | 臨床心理学 E 24020 | 2 年後期 | 演習 | 2 | | | | | | |
| 担当教員 | 黒岩 長造 | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 本講義では、心の問題を抱えた個人や家族、それを取り巻く環境やコミュニティについて理解を深め、臨床心理学的視点に立った援助をどのように行っていくのかについて学んでいきます。臨床心理学における基礎的な理論やアプローチの仕方をさまざまな事例を通して実践的に学んでいきます。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者として赴く現場において出会う様々な事柄について、目に見えている部分だけではなく目に見えないところの内面について、臨床心理学の理論を用いて理解することができる。 ・ 出来事に対する事実関係の理解だけではなく、より深くより広い視野から状況をとらえることができる。 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | 学修成果 5 | 学修成果 6 | 学修成果 7 | | | |
| | | | ○ | | | ○ | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 臨床心理学とは：その学問的位置と定義 2. 臨床心理学的視点① 乳幼児期のころについて様々な理論から学ぶ 3. 臨床心理学的視点② 児童期～青年期のころについて様々な理論から学ぶ 4. 心理査定とは何か その意義と視点について 5. 心理検査の実際① 6. 心理検査の実際② 7. ケーススタディ①（緘黙） 8. ケーススタディ②（不登校） 9. ケーススタディ③（さまざまな身体症状） 10. ケーススタディ④（広汎性発達障害） 11. ケーススタディ⑤（緊急支援） 12. ケーススタディ⑥（虐待①） 13. ケーススタディ⑦（虐待②） 14. ケーススタディ⑧（いじめ） 15. まとめと振り返り | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | <p>普段から、新聞やニュースに関心を持ち、さまざまな心の問題について、どのような考え方や対応方法があるのかを知っておいてください。</p> <p>毎回、事例を予め渡します。必ず予習してから出席して下さい。</p> | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 授業に集中できるように事前に毎回 1 時間程度教科書を読んで理解しておいてください。 | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 0 | | | | | | | | |
| | 実践 | 0 | | | | | | | | |
| | レポート | 100 | 事例についての理解度 | | | | | | | |
| | その他 | 0 | | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | レポート課題に対する添削を行い返却します | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | ピアヘルパーハンドブック | | | | | | | | | |
| 参考書 | 授業で適宜紹介します | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|---|--------|---------------------|--------|-----------|--------|--------|--|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | | |
| 科目名 | 子ども家庭福祉 E 23021 | 2 年前期 | 講義 | 2 | | | | | | |
| 担当教員 | 隣谷 正範 | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 子ども家庭福祉の理念・歴史・仕組み等の基本的事柄のほか、子どもや家庭が抱える諸課題に対する保育士の関わり等について理解することを目的とする。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 次に示す内容について理解している（説明できる）ことを到達目標とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷 ・ 子どもの人権擁護 ・ 子ども家庭福祉の制度や実施体系等 ・ 子ども家庭福祉の現状・課題、動向・展望 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | 学修成果 5 | 学修成果 6 | 学修成果 7 | | | |
| | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 子ども家庭福祉を取り巻く現状 現代の子ども・家庭を取り巻く状況等について理解する。 2. 子どもの権利保障の歴史 国内外の子ども家庭福祉の理念の動向等について理解する。 3. 子ども家庭福祉の歴史の変遷 国内外の子ども家庭福祉の歴史について理解する。 4. 子ども家庭福祉の制度と法体系 子ども家庭福祉関係の制度及び法体系等について理解を深める。 5. 子ども家庭福祉の行財政と実施機関 行政機関・審議機関の役割、財政・費用負担等について理解する。 6. 子ども家庭福祉の実際 ① 子育て支援サービスと児童の健全育成 少子化対策、子育て支援サービス、健全育成施策について理解する。 7. 子ども家庭福祉の実際 ② 母子保健サービス 母子保健の理念、母子保健サービスの実施・体系、取り組みの実際について理解する。 8. 子ども家庭福祉の実際 ③ 保育サービス 保育所の今日的課題（安全管理等）、保育サービスの種類等について理解を深める。 9. 子ども虐待・DV（ドメスティック・バイオレンス）① 子ども虐待の定義や現状、対応、DVの概要等について理解する。 10. 子ども虐待・DV（ドメスティック・バイオレンス）② 子ども虐待の定義や現状、対応、DVの概要等について理解する。 11. 社会的養護 社会的養護の枠組み、施設養護の内容、社会的養護の現状と課題について理解を深める。 12. ひとり親家庭への福祉 ひとり親家庭の現状、当該家庭へのサービスの概要等について理解する。 13. 障害のある子どもの福祉 障害の捉え方、障害児の定義と現状、福祉施策等を用いた対応について理解する。 14. 少年非行・情緒障害 非行少年の定義や非行少年保護にかかわる仕組み、情緒障害の概要等について理解する。 15. 子ども家庭福祉の専門職と連携 子ども家庭福祉に携わる専門職の役割、関係機関との連携等について理解する。 <p>※「子ども家庭福祉の動向と展望」に関わる内容については、適宜、授業の中で取り扱う。</p> | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 子ども家庭福祉においては、子どもの権利を尊重しながら成長発達を支えていく視点が重要になります。そして、その実現のためには子どもや家庭に関わる諸機関・専門職及び地域組織による取り組み等が欠かせません。社会の色々な取り組みに敏感になれるように、日頃から子どもやその家庭に関する報道には常に目を向けていくように心掛けてください。また、各授業後には、専門用語や重要箇所について整理をして事後学習（振り返り）を行うことを望みます。 | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 授業内容を深く理解できるように、事前にテキストの該当箇所を読み、分からない用語等を各自で調べておいてください（毎回 30 分～1 時間程度）。 | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 90 | 子ども家庭福祉に関する基礎知識の理解 | | | | | | | |
| | 実践 | 0 | | | | | | | | |
| | レポート | 0 | | | | | | | | |
| | その他 | 10 | 授業への貢献度・振り返りシートの内容等 | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 各自が復習できるように、試験終了後に解答を公開します。 | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 1) 櫻井奈津子 編『保育と子ども家庭福祉（最新版）』みらい 2) 福祉・保育小六法編集委員会 編『福祉・保育小六法 2024 年版』みらい（※1 年次に購入済み） | | | | | | | | | |
| 参考書 | 必要に応じて、授業内で紹介します。 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|-------------------|---|--------|------------------|--------|-----------|--------|--------|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | |
| 科目名 | 社会福祉 E11022 | 1 年前期 | 講義 | 2 | | | | | |
| 担当教員 | 隣谷 正範 | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 社会福祉に関わる基本的知識の習得と、各分野（領域）に掲げる内容について理解することを目的とする。これらの学習を通して、受講生の社会福祉観の涵養を図りたい。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 次に示す内容について理解している（説明できる）ことを到達目標とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷 ・社会福祉の制度及び実施体系等 ・社会福祉における相談援助 ・社会福祉における利用者保護に関わる仕組み ・社会福祉の動向と課題 | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | 学修成果 5 | 学修成果 6 | 学修成果 7 | | |
| | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | |
| 授業計画 | 1. 社会福祉の理念及び概念等 2. 社会福祉の歴史的変遷Ⅰ（国外） 3. 社会福祉の歴史的変遷Ⅱ（国内） 4. 社会福祉の分野① 公的扶助・生活保護 5. 社会福祉の分野②-1 社会保障制度（公的扶助・生活保護を除く） 6. 社会福祉の分野②-2 社会保障制度（公的扶助・生活保護を除く） 7. 社会福祉の分野③ 高齢者保健福祉 8. 社会福祉の分野④ 子ども家庭福祉 9. 社会福祉の分野⑤ 障害児・者福祉 10. 社会福祉の分野⑥ 地域福祉・在宅福祉 11. 社会福祉の分野⑦-1 相談援助（理論編） 12. 社会福祉の分野⑦-2 相談援助（実践編） 13. 社会福祉の制度と実施体系 14. 社会福祉専門職と倫理 15. 福祉サービスの利用者保護の仕組みと第三者評価 ※「社会福祉に関する諸外国の動向」に関わる内容については、適宜、授業の中で取り扱う。 | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 現在必要としていなくても、将来、各種の福祉制度やサービスの利用者となる可能性を有しているという点から、私たちは誰もが社会福祉の潜在的な利用者であるといわれます。その意味において、社会福祉は私たちの生活に密接に関連しながら現代の多様なライフスタイルを支えています。この科目を学習するにあたり、日頃から社会のさまざまな動向に注目して、その実態について情報を得るようにしてください。また、各授業後には、専門用語や重要箇所を整理して事後学習（振り返り）をしてください。 | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 授業内容を深く理解できるように、事前にテキストの該当箇所を読み、分からない用語等を各自で調べておいてください（毎回 30 分～1 時間程度） | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | |
| | 試験 | 90 | 社会福祉に関する基礎知識の理解 | | | | | | |
| | 実践 | 0 | | | | | | | |
| | レポート | 0 | | | | | | | |
| | その他 | 10 | 授業への貢献度、振り返りの内容等 | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 各自が復習できるように、試験終了後に解答を公開します。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 1) 橋本好市ほか 編『保育と社会福祉（最新版）』みらい 2) 福祉・保育小六法編集委員会 編『福祉・保育小六法 2025 年版』みらい | | | | | | | | |
| 参考書 | 必要に応じて、授業内で紹介します。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|-------------------|---|-------|-----------------|-------|-----------|-------|-------|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | |
| 科目名 | 子育て支援 E14023 | 2年後期 | 演習 | 1 | | | | | |
| 担当教員 | 隣谷 正範 | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 保育士が行う子育て支援に必要な視点や内容、方法、技術等を具体的に理解し、様々な場面（対象を含む）において専門性を活かした取り組みを行うことができる力を身に付けることを目的とする。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 次に示す内容について理解している（説明できる）ことを到達目標とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援） ・ 保育相談支援の特性（必要性や背景等を含む）及び展開等 ・ 子育て支援の場における保護者支援の実際 | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | 学修成果4 | 学修成果5 | 学修成果6 | 学修成果7 | | |
| | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育と子育て支援 子育て支援を行う背景や意義、保育所保育所指針の中での位置づけ（役割）等について理解する。 2. 保育の場における子育て支援の特性 保護者との相互理解や信頼関係の形成、多様な他者と関わる機会や場所等について理解する。 3. 子育て支援における保育者の基本的な価値と倫理 子どもの最善の利益、エンパワーメント・専門職に求められる自己覚知や倫理等について学ぶ。 4. 支援の基本① 子育て支援の技術 演習等を通して、他者に伝わる・伝えるための技術等について学ぶ。 5. 支援の基本② 子育て支援の展開 演習等を通して、支援の計画、記録・評価等、地域資源・職員間の連携について学ぶ。 6. 支援の基本③ マッピング技法の活用 演習等を通して、家族の基本構造、家族相互の関係性を捉える視点等について学ぶ。 7. 子育て支援の実際① 「日常場面・文面」を活用した支援 送迎時の対話、連絡帳による伝達、園だよりを通じた各種の促し方について学ぶ。 8. 保護者に対するエンパワーメントの視点① 「おたより」作成を通して、エンパワメントの視点から保護者への意図的な働き掛けについて学ぶ。 9. 保護者に対するエンパワーメントの視点② 「おたより」作成を通して、エンパワメントの視点から保護者への意図的な働き掛けについて学ぶ。 10. 保護者に対するエンパワメントの視点③ 「おたより」の工夫点や配慮等に関するプレゼンテーションを行い、活動のフィードバックを行う。 11. 子育て支援の実際② 「環境構成」を活用した支援 ドキュメンテーション、ボードフォリオ、園開放を通しての子育て支援のあり方について学ぶ。 12. 子育て支援の実際③ 保育所の特性を活かした保護者への支援 事例を通して、面接技法、相談・助言、保育指導等について理解を深める。 13. 子育て支援の実際④ 問題・課題のある家庭への支援 事例を通して、苦情を繰り返す保護者、保護者同士のトラブル等への対応方法を学ぶ。 14. 子育て支援の実際⑤ 特別な支援を要する家庭への支援 事例を通して、児童虐待、ひとり親家庭、発達障害への支援について理解を深める。 15. 児童福祉施設における子育て支援の事例 プロセス事例を通して、乳児院、児童養護施設等における支援の実際について学ぶ。 ※「児童福祉施設における子育て支援の実際」については、適宜、授業の中で取り扱う。 | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 演習では、ワールドカフェ形式のディスカッションのほか、ロールプレイを取り入れていきます。特に中盤以降では、課題に対する自分自身の考えを整理してから講義に臨むようにしてください。事後学習としては、教員の解説や他者の意見等をもとに学習内容を振り返るなかで、考えの幅を広げてみてください。 | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 授業中は演習に集中できるように、事前の指示に従いテキストの使用頁を読み、当該事例等について理解を深めてくること（毎回30分～1時間程度）。 | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | |
| | 試験 | 0 | | | | | | | |
| | 実践 | 20 | 演習での成果、課題への評価 | | | | | | |
| | レポート | 80 | 子育て支援に関する課題への理解 | | | | | | |
| | その他 | 0 | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 原則として、提出されたレポート課題については、添削等を行い返却します。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | ・ 隣谷正範 編『子育て支援』教育情報出版 | | | | | | | | |
| 参考書 | 必要に応じて、授業内で紹介します。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|---|--------|---|--------|-----------|--------|--------|--|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | | |
| 科目名 | 児童文化 E 43024 | 2年通年 | 演習 | 2 | 選択 | | | | | |
| 担当教員 | 松永 幸代 | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 様々な視点から子どもと文化の関係を見つめ、子どもの健やかな発達、生活を保障するためにどのような文化財や文化的環境が大切かを考えます。そして、児童文化財を保育に活かす方法を探るとともに、保育者としての実践力を身につけます。ExpressionⅡの授業とも連動させ、Expression の舞台発表に向けて、人形劇の脚本の作成・人形や道具の製作・操演・演出までをグループワークを通して学びます。人形製作、操演・演出などの専門家による指導を行います。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが心豊かに育つための文化財、文化活動について学び、子どもにふさわしい文化とは何かを考える。 ・人形劇の制作から上演までの活動を通し、協働の力を身につける。 ・児童文化を保育に活かす方法を探り、保育者として実践力を身につける。 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | 学修成果 5 | 学修成果 6 | 学修成果 7 | | | |
| | ○ | | | ○ | ○ | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション／文化・児童文化とは何か 2. わらべうた・あそびうた 3. 保育の中の人形劇（外部講師による指導） 4. 子どもと伝統行事 5. 子どもと昔話 6. モノを使って表現しよう（外部講師による指導） 7. 人形劇の歴史と特性（外部講師による指導） 8. 人形劇の特性と脚本作り（外部講師による指導） 9. 作品検討、役割の決定、制作計画 10. 人形劇脚本作成① 11. 人形劇脚本作成② 12. 人形・道具の製作① 13. 人形・道具の製作②（外部講師による指導） 14. 人形・道具の製作③（外部講師による指導） 15. 人形・道具の製作④（外部講師による指導） 16. 人形・道具の製作⑤ 17. 表現方法の基礎① 18. 表現方法の基礎② 19. 人形の操演の基本① 20. 人形の操演の基本②（外部講師による指導） 21. 人形の操演の練習① 22. 人形の操演の練習②（外部講師による指導） 23. 合評会① 24. 人形の操演の練習③ 25. 人形の操演の練習④（外部講師による指導） 26. 合評会② 27. 演出効果の検討① 28. 演出効果の検討②（外部講師による指導） 29. 演出効果の検討③ 30. Expression リハーサル | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの周囲にある児童文化財に触れたり、児童文化活動を体験したりする機会を持ちましょう。 ・いい大人形劇フェスタでの観劇を通して、様々な人形劇の表現を知り、自分の表現の幅を広げるようにしてください。 ・Expression に向けては、グループでの協力が重要になります。各自が責任を持って役割を果たしてください。 | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | Expression に向けての人形製作や操演練習については、グループごとに授業外に時間を取る必要があります。（週 2、3 時間） | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 0 | | | | | | | | |
| | 実践 | 40 | 思考・判断・表現（人形劇制作・人形製作・グループワークへの取り組み） | | | | | | | |
| | レポート | 60 | 理解・思考（児童文化財、児童文化活動の理解 Expression の振り返り） | | | | | | | |
| | その他 | 0 | | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 2年間の学びの集大成であり、保育者にとって必要な協働性を学ぶ Expression へつながる科目となります。グループでの作業や練習に参加できるようにスケジュール管理をしてください。ワークシートの添削を行い、返却します。製作や人形操演については、適宜口頭で助言を行います。 | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 馬見塚昭久著『保育実践に生きる「言語表現」－児童文化財活用のエッセンス－』萌文書林（1年後期「言語表現」で使用したテキスト） | | | | | | | | | |
| 参考書 | 小澤俊夫『昔話の扉をひらこう』暮らしの手帖社 コーダイ芸術教育研究所『新訂わらべうたであそぼう 乳児のあそび・うた・ごろあわせ』『新訂わらべうたであそぼう 年少編』明治図書出版 その他、必要に応じて適宜授業内で紹介します。 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|-------------------|---|---------------------|---------------------------------|--------|-----------|--------|--------|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | |
| 科目名 | 音楽 I E 41025 | IA は 1 年通年、IB は前期半期 | 演習 | 2 | 必修 | | | | |
| 担当教員 | 若原 真由子 他 | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 領域「表現」の指導に関する子どもの表現の姿やその発達及びそれを促す要因、子どもの感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境構成について実践的に学び、幼児期の表現活動を支援するための知識・技能・表現力を身に付ける。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1) 子どもの表現の姿やその発達を理解する。 (2) 音楽表現の様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、子どもの表現を支えるための感性を豊かにする。 | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | 学修成果 5 | 学修成果 6 | 学修成果 7 | | |
| | | | | ○ | ○ | | | | |
| 授業計画 | <p>*音楽 IA</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・ピアノ 2. ピアノ、音楽基礎（五線譜と音符）① 3. ピアノ、音楽基礎（五線譜と音符）② 4. ピアノ、音楽基礎（リズムと拍子）① 5. ピアノ、音楽基礎（リズムと拍子）② 6. ピアノ、音楽基礎（読譜法、音程）① 7. ピアノ、音楽基礎（読譜法、音程）② 8. ピアノ、音楽基礎（音階と調）① 9. ピアノ、音楽基礎（音階と調）② 10. ピアノ、音楽基礎（和音と伴奏）① 11. ピアノ、音楽基礎（和音と伴奏）② 12. ピアノ 13. ピアノ、音楽基礎（コードネームと伴奏）① 14. ピアノ、音楽基礎（コードネームと伴奏）② 15. ピアノ、音楽基礎（まとめと試験） 16～30. ピアノ、音楽基礎（リズムと音の聴取） 19. 27. 30 回はピアノのみ <p>*音楽 IB</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 領域「表現」のねらい及び内容の理解 2. 子どもの表現の発達についての理解 3. 感受性を豊かにする 4. 身の周りの音による音楽遊び 5. 自分の持つ楽器「声」について知る 6. 表情豊かな歌唱表現を身に付ける 7. 言葉の意味や情景を伝えるための発声法を学ぶ 8. 声を重ねる体験をし、合唱やボイスアンサンブルを学ぶ 9. わらべ歌や手遊び歌を学び、展開を考える 10. 簡易な楽器を用いてリズム遊びを展開させる 11. 子どもの歌の歴史を学び、時代に即した教材と時代を超えた教材の考察をする 12. 教材としてとりあげた子どもの歌を実際に歌ってみて、その表現を考子どもの歌の表現を可視化する 13. イメージを音として表現する、人前での表現活動を行う。 | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | ピアノの授業は担当の先生の指示に従い課題を練習して授業に臨むこと。また毎時間レッスンノートに記載して授業で注意、指摘された点を振り返り反復練習をする。 | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | ピアノと音楽基礎については指定された課題を次回の授業までに練習する時間を十分に取ること。長い時間を 1 回だけではなく、短くても毎日楽器に触れるという習慣をつける。最低でも 10 分程度のピアノの練習と 5 分の基礎課題を行う時間を作る。 | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | | | | | |
| | 試験 | 80 | ピアノ (40%)、音楽基礎 (20%)、音楽表現 (40%) | | | | | | |
| | 実践 | 10 | 授業中の演奏等 | | | | | | |
| | レポート | 10 | 音楽基礎で出される課題 | | | | | | |
| | その他 | 0 | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | レッスンノートの作成より、課題の取組等の問題点を指摘し、課題達成を目指して練習方法等のアドバイスをする。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | <p>音楽 IA : こどもの歌 飯田女子短期大学編 (2015 年度版) 標準バイエルピアノ教則本 全音楽譜出版社 (初心者) ブルグミュラー 25 番練習曲 全音楽譜出版社 他 (既習者)</p> <p>音楽 IB : コールキューブング 音楽基礎 : 「音楽 IA, II A」 「音楽 IA, II A 提出ノート」 飯田女子短期大学編 (2022 年度版)</p> | | | | | | | | |
| 参考書 | 授業内で紹介 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|-------------------|--|-------|----------------------------|-------|-----------|-------|-------|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | |
| 科目名 | 音楽Ⅱ E 43026 | 2年通年 | 演習 | 2 | 選択 | | | | |
| 担当教員 | 若原 真由子 他 | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 音楽Ⅰで培った技術および表現力を基にし、さらに高度な技術を身につけ、より豊かな音楽性を伸ばす。また、保育園・幼稚園で指定された楽曲を練習し、実習に備える。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・実習曲を含めた子どもの歌の伴奏5曲以上に取り組み、人の前で、実際に歌う人の伴奏ができる ・ピアノの技術を高め表現豊かに弾きたいができる ・鍵盤上で和声進行が行える ・簡易な曲の創作ができる ・二声のハーモニーを感じて歌うことができる ・様々な調の階名唱、新曲の読み取りができる ・歌の持つ物語性を感じて歌い表現することができる | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | 学修成果4 | 学修成果5 | 学修成果6 | 学修成果7 | | |
| | | | | ○ | ○ | | | | |
| 授業計画 | <p>*ピアノ・音楽演習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ピアノ 2. ピアノ・音楽演習 (鍵盤和声と創作ハ長調) 3. ピアノ・音楽演習 (//) 4. ピアノ・音楽演習 (//) 5. ピアノ・音楽演習 (//) 6. ピアノ・音楽演習 (//) 7. ピアノ・音楽演習 (//) 8. ピアノ・音楽演習 (//) 9. ピアノ・音楽演習 (//) 10. ピアノ・音楽演習 (//) 11. ピアノ・音楽演習 (//) 12. ピアノ・音楽演習 (//) 13. ピアノ・音楽演習 (//) 14. ピアノ・音楽演習 (//) 15. ピアノ・音楽演習 (//) へ長調) 16. ピアノ・音楽演習 (//) ト長調) 17. ピアノ・音楽演習 (//) ト長調) 18. ピアノ・音楽演習 (//) 二長調) 19. ピアノ・音楽演習 (//) 二長調) 20. ピアノ・音楽演習 (//) 様々な調) 21. ピアノ・音楽演習 (//) 22. ピアノ・音楽演習 (//) 23. ピアノ・音楽演習 (//) 24. ピアノ・音楽演習 (//) 25. ピアノ 26. ピアノ 27. ピアノ <p>*声楽：各回共通：呼吸法、発声練習、子どもの歌を毎時間1曲ずつコード説明も加え自作伴奏で歌う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コーリユープンゲン No. 58・子どもの歌、各自子どもの歌1曲を選び指揮をする模擬授業、発表 2. コーリユープンゲン No. 59・子どもの歌、各自子どもの歌1曲を選び指揮をする模擬授業、発表 3. コーリユープンゲン No. 60・子どもの歌、各自子どもの歌1曲を選び指揮をする模擬授業、発表 4. コーリユープンゲン No. 61・子どもの歌、グループ活動：絵・紙芝居・ペープサート・パネルシアター製作 5. コーリユープンゲン No. 62・子どもの歌、グループ活動：絵・紙芝居・ペープサート・パネルシアター製作 6. コーリユープンゲン No. 63・子どもの歌、グループ活動：絵・紙芝居・ペープサート・パネルシアター製作 7. コーリユープンゲン No. 64・子どもの歌、グループ活動：絵・紙芝居・ペープサート・パネルシアター発表 8. これまでのまとめと中間テスト 9. コーリユープンゲン No. 65・アンサンブル、グループ活動：台本作り、音楽劇準備 10. コーリユープンゲン No. 66・アンサンブル、グループ活動：台本作り、音楽劇準備 11. コーリユープンゲン No. 67・アンサンブル、グループ活動：台本作り、音楽劇準備 12. コーリユープンゲン No. 68・アンサンブル、グループ活動：台本作り、音楽劇準備 13. コーリユープンゲン No. 69・アンサンブル、グループ活動：台本作り、音楽劇発表 14. まとめと最終テスト <p>1～15：既成の歌曲を学び作詞をしながら振り付けをしオリジナル作品を演じる。</p> | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 音楽Ⅰの時と同様に、ピアノも声楽も担当者から指示を受け練習をして授業に臨みましょう。レッスンノートを毎時間記入し授業で注意、指摘された点を振り返り反復練習をしてください。 | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | ピアノの練習はできるだけ毎日、10分以上を心掛けてください。音楽演習ではその都度課題が出ますので、ピアノの練習に5分程プラスして行うようにしましょう。 | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | |
| | 試験 | 80 | ピアノ(40%)、音楽演習(20%)、声楽(40%) | | | | | | |
| | 実践 | 10 | 授業中の演奏等 | | | | | | |
| | レポート | 10 | 作曲等の課題 | | | | | | |
| その他 | 0 | | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | レッスンノートの作成より、課題の取組等の問題点を指摘し、課題達成を目指して練習方法等のアドバイスを。作成した楽曲の添削をし、返却 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | <p>ピアノ：こどものうた 飯田女子短期大学編 (2015年度版)</p> <p>ピアノ曲は各人のレベルに合わせて担当者がテキストを選定</p> <p>音楽演習：「音楽ⅠA・ⅡA」「音楽ⅠA・ⅡA 提出ノート」飯田女子短期大学編 (2015年度版)</p> <p>声楽：コーリユープンゲン</p> | | | | | | | | |
| 参考書 | それぞれの授業で紹介 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|--|--------|--------|--------|-----------|--------|--------|--|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | | |
| 科目名 | リトミック I E 43027 | 2 年前期 | 演習 | 1 | | | | | | |
| 担当教員 | 山本 しのぶ | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | リトミックを指導する上での基礎的な、リズム運動・ピアノ演奏法・指導法（3 歳児）を習得し、子どもたちがリトミックに興味を持ち、好きになり、感動体験ができるような、楽しさに包まれた指導力を身につける。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 1. リズム：リズムを表現する基礎的な動きができるようになること。 2. ピアノ演奏：リズム指導における基礎的なピアノ演奏法ができること。 3. 指導法：年間カリキュラム『幼稚園・保育園（3 歳児）のためのリトミック指導法』を習得する。 4. 資格：「幼稚園・保育園のためのリトミック指導者資格 2 級」の資格を取得する。 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | 学修成果 5 | 学修成果 6 | 学修成果 7 | | | |
| | ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | 1. リズム リズム（1）【リトミック導入、授業説明など】 2. 指導法 指導法（1）【3 歳児指導法 1 学期】 3. ピアノ演奏法 演奏法（1）【3 歳児指導法 1 学期の実践およびピアノ演奏法】 4. リズム リズム（2）【基礎的な動き・強弱・アクセントなど】 5. リズム リズム（3）【基礎リズム 2 拍子】 6. 指導法 指導法（2）【3 歳児指導法 2 学期】 7. ピアノ演奏法 演奏法（2）【3 歳児 2 学期指導法の実践およびピアノ演奏法】 8. リズム リズム（4）【拍子】 9. リズム リズム（5）【基礎リズム 3 拍子・4 拍子】 10. 指導法 指導法（3）【3 歳児指導法 3 学期】 11. リズム リズム（6）【リズムカノン導入・試験内容の公示】 12. ピアノ演奏法 演奏法（3）【3 学期指導法 3 学期の実践およびピアノ演奏法】 13. リズム リズム（7）【リズムカノン】 14. 指導法 指導法（4）【3 歳児指導法総括】 15. まとめ 前期のまとめ、試験対策など | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 授業時間内にも行いますが、事前に授業範囲のテキストを一読しておいてください。指導法実践の場合、事前におおよその指導計画をたて、ピアノ伴奏を練習しておいてください。グループ演習の場合、事前にメンバー内で役割分担などの打ち合わせをしておいてください。 | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 授業内で出された事前学習課題を次の授業日までに取り組むこと（30 分～1 時間程度） | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 80 | 実技試験 | | | | | | | |
| | 実践 | 20 | 模擬指導 | | | | | | | |
| | レポート | 0 | | | | | | | | |
| | その他 | 0 | | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 身体を動かす授業です。動きやすい服装で、出席してください。 | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 【テキスト】（必須） 『幼稚園・保育園のためのリトミック／3 歳児用』リトミック研究センター（1,500 円） 【リトミック教具】（必須） ・『カラーボード』リトミック研究センター（900 円） ・『スティック』リトミック研究センター（600 円） ・『指導資格認定試験リズム課題音源集（データ配信）』リトミック研究センター（500 円） ※価格はいずれも税別 | | | | | | | | | |
| 参考書 | 『リズムと音楽と教育』エミール・ジャック＝ダルクローズ著 全音楽譜出版社 『リトミックってなあに』岩崎光弘著 ドレミ楽譜出版社 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|---|-------|-------|-------|-----------|-------|-------|--|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | | |
| 科目名 | リトミックⅡ E44028 | 2年後期 | 演習 | 1 | | | | | | |
| 担当教員 | 山本 しのぶ | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | リトミックⅠに続き、リトミックを指導する上での基礎的な、リズム運動・ピアノ演奏法・指導法(4・5歳児)を習得し、子どもたちがリトミックに興味を持ち、好きになり、感動体験ができるような、楽しさに包まれた指導力を身につける。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 1.リズム：リズムを表現する基礎的な動きができるようになること。 2.ピアノ演奏：リズム指導における基礎的なピアノ演奏法ができること。 3.指導法：年間カリキュラム『幼稚園・保育園(4歳児/5歳児)のためのリトミック指導法』を習得すること。 4.資格：「幼稚園・保育園のためのリトミック指導者資格1級」を取得すること。 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | 学修成果4 | 学修成果5 | 学修成果6 | 学修成果7 | | | |
| | ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | 1. リズム リズム(1)【リズムカノン3拍子・リズムフレーズ】 2. 指導法 指導法(1)【4歳児指導法1学期】 3. 指導法 指導法(2)【4歳児指導法2学期】 4. ピアノ演奏法 演奏法(1)【4歳児指導法1,2学期の実践およびピアノ演奏法】 5. 指導法 指導法(3)【4歳児指導法3学期】 6. 指導法 指導法(4)【5歳児指導法1学期】 7. ピアノ演奏法 演奏法(2)【4歳児指導法3学期、5歳児指導法1学期の実践およびピアノ演奏法】 8. 指導法 指導法(5)【5歳児指導法2学期】 9. 指導法 指導法(6)【5歳児指導法3学期】 10. ピアノ演奏法 演奏法(3)【5歳児2,3学期指導法の実践およびピアノ演奏法】 11. リズム リズム(2)【リズムカノン4拍子・複リズム】【試験内容の公示】 12. リズム リズム(3)【リズムカノン4拍子・複リズム(2)】 13. 指導法 指導法(7)【4,5歳児指導法総括】 14. リズム リズム(4)【リズムカノン3,4拍子・複リズム(3)】 15. まとめ 楽しいリトミックの体験、リズム総括、試験対策など | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 授業時間内にも行いますが、事前に授業範囲のテキストを一読しておいてください。指導法実践の場合、事前におおよその指導計画をたて、ピアノの伴奏を練習しておいてください。グループ演習の場合、事前にメンバー内で役割分担などの打ち合わせをしておいてください。 | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 授業内で出された事前学習課題を次の授業日までに取り組むこと(30分～1時間程度) | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 80 | 実技試験 | | | | | | | |
| | 実践 | 20 | 模擬指導 | | | | | | | |
| | レポート | 0 | | | | | | | | |
| | その他 | 0 | | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 体を動かす授業です。動きやすい服装で、出席してください。 | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 【テキスト】(必須) 『幼稚園・保育園のためのリトミック/4歳児用』リトミック研究センター(1,800円) 『幼稚園・保育園のためのリトミック/5歳児用』リトミック研究センター(1,800円) 【リトミック教具】(必須) 『リズムカード』リトミック研究センター(500円) ※価格はいずれも税別 | | | | | | | | | |
| 参考書 | 『リズムと音楽と教育』エミール・ジャック＝ダルクローズ著 全音楽譜出版社 『リトミックってなあに』岩崎光弘著 ドレミ楽譜出版社 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|--|--------|------------------|--------|-----------|--------|--------|--|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | | |
| 科目名 | からだとおそび E 43029 | 2年通年 | 演習 | 2 | 必修 | | | | | |
| 担当教員 | 松本 彰之 | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | からだを使った遊びとして、子どもを対象にした運動遊びと自然遊びを指導することができるようになるために、様々な実践と、指導計画の立案及び指導実習を行います。また、指導上の安全面についても事例分析などを通して実践的に学びます。希望者は、別途認定試験を受けて合格することで、自然体験活動指導者の資格を取得することができます。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> 子どもを対象にした運動遊びや自然遊びの指導ができるようになる。 年齢や発達段階に応じた運動遊びや自然遊びの計画が立てられるようになる。 運動遊びや自然遊びにおける安全管理ができるようになる。 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | 学修成果 5 | 学修成果 6 | 学修成果 7 | | | |
| | | | | ○ | | ○ | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス、からだを使った遊びについて 2. 幼児教育運動指針について 3. 運動遊びの実践①ーからだを使った遊び・ジャンケンを使った遊びー 4. 運動遊びの実践②ーボールを使った遊びー 5. 運動遊びの実践③ーサーキット遊びー 6. 運動遊びの実践④ー鬼ごっこ遊びー 7. 運動遊びの指導計画① 8. 運動遊びの指導計画② 9. 運動遊びの指導実習① 10. 運動遊びの指導実習② 11. 運動遊びの指導実習③ 12. 指導実習の振り返り 13. 運動遊び指導のまとめ 14. 自然遊びの実践①ー自然保育の観察実習ー※学外で実施／特別講師 15. 自然遊びの実践②ー自然保育の観察実習ー※学外で実施／特別講師 16. 自然遊びの実践③ー自然保育の観察実習ー※学外で実施／特別講師 17. 自然遊びの実践④ー自然保育の観察実習ー※学外で実施／特別講師 18. 自然遊びの実践⑤ー観察実習の振り返りー 19. 自然体験活動指導者の理論と実技① 20. 自然体験活動指導者の理論と実技② 21. 自然体験活動指導者の理論と実技③ 22. 自然体験活動指導者の理論と実技④ 23. 自然体験活動指導者の理論と実技⑤ 24. 自然体験活動実習①ーネイチャーゲームー 25. 自然体験活動実習②ーネイチャーゲームー 26. 自然体験活動実習③ー交流体験ー 27. 自然体験活動実習④ー交流体験ー 28. 自然体験活動実習⑤ー振り返りー 29. 指導上の安全管理①ー事故分析ー 30. 指導上の安全管理②ーシナリオトレーニングー | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 授業内で実践した運動遊びや自然遊びの内容を記録し、指導計画や行事計画の立案の参考にしてください。 | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 授業内で実践した運動遊びや自然遊びの内容を記録としてまとめてください。(各回 30 分程度) | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 0 | | | | | | | | |
| | 実践 | 40 | 授業での取り組みについて | | | | | | | |
| | レポート | 60 | 運動遊びや自然遊びの指導について | | | | | | | |
| | その他 | 0 | | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | レポート課題に対する添削を行い返却します。 授業計画は日程や天候などで順序を変えて実施することがあります。 | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 子どもが育つ運動遊び 倉真智子・大森宏一編著 株式会社みらい発行 | | | | | | | | | |
| 参考書 | 幼稚園教育要領解説(最新版) 文部科学省/著 フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(最新版) 内閣府・文部科学省・厚生労働省/著 フレーベル館 保育所保育指針解説(最新版) 厚生労働省/編 フレーベル館 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|-------------------|---|---------|--------------------|--------|--------|-----------|--------|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 2 | | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | |
| 科目名 | 身体表現 | E 43030 | 2年前期 | 演習 | 1 | 選択 | | | |
| 担当教員 | 松本 彰之 | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 人はこころで感じたことや考えたことを、その人なりに身振りや手振り、表情、言葉、音、物などの様々な媒体を通していろいろな方法で表します。この授業では、様々な身体表現活動を通して、子どもの教育における身体表現について理解することを目的とします。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの教育における身体表現について理解する ・受講者自らが身体表現活動を行うことを通して、指導方法を理解する ・子どもの発達に合わせたダンスについて考えることができる | | | | | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | 学修成果 5 | 学修成果 6 | 学修成果 7 | | |
| | ○ | | | | ○ | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育・幼児教育における身体表現とは 2. 表現とは何か：非言語的コミュニケーション 3. 身体表現あそび：手遊び、わらべうた 4. リズムに合わせた表現：歩く、とまる、テンポに合わせて 5. 身近なものを使った表現：新聞紙、布など 6. イメージによる表現：自然物、動物、忍者など ※特別講師 7. 運動会のダンス①：未満児・親子のダンス 8. 運動会のダンス②：年少～年長 9. 身体の発達と表現：実際に身体を動かして考える 10. ダンスの指導法：指導する際の留意点 11. ダンスの作成① 12. ダンスの作成② 13. ダンスの作成③ 14. ダンスの作成④ 15. 授業のまとめ・映像を使用した振り返り | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 子どもの身体表現とは何か、保育現場ではどのようなダンスが踊られているか調べてください | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 授業で実施した遊びや表現の方法を記録としてまとめてください（毎回 30 分程度） | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | |
| | 試験 | 0 | | | | | | | |
| | 実践 | 40 | 作成したダンスの内容・パフォーマンス | | | | | | |
| | レポート | 40 | 最終レポート | | | | | | |
| | その他 | 20 | 関心・意欲・態度 | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | <p>体を動かす内容を伴います。体を動かす授業の際は、必ず動きやすい服装、シューズを着用してください。</p> <p>ワークシートの記入・提出を求めることがあります。添削して返却します。</p> | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 乳幼児のための豊かな感性を育む身体表現遊び、瀧信子ほか 著、株式会社ぎょうせい | | | | | | | | |
| 参考書 | 特になし | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|---|--------|--------------------|--------|-----------|--------|--------|--|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | | |
| 科目名 | ひとつのかかわり E31031 | 1年前期 | 講義・演習 | 1 | 選択 | | | | | |
| 担当教員 | 隣谷 正範・菱田 博之・壬生 江美 | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 乳幼児期は、家庭に限らず、幼稚園や保育所等の保育者、地域の方々等、さまざまな人との関わり（人間関係）の中で成長が育まれていく。本授業では、領域「人間関係」の指導の基盤となる「乳幼児期における人と関わる力の育ち」に関する専門的事柄についての知識等を身に付けることを目的とする。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 次に示す内容について理解している（説明できる）ことを到達目標とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・領域「人間関係」のねらい及び内容 ・乳幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題 ・乳幼児の「人と関わる力」を育むための過程 ・幼稚園や保育所等における乳幼児期の人間関係の発達と保育者の関わり | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | 学修成果 5 | 学修成果 6 | 学修成果 7 | | | |
| | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育・幼児教育の基本 2. 乳幼児と人間関係における現代的課題 3. 0歳以上3歳未満児の子どもの人間関係 4. 3歳以上児の子どもの人間関係の発達 5. 保育場面における乳幼児対応の基礎知識 6. 乳幼児期の子どもに対する関わりの実際①（保育場面等への参加） 7. 乳幼児期の子どもに対する関わりの実際②（保育場面等への参加） 8. 人とかかわる力を育む保育者の関わり 9. 自立心を育む関わり 10. 遊びと人間関係の発達 11. 乳幼児期に適した玩具理解①（地域活動への理解を含む）＊特別講師 12. 乳幼児期に適した玩具理解②（地域活動への理解を含む）＊特別講師 13. 地域社会におけるひとつのかかわり（地域子育て支援拠点事業所の行事への参加） 14. 道徳性・規範意識の芽生えを支える関わり／特別な保育を必要とする子どもの保育 15. 「ひとつのかかわり」のまとめ <p>※ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の内容、及び保幼小との接続・連携や地域との関わりについては、適宜、授業の中で取り扱う。</p> | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 演習では、ディスカッションのほか、映像等を用いた分析の機会等を取り入れていきます。課題に対する自分自身の考えを整理してから講義に臨むようにしてください。事後学習としては、教員の解説や他者の意見等をもとに学習内容を振り返るなかで、考えの幅を広げていってください。 | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 授業中は演習に集中できるように、事前の指示に従いテキストの使用頁を読み、当該事例等について理解を深めてくること。適宜、課題等の作成を指示する（主に1時間程度で記入・作成可能な内容）。 | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 0 | | | | | | | | |
| | 実践 | 50 | 演習での成果、課題への評価等 | | | | | | | |
| | レポート | 50 | 子どもの人間関係に関する課題への理解 | | | | | | | |
| | その他 | 0 | | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 授業前後に学習する課題等を出していきますので、遅延のないように提出すること（「評価方法」の「実践」の評価点の中に反映）。 | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | <ul style="list-style-type: none"> ・近喰晴子ほか 編『保育内容「人間関係」と指導法』中央法規出版 ・厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館 | | | | | | | | | |
| 参考書 | 必要に応じて、授業内で紹介します。 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|---|--------|-------------------------------|--------|-----------|--------|--------|--|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | | |
| 科目名 | 言語表現 E 42032 | 1 年後期 | 演習 | 1 | 必修 | | | | | |
| 担当教員 | 松永 幸代 | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 子どものことばや表現を豊かに育てていくために、保育者が身に付けなければならない言語表現技術を理論と実践の両面から学びます。絵本・紙芝居・パネルシアター等の実践や製作を通して、それぞれの特性や活用方法についての理解を深め、保育スキルを高めていきます。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童文化財を通して子どもの言語表現を育てることについて理解する。 ・ 様々な児童文化財の特性を理解し、保育に生かす方法を考える。 ・ 保育者としての言語表現技術の基礎を身につける。 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | 学修成果 5 | 学修成果 6 | 学修成果 7 | | | |
| | ○ | | | ○ | ○ | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの言語表現を育てる絵本①絵本という表現方法/絵本の読み聞かせについて（映像資料を通して） 2. 子どもの言語表現を育てる絵本②絵本の絵を読む/絵本の読み聞かせの実践① 3. 子どもの言語表現を育てる絵本③絵本のストーリー/絵本の読み聞かせの実践② 4. 子どもの言語表現を育てる絵本④様々なジャンルの絵本/絵本の読み聞かせの実践③ 5. 子どもの言語表現を育てる絵本⑤絵本に描かれた子ども/絵本の読み聞かせの実践④ 6. 絵本から広がる遊び（教材研究）/絵本の読み聞かせの実践⑤ 7. 絵本と紙芝居/紙芝居実演の基礎（外部講師による指導） 8. 紙芝居の実践（模擬保育） 9. ペープサート製作・実践 10. パネルシアターの特性（映像資料を通して） 11. パネルシアター製作 12. パネルシアター製作・実践 13. エプロンシアター実演練習（外部講師による指導） 14. エプロンシアター発表/まとめと課題（模擬保育） 15. 子どもと昔話/ストーリーテリングを学ぶ（外部講師による指導） | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 幼少期に自分が出会った印象深い絵本を一冊選んでおいてください。読み聞かせや紙芝居などの実践を行うには、授業外の時間に必ず練習が必要です。しっかり身に付けて、実習や実践につなげるようにしてください。 | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 授業中は演習に集中できるように、事前に 30 分程度テキストを読んだり、事後のまとめをしたりしてください。 実践発表の前には個人やグループで 30 分程度練習するようにしてください。 絵本についての基礎知識を得るために、必読とする課題図書を設定します。各実習での実践に結びつけるために、課題図書以外にもできるだけ多くの絵本を読んでおいてください。 | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 0 | | | | | | | | |
| | 実践 | 50 | 表現（各児童文化財の実践）・理解（各児童文化財の特性理解） | | | | | | | |
| | レポート | 50 | 思考・判断（絵本表現の分析 絵本リストの作成） | | | | | | | |
| | その他 | 0 | | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 実践発表に対しての評価を授業内に口頭で行います。レポートは添削して返却します。 | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 馬見塚昭久著『保育実践に生きる「言語表現」－児童文化財活用のエッセンス－』萌文書林 | | | | | | | | | |
| 参考書 | 『えほんのせかい こどものせかい』松岡享子（文春文庫）『絵本の本』中村征子（福音館書店） 『心に緑の種をまく－絵本のたのしみ』渡辺茂男（岩波現代文庫） 『こんにちは、昔話です』小澤俊夫（小澤昔ばなし研究所） 『紙芝居の演じ方 Q&A』まついのりこ（童心社）『紙芝居百科』紙芝居文化の会（童心社） その他、必要に応じて適宜授業内で紹介します。 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|--|-------|--------------------|-------|-----------|-------|-------|--|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | | |
| 科目名 | 図画工作 E41033 | 1年通年 | 演習 | 2 | 必修 | | | | | |
| 担当教員 | 青木 千恵美 | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 領域「表現」の造形活動に関連して、様々な素材や技法に触れ、それらの特徴を理解し、表現の幅を広げる。さらに子ども達の表現活動を支援するために必要となる知識、技能、実践力の育成へと学びを深める。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・様々な素材に触れ、それらの特徴や使用する道具の使い方を理解する。 ・自ら進んで課題に取り組み、想像を広げ、造形表現の楽しさを味わう。 ・造形表現に関わる基本的な知識・技能を学ぶことを通して、子ども達と共にする表現活動の土台となる実践力を高める。 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | 学修成果4 | 学修成果5 | 学修成果6 | 学修成果7 | | | |
| | ○ | | | ○ | ○ | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 造形表現について 表現領域との関連、学びの内容に関する理解 2. 切る活動 はさみの使い方 切り紙体験 3. 貼る活動 切り抜いた形からの想像 4. 描く活動① 様々な表情の線を描く 5. 描く活動② 様々な模様を描く 6. 描く活動③ 形の構成 7. 描く活動④ 観察して描く 8. 数字のデザイン① 季節感を表現する色と形 アイデアスケッチ 9. 数字のデザイン② // 下書き トレース 10. 数字のデザイン③ // 着色 仕上げ 11. 数字のデザイン④ // 合評会 作品をグループ内で発表する 12. 季節を楽しむ造形① 七夕の飾り 13. 季節を楽しむ造形② おばけの飾り 14. 季節を楽しむ造形③ しかけのある絵 15. 前期の学習内容を振り返り、学習成果と今後の課題についてまとめる 16. 画材体験① クレヨン オイルパステル 17. 画材体験② 応用 スクラッチ技法 18. エクスプレッションにむけて ① ウェルカムボードの制作 画材体験 19. エクスプレッションにむけて ② 下書き 20. エクスプレッションにむけて ③ 着色 21. エクスプレッションにむけて ④ 仕上げ 22. 身近な自然素材を生かした造形 木の葉のひらひらさん 23. 見立ての表現① 様々な表情 喜怒哀楽他 24. 見立ての表現② 文房具の仲間たち キャラクター設定 25. 見立ての表現③ 文房具の仲間たち なりきり絵日記 26. 季節を楽しむ造形 雪の結晶 27. 技法の応用① 言葉遊びと切り絵 28. 技法の応用② 合評会 展示 29. 技法の応用③ 水切り 30. 後期の学習内容を振り返り、学習成果と今後の課題についてまとめる | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 日々の生活の中で、面白いと感じるもの、美しいと思うものへの関心を持ってください。また、自然や身の周りのものを観察することを意識してみましょ。事後学習では、自身の取り組みについて振り返り、ワークシートに記録していきます。 | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 制作では、イメージを広げること、アイデアの収集等、形にしていく過程を意識し、取り組んでください。造形表現の土台となる発想力を高めるために、想像したり、考えたりすることを習慣にしてください。(30分程度～) | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 0 | | | | | | | | |
| | 実践 | 70 | 制作の内容(課題作品 ワークシート) | | | | | | | |
| | レポート | 15 | | | | | | | | |
| | その他 | 15 | 授業、制作に対する姿勢 | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 提出された課題作品およびワークシートに対して、評価コメントを記載し、返却します。 | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | プリントを配布します。 | | | | | | | | | |
| 参考書 | 幼稚園教育要領解説(最新版) 文部科学省/著 フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(最新版) 内閣府・文部科学省・厚生労働省/著 フレーベル館 保育所保育指針解説(最新版) 厚生労働省/編 フレーベル館 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|---|-------|--------------------|-------|-----------|-------|-------|--|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | | |
| 科目名 | 保育の国語 E41034 | 1年前期 | 演習 | 1 | 選択 | | | | | |
| 担当教員 | 松永 幸代 | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 保育者は、仕事上のあらゆる場面で言葉によって表現することを求められます。子どもや保護者との会話、絵本の読み聞かせ、連絡帳やお便り、保育の記録や指導計画など、すべて言葉による表現です。この授業では「聞く」「話す」「読む」「書く」ことを通して、保育者を志す者として必要とされる国語表現に関する知識と技術の習得を目指します。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・国語の基本的知識を身につける。 ・保育者に必要な「聞く」「話す」「読む」「書く」力を身につける。 ・目的や意図に応じて適切な「言葉での表現」ができる。 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | 学修成果4 | 学修成果5 | 学修成果6 | 学修成果7 | | | |
| | ○ | | | ○ | ○ | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション/挨拶と自己紹介 2. 敬語の種類と使い方/新聞を読む 3. 文章の基本 4. 保育現場での話し方 5. 保育と絵本 6. 絵本の読み聞かせをしよう 7. 実習日誌の書き方 8. 指導計画の書き方 9. 実習礼状など手紙・はがきの書き方 10. 連絡帳を書いてみよう 11. 意見文を書こう 12. 小論文を書こう① 13. 小論文を書こう② 14. 保育者の表現技術/人形劇との出会い 15. 保育者の表現技術（外部講師による指導） | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 適切な文章表現をするためには、技術を磨くだけでなく、その基礎となる豊かな教養が必要です。日頃から、新聞や本を読み、文章に触れる機会を増やしてください。また、自分の言葉遣いについて、子どもの手本となるように意識をもってください。毎回の授業で学んだことを復習し、日常生活や他の授業・実習で実践してください。 | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 毎回行う漢字小テストの準備学習をしてください。テキスト内のワークシート等を事後学習課題として解いてください（毎回40分程度） | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 0 | | | | | | | | |
| | 実践 | 50 | 理解・表現（毎回の課題への記入内容） | | | | | | | |
| | レポート | 50 | 表現（テーマに沿った小論文の作成） | | | | | | | |
| | その他 | 0 | | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | ワークシート課題に対する添削を行い返却します。返却されたワークシートは、必ず見直しや復習をしてください。 | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 篠原京子『保育者をめざす人のためのことばの表現—話す・聞く・書く—』建帛社 | | | | | | | | | |
| 参考書 | <p>長島和代編『【改訂2版】これだけは知っておきたい 保育のマナーと言葉』わかば社</p> <p>長島和代編『【改訂2版】これだけは知っておきたい 保育の基本用語』わかば社</p> <p>馬見塚明久『改訂 保育学生のための基礎学力演習—教養と国語力を伸ばす30Lesson』2021 中央法規</p> <p>必要に応じて適宜授業内で紹介します。</p> | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|--|--------|----------------------------|--------|-----------|--------|--------|--|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | | |
| 科目名 | 保育内容総論 E32035 | 1年後期 | 演習 | 1 | 必修 | | | | | |
| 担当教員 | 壬生 江美 | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 保育所保育指針等を読み込みながら、テキストを使って保育の基本と内容の歴史をたどる。さらに、子どもの発達やそれに沿った遊び、環境の構成や生活のあり方、指導計画の展開などを保育内容に関連付けて理解を深める。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。 2. 保育所保育指針の各省のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 3. 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程（計画・実践・記録等）につなげて理解する。 4. 保育の多様な展開について具体的に理解する。 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | 学修成果 5 | 学修成果 6 | 学修成果 7 | | | |
| | | | ○ | ○ | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の全体構造と保育内容 (1) 保育所保育指針に基づく保育の全体構造と保育内容の理解 2. 保育の全体構造と保育内容 (2) 保育の内容の歴史の変遷とその社会的背景 3. 保育の全体構造と保育内容 (3) 子どもの発達や生活に即した内容の基本的な考え方 4. 保育の基本を踏まえた保育内容の展開 (1) 養護と教育が一体的に展開する保育 5. 保育の基本を踏まえた保育内容の展開 (2) 子どもの主体性を尊重する保育 6. 保育の基本を踏まえた保育内容の展開 (3) 環境を通して行う保育 7. 保育の基本を踏まえた保育内容の展開 (4) 生活や遊びによる総合的な保育 8. 保育の基本を踏まえた保育内容の展開 (5) 個と集団の発達を踏まえた保育 9. 保育の基本を踏まえた保育内容の展開 (6) 家庭や地域との連携をふまえた保育 10. 保育の基本を踏まえた保育内容の展開 (7) 小学校等への連携を踏まえた保育 11. 保育の多様な展開 (1) 長時間の保育、特別な配慮を要する子どもの保育 12. 保育の多様な展開 (2) 多文化共生の保育 13. 保育内容の向上を目指して①：指導計画の作成の理解 14. 保育内容の向上を目指して②：教材研究 15. 保育内容の向上を目指して③：指導計画の作成 | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 毎時間、テキストを読んで事前学習をする。事後学習として「まとめ」(振り返り) も行う。毎回レジュメ(資料)を配布する。 | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | テキスト及び授業内で配布したプリントを確認し、復習を行って下さい。(各回1時間程度) | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 50 | 知識・理解(保育内容についての学びの振り返り) | | | | | | | |
| | 実践 | 50 | 表現(演習課題への取り組み、ワークシートの記入内容) | | | | | | | |
| | レポート | 0 | | | | | | | | |
| その他 | 0 | | | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 各回、ワークシートの記入・提出をしてください。 | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 『新しい保育講座4 保育内容総論』2023、 編著 渡邊英則 大豆生田啓友 ミネルヴァ書房 | | | | | | | | | |
| 参考書 | 幼稚園教育要領解説(最新版) 文部科学省/著 フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(最新版) 内閣府・文部科学省・厚生労働省/著 フレーベル館 保育所保育指針解説(最新版) 厚生労働省/編 フレーベル館 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|---|--------|---------------|--------|-----------|--------|--------|--|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | | |
| 科目名 | 子どもと健康（保育内容） E 31036 | 1 年前期 | 演習 | 1 | 必修 | | | | | |
| 担当教員 | 松本 彰之 | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | この授業では、現代の健康に関する現状や課題を把握し、子ども達の健康な心とからだを育てていくために必要な知識を確認していきます。また、子ども達が自らのからだに関心を持ち、健康について考え、行動していくことができる指導、援助の方法についても学びます。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領における領域「健康」のねらいと内容について理解する。 ・ 子どもの健康な心とからだを育てていくために必要な知識を習得する。 ・ 子どもの発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | 学修成果 5 | 学修成果 6 | 学修成果 7 | | | |
| | | | ○ | ○ | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、子どもの健康な育ちを保障するために 2. 健康な子ども、元気な子どもの姿とは？ 3. 子どもの全面発達と、現代っ子の健康課題 4. 運動遊びの実際①（実技） 5. 生活リズムの獲得 6. 恒温の獲得 7. いまだからこそ、五感の獲得 8. 運動遊びの実際②（実技） 9. 未熟から成熟への発達の概念とその援助 10. 子どもの運動発達の保障と体力 11. 脳の発達と概念の獲得 12. 運動遊びの実際③（実技） 13. 基本的な生活習慣獲得の保障 14. 子どもの視点に立った安全生活の保障 15. 指導計画書の作成、情報機器を活用した保育を考える | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | <p>前回の授業で学んだことを確認して、次の授業に参加してください。</p> <p>授業で学んだことを意識しながら、自分自身の健康に関心を持ち、リズムの整った生活を送れるようにしてください。</p> | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | テキスト及び授業内で配布したプリントを確認し復習を行ってください。（各回 1 時間程度） | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 80 | 授業内容の理解度 | | | | | | | |
| | 実践 | 20 | ワークシート・演習内容など | | | | | | | |
| | レポート | 0 | | | | | | | | |
| | その他 | 0 | | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 課題に対する添削を行い返却します。 | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 演習 保育内容「健康」—大人から子どもへつなぐ健康の視点 井狩芳子 萌文書林 | | | | | | | | | |
| 参考書 | <p>幼稚園教育要領解説（最新版）文部科学省/著 フレーベル館</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）内閣府・文部科学省・厚生労働省/著 フレーベル館</p> <p>保育所保育指針解説（最新版）厚生労働省/編 フレーベル館</p> | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|--|--------|---------------------------------|--------|-----------|--------|--------|--|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | | |
| 科目名 | 子どもと人間関係(保育内容) E 32037 | 1年後期 | 演習 | 1 | 必修 | | | | | |
| 担当教員 | 壬生 江美 | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 乳幼児期における人間関係の発達について学び、保育内容「人間関係」のねらい及び内容について子どもの姿と保育実践を関連させて理解を深める。子どもの発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身に付ける。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所保育指針および幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領における領域「人間関係」のねらいと内容について理解する。 ・ 子どもの人間関係の育ちについて理解する。 ・ 乳幼児期における人間関係の発達の特徴を踏まえた保育を計画する。 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | 学修成果 5 | 学修成果 6 | 学修成果 7 | | | |
| | | | ○ | ○ | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・領域「人間関係」における保育及び教育の目標 2. 現代社会と人間関係 3. 領域「人間関係」におけるねらいと内容 4. 身近な人との関わりと発達 5. 保育者に求められている人間関係 6. 仲間との関わりと発達 7. 人との関わりが難しい子への支援 8. 遊びのなかでの人との関わりと保育者の役割① 9. 遊びのなかでの人との関わりと保育者の役割② 10. ルールのある遊びの教材研究 11. 領域相互の関連性と保育展開一指導計画の意義・作成①※情報機器を活用する 12. 領域相互の関連性と保育展開一指導計画の意義・作成②※情報機器を活用する 13. 模擬保育① 14. 模擬保育② 15. 模擬保育振り返り | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 領域「人間関係」のねらいと内容、解説部分をよく読んで理解すること。また、実習や日常生活の中で子どもの姿を見かけたら、誰とどのような関わり合いをしているかを観察し考えたことを記録する。授業後には資料を読み直し、各回で扱った内容を振り返る。模擬保育を行うために、ルールのある遊びを調べておくこと。 | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 授業後に1時間程度、各回の資料や領域「人間関係」の解説を読み直すこと。 | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 0 | | | | | | | | |
| | 実践 | 50 | 演習への取り組み(グループワークやワークシートへの取り組み等) | | | | | | | |
| | レポート | 50 | 最終レポート | | | | | | | |
| | その他 | 0 | | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | ワークシートの記入・提出をしてください。 | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 〈領域〉人間関係ワークブック、2024 田村美由紀・室井佑美 著、萌文書林 | | | | | | | | | |
| 参考書 | 幼稚園教育要領解説(最新版)文部科学省/著 フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(最新版)内閣府・文部科学省・厚生労働省/著 フレーベル館 保育所保育指針解説(最新版)厚生労働省/編 フレーベル館 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|---|--------|-------------------------------|--------|-----------|--------|--------|--|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | | |
| 科目名 | 子どもと環境 (保育内容) E 32038 | 1 年後期 | 演習 | 1 | 必修 | | | | | |
| 担当教員 | 松本 彰之・壬生 江美 | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 幼児教育の基本は、「環境を通して行うこと」である。このことについての理解を深め、保育現場で乳幼児の育ちを人的環境の一部として支援できる力を身に付けることを目標とする。また、保育者自身が周囲の様々な環境に好奇心を持って関わり、それらを生活・保育に取り入れていこうとする姿勢が大切であることも確認する。併せて、身近な自然環境や社会環境への理解を深めるための様々な体験活動にも取り組み、実践力を身につける。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領における領域「環境」のねらいと内容について理解する。 ・ 周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、環境を構成する様々な要因についてその性質や意味を知る。 ・ 子どもの発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | 学修成果 5 | 学修成果 6 | 学修成果 7 | | | |
| | | | ○ | ○ | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、「環境」とは一人間の生活と環境、ESD for SDGs 2. 子どもを取り巻く環境の変化、ねらい及び内容について 3. 園の環境、子どもの発達と環境ー誕生から満3歳まで 4. 自然とふれあい感動する 5. 物事の法則性に気づく 6. 季節感を味わう 7. 自然を取り入れて遊ぶ 8. 生命の営みにふれる 9. 身のまわりの物に愛着をもつ 10. 科学を体感する①*特別講師 11. 科学を体感する②*特別講師 12. 数量・図形に親しむ 13. 標識や文字の必要感を育む 14. 身近な情報や施設を生かし、生活を豊かにする 15. 教材研究と指導計画 | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 身の回りの環境に対して「すごいな」「どうしてだろう？」と心を開くことが、保育者として大事です。その感性を磨く時間を持ちましょう。 | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | テキスト及び授業内で配布したプリントを確認し復習を行ってください。(各回 30 分程度) | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 0 | | | | | | | | |
| | 実践 | 40 | 表現・技能 (フィールドワークやグループワークなどの実践) | | | | | | | |
| | レポート | 60 | 知識・思考・表現 (最終レポートの記入内容) | | | | | | | |
| | その他 | 0 | | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 気象状況などによって授業計画に変更が生じる場合があります。 屋外での活動を伴う場合があります。事前に連絡を行うので、屋外活動に適した服装・持ち物など授業前に確認をしてください。 | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 体験する調べる考える 領域「環境」、田宮緑 著、萌文書林 | | | | | | | | | |
| 参考書 | 幼稚園教育要領解説 (最新版) 文部科学省/著 フレーバル館 幼児連携型認定こども園教育・保育要領解説 (最新版) 内閣府・文部科学省・厚生労働省/著 フレーバル館 保育所保育指針解説 (最新版) 厚生労働省/編 フレーバル館 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|--|--------|-------------------------------|--------|-----------|--------|--------|--|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | | |
| 科目名 | 子どもとことば (保育内容) E 33039 | 2 年前期 | 演習 | 1 | 必修 | | | | | |
| 担当教員 | 松永 幸代 | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 保育所保育指針・幼稚園教育要領「言葉」のねらいや内容を理解し、子どもの発達を領域「言葉」の観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学びます。言葉の持つ機能および乳幼児期の子どもの言葉の発達の状況を理解し、それぞれの発達段階における特性を把握できるようにします。また、保育・幼児教育に生かせる教材の選択や指導方法のあり方を考えます。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「言葉」のねらいや内容を理解する。 ・乳幼児期の言葉の発達の特徴について映像資料等を通して理解し、保育者としての援助のあり方を理解する。 ・児童文化財についての知識を深め、実践に活かす方法を考える。 ・具体的な保育の場面を想定して、保育の計画を立て、実践する。 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | 学修成果 5 | 学修成果 6 | 学修成果 7 | | | |
| | | | ○ | ○ | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション／子どもにとっての言葉の機能 (映像資料を通して) 2. 領域「言葉」のねらいと内容 3. 子どものことばの発達 胎生期・新生児期 (映像資料を通して) 4. 子どものことばの発達 乳児期 (映像資料を通して) 5. 子どものことばの発達 幼児期 (映像資料を通して) 6. 小テスト/ことばの発達と絵本 7. 実習でみつけた子どもの言葉を記録・分析する 8. ことばでの関わりに配慮を必要とする子どもへの支援 9. 児童文化財の現在 (デジタル絵本を考える) 10. ことば遊び (基本) (教材研究) 11. ことば遊び (発展) (教材研究) 12. ことばの発達を促す援助 13. 領域「言葉」を中心にした保育の計画 (指導案の作成) 14. 領域「言葉」を中心にした保育の計画 (グループワーク) 15. 領域「言葉」を中心にした保育の実践 (模擬保育/まとめ) | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | <ul style="list-style-type: none"> ・日頃から自分の言葉遣いや子どもの言葉遣い、話し方について関心を持ち、振り返ったり、考えたりする機会を持ちましょう。また、図書館で絵本や紙芝居を読む時間を作るようにしましょう。 ・模擬保育はグループワークになります。授業外の時間を使っての準備が必要になることもあります。 | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 授業中は演習に集中できるように、事前に毎回30分程度テキストを読んで理解しておいてください。また、保育指針・教育要領解説を読み込むようにしてください。 | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 0 | | | | | | | | |
| | 実践 | 50 | 理解・思考 (教材研究・指導案作成・模擬保育の取り組み) | | | | | | | |
| | レポート | 50 | 理解 (領域「言葉」の目標・内容理解 ことばの発達の理解) | | | | | | | |
| | その他 | 0 | | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 毎回の振り返りシートにより、各回の授業目標が達成できているかを評価します。振り返りシート・ワークシート・小テストに対する添削を行い返却します。 | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 『新時代の保育双書 保育内容ことば (第3版)』 赤羽根有里子・鈴木穂波編 みらい | | | | | | | | | |
| 参考書 | 幼稚園教育要領解説 (最新版) 文部科学省/著 フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 (最新版) 内閣府・文部科学省・厚生労働省/著 フレーベル館 保育所保育指針解説 (最新版) 厚生労働省/編 フレーベル館 『子どもとことば』 岡本夏木 (岩波新書) 『子どもはことばをからだで覚えるーメロディから意味の世界へー』 正高信男 (中公新書) 『ことばの発達の謎を解く』 今井むつみ (ちくまプリマー新書) 『いつでもどこでも言葉あそび』 グループこんぺいと (メイト) | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-----------------|--|--------|--------|--------|-----------|--------|--------|--|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | | |
| 科目名 | 子どもの表現 (保育内容) E 33040 | 2 年前期 | 演習 | 2 | 必修 | | | | | |
| 担当教員 | 若原 真由子・青木 千恵美 | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 保育内容の各領域を総合的に捉え表現活動を中心に子どもの実態に応じた保育内容の展開や指導法を学ぶ。身体の動きや五感、音やリズム、ものの色や形や質感などの様々な表現のツールを用いて表現活動の特徴や面白さを確認し応用や発展を考え実践を重ね、総合的な表現活動を構想、計画、指導、実践する力を身に付ける。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園保育教育要領に示された基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。 ・ 子どもの発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | 学修成果 5 | 学修成果 6 | 学修成果 7 | | | |
| | | | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 領域「表現」のねらい及内容について具体例を通して理解する①音楽表現の見地から (担当：若原) 2. 領域「表現」のねらい及内容について具体例を通して理解する②造形表現の見地から (担当：青木) 3. 子どもの発達に関連する造形表現の特徴について理解する (担当：青木) 4. 子どもの発達を理解し表現活動において育みたい能力について考える (担当：若原) 5. 身近な環境に素材やテーマを求め、表現活動 (造形) を体験する (担当：青木) 6. 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を表現活動の面から考え、小学校での様々な教科にどうつなげていくか評価の考え方を含めて理解する (担当：若原) 7. 身近な環境で体験した表現活動 (造形) で得られた素材を生かし、さらに活動を展開する方法について考える (担当：青木) 8. 子どもの表現と表出の違いについて具体例より考察し、表現を広げる指導法を考える (担当：若原) 9. 色彩の分類や配色に関する基本的事項の学びを振り返り、表現活動や環境構成に生かす方法について考える (担当：青木) 10. 指導に繋げるために、歌、楽器、リズム遊び等具体的な教材研究の方法を学ぶ (担当：若原) 11. 水彩絵の具を用いた教材研究を通して、画材の特徴を理解し、色や形による表現活動について考える (担当：青木) 12. 事例より子どもの心情、認識、思考及び動きを考察し、経験を通して身に付けていく表現の内容を理解して、指導法上の留意点を知る (担当：若原) 13. 水彩絵の具の教材研究を通して得られた素材を生かし、さらに活動を展開する方法について考える (担当：青木) 14. 保育実践の具体例や、幼児教育における音楽メソッドについて学び、保育・幼児教育現場での音楽表現の実践の動向に目を向け、保育・幼児教育における構想力の向上を計る (担当：若原) 15. 季節や行事に関連する表現活動にテーマを求め、表現活動を体験する (担当：青木) 16. 子どもの感性に訴え、表現を引き出すための言葉掛けについてグループで話し合い、保育・幼児教育場面を想定して具体的な活用を試みる (担当：若原) 17. 季節や行事にテーマを求めて体験した表現活動 (造形) で得られた素材を生かし、さらに活動を展開する方法について考える (担当：青木) 18. 子どもの感性に触れる音環境についてグループで話し合い、保育現場での具体的な環境構成を考える (担当：若原) 19. 紙皿や紙コップ、段ボールなど、身近な紙製品を素材にした表現活動 (造形) を体験し、環境構成のツールとして生かす方法について考える (担当：青木) 20. 表現活動における情報機器及び教材の活用法について、事例を通して学び、実際に体験することで、保育構想に活用する方法を考える (担当：若原) | | | | | | | | | |

| | | | |
|-------------------|--|--------|--|
| | <p>21. 画材との出会い、偶然性から生まれる表現活動（造形）を体験し、そこで得られた素材を生かした表現活動や環境構成として生かす方法について考える（担当：青木）</p> <p>22. 指導案作成をするにあたり、音楽的なねらいを具体的に考え、教材研究を行う（担当：若原）</p> <p>23. これまでの学びを振り返り、表現活動（造形）を実践するための指導案をグループで作成する（担当：青木）</p> <p>24. モデル指導案をグループワークで作成し、ロールプレイを行う準備をすることによって、保育の援助について話し合う（担当：若原）</p> <p>25. グループで作成した指導案に沿って、教材研究を行う（担当：青木）</p> <p>26. 3歳未満児の音楽遊びの指導案を作成して模擬保育を行い、その様子を録画したのを見て振り返りをする（担当：若原）</p> <p>27. グループで、指導案に沿って表現活動（造形）を実践し、その実践を振り返り改善点等について話し合う（担当：青木）</p> <p>28. 3歳～5歳児の音楽表現の指導案を作成して模擬保育を行い、その様子を録画したのを見て振り返りをする（担当：若原）</p> <p>29. これまでの学びを振り返り、学習成果をまとめる（担当：青木）</p> <p>30. 作成してきたポートフォリオを通して保育の振り返りをし、子ども理解を深め、保育を改善する視点を身に付ける（担当：若原）</p> | | |
| 事前・事後学習について | 表現のための事前準備並びに制作と練習、教材研究、指導計画立案など授業時に課題を課す。授業後はノートのまとめを行う | | |
| 準備学習に必要な時間 | 音楽表現では受講した授業の振り返りと次回の準備のために30分程の時間が必要となる。造形表現では制作のイメージを広げること、アイデアの収集等、形にする以前、発想のためのトレーニングを意識して、習慣にしてください。（30分程度） | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 |
| | 試験 | 0 | |
| | 実践 | 70 | ポートフォリオ、制作についての発想力、構想力、実践力 取り組みの姿勢 (60%) 指導計画と模擬保育への参加姿勢 (40%) |
| | レポート | 30 | 学んだことについてのまとめと考察 |
| | その他 | 0 | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 音楽表現では毎時間ワークシートの記入を行い、提出を義務付ける。添削して次回には返却し、それをフィードバックとする。 造形表現では課題ごとにワークシートの記入、提出があります。提出された課題作品およびワークシートに対して、評価コメントを記載し、返却します。 | | |
| 使用テキスト | 「音楽表現」（教育情報出版） | | |
| 参考書 | 幼稚園教育要領解説（最新版）文部科学省/著 フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）内閣府・文部科学省・厚生労働省/著 フレーベル館 保育所保育指針解説（最新版）厚生労働省/編 フレーベル館 | | |

| | | | | | | | | | |
|-------------------|--|-------|-----------------------|-------|-----------|-------|-------|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | |
| 科目名 | 幼児理解と教育相談 E23041 | 2年前期 | 講義 | 2 | 必修 | | | | |
| 担当教員 | 菱田 博之 | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 子どもや保護者、または施設利用者が自己理解を深めたり、好ましい人間関係を築いたりするための教育活動の基礎を学んでいく。子どもからライフサイクル全体における発達や、それぞれ固有の状況や教育的課題を適切に捉えるための基本的な知識について、発達理論やカウンセリングやコミュニケーションの理論などを踏まえながら学んでいく。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの生活及び遊びの実態に即して、発達・学びやその過程で生じるつまずきを把握する。 2. 発達・学び・つまずきにおける原理を理解し、個性の伸長や人格の成長を支援できるような教育活動を行うことができる。 3. 教育相談の意義と理論を理解し、子どもの心理的状況や教育的課題を組織的対応や連携を含めて適切に捉えることができる 4. カウンセリング理論などを通じた実践的理解が出来、知識・技術・姿勢を身につけている。 | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | 学修成果4 | 学修成果5 | 学修成果6 | 学修成果7 | | |
| | ○ | | ○ | | | ○ | ○ | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション-子ども理解の「意義」と教育相談における「意義」「課題」について 2. 省察的実践家としての自己理解-「わたし」と「体験」と「経験」 3. 子ども理解から発達・学びを捉えるための基本的姿勢 4. 子ども理解を深める為の教師の基礎的な態度：カウンセリング・マインドとは 5. 子ども理解の具体的方法①受容・傾聴・共感的理解について（技法を含む） 6. 子ども理解の具体的方法②具体的事例による演習と省察 7. 保護者の「存在」と「ことばがけ」について：個と集団の関係性の理解 8. 子どものつまずきについて-様々な背景からのシグナルとSOSへの気づき 9. 子どもに対する危機介入について-災害時における子どもへの支援 10. 子どもの最善の利益から考える教育相談の実践 11. 事例から学ぶ①（配慮が必要な子どもへの対応） 12. 事例から学ぶ②（保護者の心情及び基礎的な対応法について） 13. 事例から学ぶ③（園内の連携体制について） 14. 事例から学ぶ④（園と他機関・地域との連携について） 15. まとめと振り返り | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | <p>事前学習：授業前までに、教員からの指示に従い、予習をしてください。対人援助の現場では、早晩自分自身と向き合うこととなります。まず自分はどういう場面でストレスを感じやすいのか、どのようにストレス発散方法を取っているのかについて、意識しておいてください。</p> <p>事後学習：ワークシートにおいて、教員からのコメントについて各自確認し、更に学習を深めてください。</p> | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 図書館・参考図書やメディアを通して1時間程度該当のテーマについて調べて、文章化できるよう理解しておくこと。 | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | |
| | 試験 | 0 | | | | | | | |
| | 実践 | 60 | 講義におけるリアクションペーパーの内容 | | | | | | |
| | レポート | 40 | カウンセリング理論を通じた自己理解の習熟度 | | | | | | |
| | その他 | 0 | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | <p>単に知識や技術を学ぶのではなく、それを踏まえて、自分なりに考え言語化してください。</p> <p>さらに、相手がどのように捉えるのかについても踏まえたうえで自分の意見として言語が出来るように意識して講義を受けるようにしてください。</p> <p>課題については、ワークシートやレポート課題に対する添削を行い返却します。</p> | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 大竹直子著 『やさしく学べる保育カウンセリング』 金子書房、2014年 | | | | | | | | |
| 参考書 | <p>幼稚園教育要領解説（最新版）文部科学省/著 フレーバル館</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）内閣府・文部科学省・厚生労働省/著 フレーバル館</p> <p>保育所保育指針解説（最新版）厚生労働省/編 フレーバル館</p> <p>『「子ども理解」とカウンセリングマインド-保育臨床の視点から』 青木久子他著 萌文書林</p> | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|--|--------|----------------------------|--------|-----------|--------|--------|--|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | | |
| 科目名 | 心理療法 E 34042 | 2年後期 | 演習 | 2 | | | | | | |
| 担当教員 | 菱田 博之 | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 本講義では、子どもに対する心理療法の基礎的な知識を深めていくことを目指す。また、心理療法の学びを通して、自己理解を深め省察的な保育の大切さについて、事例を通して学ぶ。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもに対する心理療法やその理論を学ぶことで、自己理解を深める。 2. 保育者としての現場で出会う子どもや家庭、環境について、心理療法の知見を踏まえた理解が出来、具体的な保育実践につなげることができる。 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | 学修成果 5 | 学修成果 6 | 学修成果 7 | | | |
| | ○ | | ○ | | | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：心理療法とは 2. 子どものこころの問題とは 3. 子どもを取り巻く環境について 4. 子どもへのさまざまなアプローチの方法と実践① 5. 子どもへのさまざまなアプローチの方法と実践② 6. 子どもへのさまざまなアプローチの方法と実践③ 7. 子どもの心的外傷について① 8. 「気になる」子どもと家族への対応について① 9. 「気になる」子どもと家族への対応について② 10. 絵本から学ぶ心理臨床 11. 映画にみる心理療法① 12. 映画にみる心理療法② 13. 外部講師による現場での心理療法の実践についての講義 14. 事例からの検討 15. まとめと総括 | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | <p>事前学習：どのような場面で子どものこころが傷つくのか、また子どものこころの傷つきに対してどのような関わり方が大切であるか、それらを扱ったドラマや漫画、絵本などに触れるようにしてください。</p> <p>事後学習については、ワークシートにおいて、教員からのコメントについて各自確認し、更に学習を深めてください。</p> | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 毎回教員から出されるテーマについて、30分～1時間程度図書館の資料やテキストを通じて概要を捉えておいてください。 | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 0 | | | | | | | | |
| | 実践 | 60 | 講義中の実践、講義に対するリアクションペーパーの内容 | | | | | | | |
| | レポート | 40 | 各心理療法の理論を通した子ども理解の習熟度 | | | | | | | |
| | その他 | 0 | | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 事後学習：授業で取り扱った実践や体験をレポートにて言語化し、整理しておいてください。課題のフィードバックについては、試験終了後に解説やレポート課題に対する添削を行い返却します。 | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 白川美也子『赤ずきんとオオカミのトラウマ・ケア』アスク・ヒューマン・ケア、2016年 | | | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|---|--------|---------------------|--------|-----------|--------|--------|--|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | | |
| 科目名 | 保育・教育課程総論 E 42043 | 1 年後期 | 講義 | 2 | 必修 | | | | | |
| 担当教員 | 波多 彩花・松本 彰之 | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 本授業では、幼児期の保育・教育における指導計画の基本や特徴、作成の方法などを学ぶ。種々の保育・教育実践を基に幼児期の保育・教育の実際について考える。保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読み取り、保育・教育場面におけるそれぞれの指導計画の意義や繋がり、作成の原則と実際を学び、作成方法の理解に繋げる。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・保育及び教育の内容の充実と、質の向上に資する保育及び教育の計画と評価について理解する。 ・全体的な計画及び教育課程と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。 ・子どもの理解に基づく保育・教育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）について、その全体構造を捉え、理解する。 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | 学修成果 5 | 学修成果 6 | 学修成果 7 | | | |
| | | | ○ | ○ | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス/カリキュラムの基礎理論① 2. カリキュラムの基礎理論② 3. 保育・教育における計画と評価の意義 4. 子どもの理解に基づく保育・教育の過程の循環による保育・教育の質の向上 5. 指針・要領の内容及び社会的背景 6. 指針・要領における保育の目標と計画の基本的考え方 *特別講師 7. 全体的な計画・教育課程の基本原則/全体的な計画・教育課程と指導計画の関係性 8. 全体的な計画・教育課程の作成 9. 保育・教育の質向上に向けた改善の取り組み（カリキュラム・マネジメント） 10. 指導計画の作成と留意事項（長期的） 11. 指導計画の作成と留意事項（短期的）① 12. 指導計画の作成と留意事項（短期的）② 13. 計画に基づく教育・保育の柔軟な展開 14. 幼稚園教諭・保育士・保育教諭及び幼稚園・保育所・認定こども園の自己評価 15. 学校や地域との連続性と連携（要録） <p>※上記「指針・要領」については、「保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領」と読み替える。</p> <p>※上記「要録」については、「保育所児童保育要録・幼稚園幼児指導要録・幼保連携型認定こども園園児指導要録」と読み替える。</p> | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | シラバスに明記された内容に該当するテキストの章について事前に一読しておくこと。 授業内容のポイントをまとめ、復習をして理解を深める。 | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 予習：テキスト等に目を通してきてください。（30分程度） 復習：授業配布資料、テキスト等で振り返りを行ってください。（30分程度） | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 0 | | | | | | | | |
| | 実践 | 30 | 演習での成果、提出物（ワークシート等） | | | | | | | |
| | レポート | 60 | レポート課題に対する理解と的確な考察 | | | | | | | |
| | その他 | 10 | 授業への貢献度 | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | テキストと配布資料を使用します。テキストは必ず持参してください。 原則として、提出された課題については、添削等を行いません。 | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 柴田長正・大森弘子 編著『子どもの育ちを支える 保育の計画と評価』北大路書房 | | | | | | | | | |
| 参考書 | 必要に応じて、授業内で紹介します。 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|-------------------|--|--------|-----------------------|--------|-----------|--------|--------|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | |
| 科目名 | 乳児保育 I E 32044 | 1 年後期 | 講義 | 2 | | | | | |
| 担当教員 | 壬生 江美・菱田 博之・中山 美香・坂上 ちおり | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 乳児期は、基本的な人の礎が築かれるときである。0 歳児は身体の発達や健康面を中心に学習する。1、2 歳になるにつれて、身体の発達、保健・健康以外にも大きな変化が表れる。本講義では、運動、遊び、コミュニケーション、言語の発達、母子関係、生活習慣を中心に講義を進める。講義を行う教員は、保育・教育、医学、母子保健、心理等の専門領域に関わる教員がそれぞれ担当する。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 1. 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について理解する。 2. 保育所等における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 ※「乳児保育」とは、3 歳未満児を念頭においた保育を示す。 | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | 学修成果 5 | 学修成果 6 | 学修成果 7 | | |
| | | | ○ | ○ | | ○ | | | |
| 授業計画 | 1. 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷 2. 乳児保育の役割と機能 3. 妊娠と出産 4. 新生児の特徴 5. 母子・父子の愛着形成 6. 3 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育 (1) 6 か月未満児の発達と保育① 7. 3 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育 (1) 6 か月未満児の発達と保育② (わいわいひろばにおける 3 歳未満児の観察を含む) 8. 3 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育 (2) 6 か月から 2 歳未満児の発達と保育① 9. 3 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育 (2) 6 か月から 2 歳未満児の発達と保育② (わいわいひろばにおける 3 歳未満児の観察を含む) 10. 3 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育 (3) 2 歳児の発達と保育① 11. 3 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育 (3) 2 歳児の発達と保育② (わいわいひろばにおける 3 歳未満児の観察を含む) 12. 乳児保育における連携・協働—自治体や地域の関係機関との連携・協働— (※外部講師) 13. 乳児保育における連携・協働—職員間の連携・協働、保護者との連携・協働— 14. 乳児保育における計画・記録・評価とその意義 15. 乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題 (※外部講師) ・壬生担当範囲 1～2、13～15 ・菱田担当範囲 6～11 ・中山担当範囲 3、4 ・坂上担当範囲 5 ・外部講師 12、15 | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 保育士資格取得に関する必修の教科である。今日の社会情勢、家族の姿の変化等から、社会に子育てを助ける役割が求められる。他教科での学びを基に、他職種の教員からも専門的な知識や技術を学ぶ。事前学習としては 1 年次の実習の記録や授業で扱った乳児保育に関するプリントや資料等を見返し、整理しておく。また、事後学習としては、講義で使用したプリントや資料を見返し、整理する。 | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | テキストや授業で配布された資料を確認し、復習してください。(60 分程度) | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | | | | | |
| | 試験 | 70 | 乳児保育に関する知識、技能 | | | | | | |
| | 実践 | 0 | | | | | | | |
| | レポート | 30 | 思考、表現 (ワークシートなどの提出物等) | | | | | | |
| | その他 | 0 | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 各回、ワークシートの記入・提出をしてください。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 「はじめて学ぶ 乳児保育 第三版」、2025 志村聡子編 同文書院 | | | | | | | | |
| 参考書 | 保育所保育指針解説 厚生労働省 フレーバル館 2017 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|--|-------|----------------------------------|-------|-----------|-------|-------|--|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | | |
| 科目名 | 乳児保育Ⅱ E 33045 | 2年前期 | 演習 | 1 | | | | | | |
| 担当教員 | 壬生 江美・松永 幸代・菱田 博之・波多 彩花 | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 1年生の講義で学んだ知識を基に「わいわいひろば」や「姉妹園」で乳児や3歳未満児、あるいは保護者と関わり、観察記録を取り、まとめを発表する。また、実際にわいわいひろばで行われる「なつまつり」の指導計画を立案し、計画の作成について具体的に理解する。乳児を対象とした玩具や絵本を製作し、乳児保育における環境構成や配慮の実際についても学ぶ。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 1. 3歳未満児の発育・発達過程や特性を踏まえた援助や関わりの方針について理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 3. 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。 4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。 ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | 学修成果4 | 学修成果5 | 学修成果6 | 学修成果7 | | | |
| | | | ○ | ○ | | ○ | | | | |
| 授業計画 | 1. 乳児保育の基本 (1) 子どもと保育士等との関係の重要性 2. 乳児保育の基本 (2) 個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり 3. 乳児保育の基本 (3) 子どもの主体性の尊重と自己の育ち 4. 乳児保育の基本 (4) 子どもの体験と学びの芽生え 5. 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際 (1) 子どもの1日の生活の流れと保育の環境 (※外部講師) 6. 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際 (2) 子どもの生活や遊びを支える環境の構成 一乳児の発達の特徴と絵本、簡単絵本を作ろうー 7. 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際 (3) 3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際 保育所・認定こども園での観察と記録① 8. 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際 (3) 3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際 保育所・認定こども園での観察と記録② 9. 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際 (4) 3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際 子育て支援拠点施設(わいわいひろば)での観察と記録① (※外部講師) 10. 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際 (4) 3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際 子育て支援拠点施設(わいわいひろば)での観察と記録② (※外部講師) 11. 乳児保育における計画の実際 (1) わいわいひろば「なつまつり」指導計画立案① 12. 乳児保育における計画の実際 (1) わいわいひろば「なつまつり」指導計画立案② 13. 乳児保育における配慮の実際 (1) 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮ー赤ちゃん玩具の製作を通して①ー 14. 乳児保育における配慮の実際 (1) 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮ー赤ちゃん玩具の製作を通して②ー 15. 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際 (5) 子ども同士の関わりと援助の実際 子育て支援拠点施設(わいわいひろば)での実践「なつまつり」に参加 (※外部講師) | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 保育士資格取得に関する必修の教科である。今日の社会情勢、家族の姿の変化等から、社会に子育てを助ける役割が求められている。他教科での学びを基に、他職種の教員からも専門的な知識や技術を学ぶ。事前学習としては1年次の実習の記録や授業で扱った乳児保育に関するプリントや資料等を見返す。また、事後学習としては、講義で使用したプリントや資料を見返し、整理する。 | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 授業前には教員から指示された項目について、プリントやテキストなどで確認しておいてください。(60分程度) | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 0 | | | | | | | | |
| | 実践 | 40 | 表現・技能(乳児保育現場での活動参加の状況や演習課題の取り組み) | | | | | | | |
| | レポート | 60 | 知識・思考(実践レポート等の記述内容) | | | | | | | |
| その他 | 0 | | | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 保育所や子育て支援施設で子ども達と関わります。乳児や未満児、保護者等に接するのにふさわしい服装、髪型を心がけましょう。各回でワークシートの記入・提出をしてください。 | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | シードブック 乳児保育Ⅰ・Ⅱー科学的観察力と優しい心ー2019年度新保育士養成課程 対応 建帛社 適宜プリントや資料を配布する。 | | | | | | | | | |
| 参考書 | 保育所保育指針解説 厚生労働省 フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|--|--------|--------------------|--------|-----------|--------|--------|--|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | | |
| 科目名 | 社会的養護Ⅱ E 33046 | 2年前期 | 演習 | 1 | | | | | | |
| 担当教員 | 隣谷 正範 | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 施設実習での経験等から、施設を利用する子どもの実態を分析し、生活支援・発達支援等の方法について検討する。加えて、児童福祉施設で展開される子ども・親（家庭）への個別的・集団的支援をさまざまな視点・分野（領域）から学び、これらの具体的な展開方法について理解することを目的とする。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 次に示す内容について理解している（説明できる）ことを目標とする。 <ul style="list-style-type: none"> 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容 施設養護及び家庭養護の実際 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | 学修成果 5 | 学修成果 6 | 学修成果 7 | | | |
| | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 社会的養護に関わる施設における保育士の役割 社会的養護の体系、保育士の役割・責務・倫理指針等を踏まえた専門性について理解する。 社会的養護の理念と機能の理解 社会的養護の理念・基本原理、施設の機能や役割、制度的枠組み等について理解する。 社会的養護と子どもの権利 子どもの権利（被措置児童等虐待の防止を含む）を守るための各種取り組みについて学ぶ。 施設養護の展開と家庭・家族支援 アドミッションケアからアフターケアに至る各段階、家庭・家族への支援について理解する。 心の育み・傷の癒しに向けた関わり 施設における治療の意義と実際（行動への対処等を含む）について学ぶ。 地域・学校との関係づくり 入所児童が抱える学習上の課題や対応、地域と施設の連携の在り方について理解する。 アセスメントと個別支援計画の関係性 アセスメントの意義及び方法、個別支援計画の実際について学ぶ。 ケース検討 ①（施設入所支援） 被虐待児の事例を通して、家庭復帰に向けた関わりについて理解する。 ケース検討 ②（個別支援計画） 乳児院における事例を通して、個別支援計画に基づく多角的な支援について理解する。 ケース検討 ③（個別支援計画） 児童養護施設における事例を通して、個別支援計画に基づく多角的な支援について理解する。 ケース検討 ④（日常生活支援） 生活支援の事例を通して、障害特性に配慮した支援について理解する。 ケース検討 ⑤（治療的支援） 施設における発達障害児等の事例を通して、子どもへの心理的ケアについて学ぶ。 ケース検討 ⑥（自立支援） 生い立ちへの理解や進学支援の事例を通して、施設養護における自立支援の方法等について理解する。 ケース検討 ⑦（施設養護から里親委託へ） 里親への措置変更の事例を通して、家庭と施設との連携やその際の留意点等について学ぶ。 ケース検討 ⑧（ソーシャルワーク） 家庭支援、里親支援の事例を通して、ソーシャルワークを活用した関わりについて学ぶ。 | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 事前学習として、ケーススタディで使う事例をあらかじめ読み込み、演習開始時には授業展開についていけるようにしておくことを求めます。事後学習では、ケーススタディ等で取り扱った内容について、発表者と自分の意見の違いを分析する等、振り返りを行うなかで考えの幅を広げてください。 | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 授業中は演習に集中できるように、事前の指示に従いテキストの使用頁を読み、当該事例等について理解を深めてくること（毎回30分～1時間程度）。 | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 90 | 社会的養護内容に関する基礎知識の理解 | | | | | | | |
| | 実践 | 0 | | | | | | | | |
| | レポート | 0 | | | | | | | | |
| | その他 | 10 | 授業への貢献度等 | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 各自が復習できるように、試験終了後に解答を公開します。 | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | ・橋本好市ほか 編『演習・保育と社会的養護実践—社会的養護Ⅱ—』みらい | | | | | | | | | |
| 参考書 | 必要に応じて、授業内で紹介します。 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|---|--------|--------------------------|--------|-----------|--------|--------|--|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | | |
| 科目名 | 特別支援教育(概論) E33047 | 2年通年 | 演習 | 2 | 必修 | | | | | |
| 担当教員 | 黒岩 長造 | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 特別の支援を必要とする子どもたちが家庭だけで養育されていた時代から、児童福祉施設や学校現場、医療機関などで個々の状態に対応した保育(教育)がなされるようになってきた。本授業では特別支援が必要な保育(教育)とは何か、について考察し、保育(教育)現場で会うことの多い特別支援の必要な幼児、児童及び生徒の発達、特性について理解する。それに基づき指導計画の立案、指導方法を考察する。また、保護者支援、関係機関との協働、連携について事例を通して体験的に学ぶ。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の保育者や教員、関係機関等と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。 ・ 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。 ・ 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。 ・ 障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | 学修成果 5 | 学修成果 6 | 学修成果 7 | | | |
| | ○ | ○ | | | | ○ | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 特別支援教育に関する制度の理念やしきみについて 2. 発達障害児、軽度知的障害児の発達について 3. 発達障害児、軽度知的障害児の心理的特性について 4. 発達障害児、軽度知的障害児の学習の過程について 5. ASD に対する支援の方法について 6. ADHD に対する支援の方法について 7. LD に対する支援の方法について 8. 軽度知的障害児に対する支援の方法について 9. 視覚障害時の学習上、生活上の困難について 10. 視覚障害児の支援方法について 11. 聴覚障害児の学習上、生活上の困難について 12. 聴覚障害児の支援方法について 13. 知的障害児の学習上、生活上の困難について 14. 知的障害児の支援方法について 15. 肢体不自由児の学習上、生活上の困難について 16. 肢体不自由児の支援方法について 17. 病弱児の学習上、生活上の困難について 18. 病弱児の支援方法について 19. 通級による指導及び自立活動について 20. 個別の指導計画の意義について 21. 個別の指導計画の作成 22. 個別の教育支援計画の意義について 23. 個別の教育支援計画の作成 24. 特別支援教育コーディネーターについて 25. 障害以外に特別支援の必要な幼児、児童及び生徒について 26. 事例検討 (ASD) 27. 事例検討 (ADHD) 28. 事例検討 (LD) 29. 事例検討 (LGBT) 30. 障害児観について | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 障害の正しい理解、理解に基づく教育、保育、保護者支援、関係機関との連携がキーワード。保育所や幼稚園では様々な障害のある子どもと出会う。授業前には1年次からの実習で実際に出会った、子どもの姿について記録の整理を行うこと。また、発達心理学で学習した子どもの発達も理解しておくこと。授業後には多様な障害について授業で使用した資料を読み直し、内容を振り返ること。 | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 授業に集中できるように事前に毎回1時間程度教科書を読んで理解しておいてください。 | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 50 | 障害理解、保護者支援、関係機関に関する知識の習得 | | | | | | | |
| | 実践 | 0 | | | | | | | | |
| | レポート | 50 | 毎回の授業終了時に提出する小レポート | | | | | | | |
| | その他 | 0 | | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | レポート課題に対する添削を行い返却します。 | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 基本保育シリーズ 17 障害児保育 公益財団法人児童育成協会監修 中央法規 | | | | | | | | | |
| 参考書 | 授業で紹介します | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|--|--------|---------------------|--------|-----------|--------|--------|--|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | | |
| 科目名 | 教育方法論 E 33048 | 2 年前期 | 講義 | 2 | 必修 | | | | | |
| 担当教員 | 波多 彩花 | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育・保育の方法、教育・保育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けることを目的とする。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> • これからの社会を担う子どもたちに求められる資質と能力を育成するために必要な教育及び保育の方法を理解する。 • 教育及び保育の目的に適した指導技術を理解し、身に付ける。 • 情報機器を活用した効果的な教育及び保育や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成と活用に関する基礎的な能力を身に付ける。 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | 学修成果 5 | 学修成果 6 | 学修成果 7 | | | |
| | | ○ | ○ | ○ | | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育・保育方法の基礎的理論（教育・保育方法の歴史的変遷） 2. 教育・保育方法の基礎的理論（現代の教育・保育方法の動向等） 3. 資質・能力を育成するための教育・保育方法の在り方 4. 教育・保育を構成する基礎的な要件等 5. 教育・保育における評価の基礎的な考え方 6. 教育・保育における基礎的な技術 7. 指導計画の作成等 8. 情報機器を活用した教材の作成・提示/情報活用能力（情報モラル）の育成等 9. 発達を援助する知識および技術（乳児期・幼児期の発達） 10. 幼保小連携をふまえた教育・保育のあり方 11. 特別な配慮を必要とする子どもの保育・教育 12. 生活援助の知識および技術/環境を構成していく知識および技術 13. 遊びを豊かに展開していくための知識および技術 14. 関係構築の知識および技術等 15. 相談、助言に関する知識および技術等 | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 1 年次からの学習内容や実習での経験を振り返り、各回で扱う内容に関して考える。シラバスに明記された内容に該当するテキストの章について事前に一読しておくこと。授業内容のポイントをまとめ、復習をして理解を深める。 | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 予習：テキスト等に目を通してきてください。（30 分程度） 復習：授業配布資料、テキスト等で振り返りを行ってください。（30 分程度） | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 90 | 教育方法論の基礎知識の理解 | | | | | | | |
| | 実践 | 10 | 演習での成果、提出物（ワークシート等） | | | | | | | |
| | レポート | 0 | | | | | | | | |
| | その他 | 0 | | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | テキストと配布資料を使用します。テキストは必ず持参してください。各自が復習できるように、試験終了後に解答を公開します。 | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 開仁志 編著『マンガと事例でポイントをつかむ 幼児教育・保育方法論』教育情報出版 | | | | | | | | | |
| 参考書 | 必要に応じて、授業内で紹介します。 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|---|--------|---------------------|--------|-----------|--------|--------|--|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | | |
| 科目名 | 子ども家庭支援論 E22049 | 1年後期 | 講義 | 2 | | | | | | |
| 担当教員 | 隣谷 正範 | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 子ども家庭支援に必要な視点及びそれらが分かる実際の例から、家庭支援の具体的な内容や方法等を把握する。また、関連項目を体系的に学習するなかで、子育て家庭が抱える多様なニーズに対する専門性を活かした支援について理解することを目的とする。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 次に示す内容について理解している（説明できる）ことを到達目標とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・子育て家庭に対する支援の意義・目的 ・保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本 ・子育て家庭に対する支援の体制 ・子育て家庭のニーズに応じた多様な保育の展開 ・子ども家庭支援の現状・課題 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | 学修成果 5 | 学修成果 6 | 学修成果 7 | | | |
| | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 子育て家庭を取り巻く社会の変容 子育て家庭の環境や、家族・家庭の意味等について理解する。 2. 子ども家庭支援（子育て支援）の目的と機能 子どもの権利と子育て支援の観点から、子育て支援の目的と機能について理解する。 3. 夫婦・親子関係の理解と支援 さまざまな家族の形（事実婚、ステップファミリー、養子制度、国際結婚等）と支援について学ぶ。 4. 家族の状況等に応じた支援 ① 家族内の関係性を捉える分析方法（ジェノグラム・ファミリーマップ）について学ぶ。 5. 家族の状況等に応じた支援 ② 家族と社会資源の関係性を捉える分析方法（エコマップ）について学ぶ。 6. 子育て家庭への支援と社会資源の活用 社会資源について理解し、これらを活用した子育て支援の実践について学ぶ。 7. 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 子育て支援等にかかわる施策等について理解する。 8. 円滑なコミュニケーション *外部講師 多様な場面におけるコミュニケーションツールの活用について学ぶ。 9. 「子育て力」の向上に資する支援 子育て支援の基本（エンパワメントの視点を踏まえた家庭支援の方法等）について学ぶ。 10. 保育所等を利用する子どもの家庭への支援 保育現場の事例等を用いて、保護者に寄り添った支援のあり方について学ぶ。 11. 地域の子育て家庭への支援 地域の子育て家庭に対する支援の実践について学ぶ。 12. 要保護児童等及びその家庭に対する支援 児童虐待の事例等を用いて、保護を必要とする子ども及びその家庭への支援について学ぶ。 13. 家庭内の生活課題に対する支援 生活課題の事例等を通して、緊急性の高い事案への対応について学ぶ 14. 障がいがある子どもや家庭及び社会への支援 障がい児をめぐる現状、障がい児及びその家庭への支援について学ぶ。 15. 子育て家庭への支援の現状と課題 保育者が子育て家庭への支援を行う必要性、現状からみた課題、方向性等について学ぶ。 | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 講義形式の科目ですが、ワールドカフェ形式のディスカッション等も取り入れながら展開していきます。身近なテーマや他科目での学習内容等も多く含むことから、毎回の授業で取り扱う内容に対する自身の考えや思い等を準備して臨むようにしてください。事後学習は、教員の解説や他者の意見等もふまえて学習内容を振り返ることで、自分の考えを深める機会としてください。 | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 授業内容を深く理解できるように、事前にテキストの該当箇所を読み、分からない用語等を各自で調べておいてください（毎回 30 分～1 時間程度） | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 90 | 子ども家庭支援に関する基礎知識の理解 | | | | | | | |
| | 実践 | 0 | | | | | | | | |
| | レポート | 0 | | | | | | | | |
| | その他 | 10 | 授業への貢献度、振り返りシートの内容等 | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 各自が復習できるように、試験終了後に解答を公開します。 | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | <ol style="list-style-type: none"> 1) 石動瑞代ほか 編著『保育と子ども家庭支援論』みらい 2) 福祉・保育小六法編集委員会 編『福祉・保育小六法 2025 年版』みらい | | | | | | | | | |
| 参考書 | 必要に応じて、授業内で紹介します。 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|---|-------|-------|-------|-----------|-------|-------|--|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | | |
| 科目名 | 個別支援研究 E 23050 | 2年通年 | 講義 | 2 | | | | | | |
| 担当教員 | 菱田 博之 | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 子どもの特性の理解の仕方を学び、実態把握と短期目標、中長期目標を系統的に考察できるように講義で学ぶ。子どもを支援するにあたり、今まで学んできた知識を基盤として、さらに専門的な知識を深める。特に配慮が必要な子どもへの支援における「個別支援計画」を理解し、子どものライフサイクルにおける余暇の計画と意義について深めていく。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 1. 支援を必要とする人に対して、根拠に基づいた理論を用いた実態把握ができるようになる。 2. 子どもとのかかわりの中で子どもの実態把握を基にした個別支援計画を立てられることができる。 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | 学修成果4 | 学修成果5 | 学修成果6 | 学修成果7 | | | |
| | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション 国際障害分類（ICIDH）と国際生活機能分類（ICF） 子ども特性について 知的障害の理解と支援 学習障害の理解と支援 注意欠陥・多動性障害の理解と支援 自閉症スペクトラム障害の理解と支援 配慮が必要な子どもへの支援について 個別支援計画作成に必要な理論と知識と技能 障害児者支援施設の職員による講義（外部講師） 障害児者支援における実際の余暇支援① 障害児者支援における実際の余暇支援② 障害児者支援における実際の余暇支援③ 個別支援計画における実践の振り返りと反省 まとめと総括 | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | <p>事前学習：子どもだけではなく、子どもに関わるさまざまな人とのつながりを持つことが子育て支援を行っていく上で大切となります。普段から、身だしなみ、挨拶、マナー、自分の意見をきちんと表明する、相手の意見を聞くなどの点を意識してください。</p> <p>事後学習：授業や実践での学習後にリアクション・ペーパーにて学んだ点を言語化し、それをもとに省察していきます。</p> | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 図書館・参考書籍やメディアについて、1時間程度、該当テーマについて確認しておくこと。 | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 0 | | | | | | | | |
| | 実践 | 60 | | | | | | | | |
| | レポート | 40 | | | | | | | | |
| | その他 | 0 | | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 様々に学んできた知識・技術などを目の前の子どもへの理解にいかせるよう柔軟な思考能力を鍛える科目になります。目の前の子どもに対し、どのように関わればよいか、取り巻く環境への視点も踏まえた実践力を学んでいきます。 | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 障害のある子どもの放課後保障全国連絡会編「放課後等デイサービスハンドブック」かもがわ出版、2017年 | | | | | | | | | |
| 参考書 | 全国児童発達支援協議会監修「障害児通所支援ハンドブック」エンパワメント研究所 日本相談支援専門員協会編「障害のある子の支援計画作成事例集」中央法規 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|---|--------|-----------------------------------|--------|-----------|--------|--------|--|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | | |
| 科目名 | 個別支援実習 E 53051 | 通年 | 実習 | 1 | | | | | | |
| 担当教員 | 菱田 博之 | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | <p>今までの講義や実習で学んだ知識や技術をもとに、実際の児童福祉の現場において原則 6 日間の実習を行う（※状況により、実習日数変更、学内演習へ変更の場合がある）。</p> <p>実際の現場での体験を通じて、子どもの実態把握を行い、保育・援助していく上での支援計画を立てる。また、実習での実践の省察を通じて、子どもの最善の利益を踏まえながら、社会の一員として子どもの特性や多様性を尊重し、いきいきと暮らせる配慮と実践が出来るような保育の実践を目指す。本実習は実務家教員の授業で、児童福祉施設職員経験がある教員が担当する科目である。児童福祉の実務家としての視点を交えて、学生に対して授業を展開していく。</p> | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの多様性や最善の利益に配慮し、子どもと信頼関係が結べるようになる。 2. 客観的視点から、子どもの特性が理解できる。 3. 子どもの実態把握をもとに、子どもの特性に応じた目標を導き出すことが出来る。 4. 個別支援計画を立案することが出来、且つその計画を振り返り、改善できる。 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | 学修成果 5 | 学修成果 6 | 学修成果 7 | | | |
| | ○ | | | | | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 教員からのオリエンテーション 施設を利用している子どもと関わりつつ、スタッフからの指導を受けながら実態把握をし、子どもへの関わり方や支援を行うための必要な知識を深める。自分なりの子どもへの理解を深める。 2. 児童福祉現場における実習（1） 3. 児童福祉現場における実習（2） 4. 児童福祉現場における実習（3） 5. 児童福祉現場における実習（4） 6. 児童福祉現場における実習（5） （※感染症等の状況によっては、実習日数の変更や、学内演習の可能性もある） 実習をもとに、引き続き子どもと関わる。子どもの個性や特徴を踏まえたうえで、支援や保育を行えるようになるための実践を行う。スタッフからの指導を受けながら短期的・長期的支援計画を立案する。 7. まとめと総括（実践からの実践を元に作成した支援計画について、教員から指導を受け支援計画書を完成させる）。 | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | <p>事前学習：保育実習・幼児教育実習の実習日誌・資料を読み返し、自分の実践の在り方を再度振り返り実習担当者からの助言を整理しておくこと。</p> <p>事後学習：毎回の実践を実習日誌に記録し、「個別支援研究」の授業資料を基に、理論と実践を体験から結び付けることを目指す。</p> | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | <p>毎回 1 時間程度、自分の実践の在り方を再度振り返り、教員が紹介する文献や資料を確認すること。自らの実践を振り返り、きちんと言語化できるよう整理しておくこと。</p> | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 0 | | | | | | | | |
| | 実践 | 60 | 実習における態度・提出物 | | | | | | | |
| | レポート | 40 | 実習における子どもへの理解度（実習日誌・まとめシート・計画書など） | | | | | | | |
| | その他 | 0 | | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | <p>今まで学んだ学習項目を応用して、子どもがよりよく生活できるようにどうすればよいかについて、実践的かかわりの中で常に自らに問うこととなります。今一度学んだ保育者としての知識を言語化する力や、該当する学習内容を確認しておいてください。</p> | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | <p>教員が作成したものを適宜配布します。</p> | | | | | | | | | |
| 参考書 | <p>特になし</p> | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|---|--------|--------------------------|--------|-----------|--------|--------|--|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | | |
| 科目名 | Expression I E 42052 | 1 年後期 | 演習 | 1 | | | | | | |
| 担当教員 | 菱田 博之・波多 彩花 他 | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 人形劇を核とした表現活動の集大成としての 2 年生で行う「えんじり」活動 Expression II に向けて、Expression I では舞台を「ささえる」様々な活動（全体活動・係活動）を演習として行っていく。舞台技術（照明・音響）の習得や、広報活動・会場装飾などの実践活動を行っていきます。「えんじり」2 年生との連携を密にし、表現活動に関わる保育者としての学びを深め、翌年の Expression II へと繋げていく。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・飯田下伊那地域の伝統文化である人形劇の表現方法や舞台技術を実践を通して身に付ける。 ・人形劇制作における活動を通して、演じる 2 年生とのディスカッションを通じて、保育者に必要な積極性、コミュニケーション能力、計画能力、柔軟性、実行力等を高める。 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との 関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | 学修成果 5 | 学修成果 6 | 学修成果 7 | | | |
| | ○ | | | ○ | ○ | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. Expression の意義と意味：記録映像の視聴と解説 2. 各係活動の説明と係分け：演目の原作・台本読み合わせ 3. 教員による表現活動についてのレクチャー 4. アカシアホールにおける舞台装置の見学と操作方法についてのレクチャー 5. 各演目の台本読み合わせと演出方法の検討 6. 各係の活動①：演目の練習を通じ、2 年生と表現方法や演出方法などのディスカッションを行う 7. 各係の活動②：演目の練習を通じ、2 年生と表現方法や演出方法などのディスカッションを行う 8. 各係の活動③：演目の練習を通じ、2 年生と表現方法や演出方法などのディスカッションを行う 9. 各係の活動④：演目の練習を通じ、2 年生と表現方法や演出方法などのディスカッションを行う 10. 各係の活動⑤：演目の練習を通じ、2 年生と表現方法や演出方法などのディスカッションを行う 11. 各係の活動⑥：演目の練習を通じ、2 年生と表現方法や演出方法などのディスカッションを行う 12. リハーサルと振り返り 13. ゲネラルプローブ（本番前の総練習） 14. 〈Expression 本番〉2 年生の表現活動を「ささえる」係活動の集大成 15. 振り返り（反省会）：Expression II に向けての課題 | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 個人による活動だけでなくグループでの活動も重要になってきます。常に前回の授業・活動を振り返りながら、授業に臨んでください。また授業終了後には、次回の授業に向けて見通しを持って臨めるように整理しておきましょう。 | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 各活動時に課せられた振り返りシートを必ず記入し、次回の授業の際に提出します（30～40 分程度）。 | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 0 | | | | | | | | |
| | 実践 | 40 | 実践への参加：前日までの係活動・当日の係活動など | | | | | | | |
| | レポート | 60 | 全体活動・係活動・反省会での振り返りシートの提出 | | | | | | | |
| | その他 | 0 | | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 全体活動に関しては、全体活動担当の教員が提出された振り返りシートでチェックし、返却します。各係の活動に関しては、各係の担当教員が提出された振り返りシートでチェックし、返却します。 | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 適宜プリントや資料を配布します。 | | | | | | | | | |
| 参考書 | 授業内で紹介します。 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|--|---------|-----------------------------------|-------|-------|-----------|-------|--|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 2 | | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | |
| 科目名 | Expression II | E 44053 | 2年後期 | 演習 | 1 | | | | | |
| 担当教員 | 松永 幸代・若原 真由子・壬生 江美 | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 人形劇を核とした表現活動の集大成である Expression に向けての演習を行います。人形劇の作品制作を通して、個々の舞台表現技術(発声・人形操演技術等)の習得を目指します。また、舞台技術(照明・音響・大道具小道具製作等)を学び、演出効果を考えます。作品を作り上げていくためにグループワークを行い、1年生とも連携を取りながら進めます。それぞれの技術習得には専門家による指導も行います。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・舞台表現技術を習得し、舞台上で表現することを通して、保育者としての表現力を高める。 ・幼児の発達を踏まえた人形劇の作品を作ることを通し、保育者としての実践的指導力を高める。 ・グループワークを通し、他者とのコミュニケーション力を身につける。 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | 学修成果4 | 学修成果5 | 学修成果6 | 学修成果7 | | | |
| | ○ | | | ○ | ○ | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. インプロビゼーション1 ―動きと発声― (外部講師による指導) 2. インプロビゼーション2 ―即興表現― (外部講師による指導) 3. 人形劇操演の基本 (外部講師による指導) 4. 人形劇の操演練習① 5. 人形劇の操演練習②/1年生との作品検討 6. 舞台での表現練習①/1年生との作品検討 (音響・照明等の演出効果を含む) 7. 舞台での表現練習② (外部講師による指導) 8. 舞台における表現と演出①/1年生との合同練習 (外部講師による指導) 9. 舞台における表現と演出②/1年生との合同練習 10. 舞台における表現と演出③/1年生との合同練習 (外部講師による指導) 11. 舞台における表現と演出④/1年生との合同練習 12. リハーサル 13. ジェネラルプロローグ (本番前の総練習) 14. Expression 本番 15. Expression 振り返り：成果と反省 | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 発表までの練習には、授業外の取り組みが必要となります。それぞれが自分の役割に責任を持って取り組んでください。グループのメンバーとコミュニケーションを取り、自主的に学び合いましょう。 | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | Expression に向けての舞台練習等は、グループごとに時間設定をした予定表に従って進めます。 | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 0 | | | | | | | | |
| | 実践 | 40 | 学びの姿勢・グループワークの取り組み状況・表現力・協働性 | | | | | | | |
| | レポート | 60 | 毎週の活動振り返りシート・Expression の振り返りレポート | | | | | | | |
| その他 | 0 | | | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | 2年間の学びの集大成であり、保育者にとって必要な協働性を学ぶ Expression に向けて、グループで取り組みます。グループでの練習に参加できるようにスケジュール管理に努めてください。舞台表現や舞台演出については、適宜口頭で助言を行います。 | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 適宜、資料を配布します。 | | | | | | | | | |
| 参考書 | 必要に応じて適宜授業内で紹介します。 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|--|--------|-----------------|--------|-----------|--------|--------|--|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 1 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | | |
| 科目名 | ゼミナール I E 11054 | 1 年通年 | 演習 | 1 | | | | | | |
| 担当教員 | 担当教員 | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 幼児教育学科の各教員が専門に関わるテーマを設定して行い、1 年を通じて学びを深めていきます。学内だけでなく学外も含めた多様なフィールドでの学びの機会となります。学生は希望するテーマを選択し、各担当教員の下に 1・2 年生計 10 名程度が所属します。縦割りでの学びを通して保育者としての資質を高め、専門的な知識や技能を習得していきます。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 選択したテーマに関する知識や技能を習得する。 ・ コミュニケーション能力や協働性など、保育者としての資質を高める。 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果 1 | 学修成果 2 | 学修成果 3 | 学修成果 4 | 学修成果 5 | 学修成果 6 | 学修成果 7 | | | |
| | ○ | | | ○ | ○ | | | | | |
| 授業計画 | 水曜日 2 時限のゼミナールの時間に各教員の指導の下で年間 15 回実施します。 15 回の授業計画（内容・方法）は、各教員が決定します。 担当教員と相談の上、卒業研究に繋げていくことも可能です。 ゼミナール活動報告会・卒業研究発表会では、それぞれのゼミナールの 1 年間の研究・活動について、お互いの学修の成果を共有します。 | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 選択したテーマについて、ゼミナール以外の時間でも自主的に学習を進め、関連する授業での学びを深めていきましょう。 | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 担当教員の指示により行う。 | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分 (%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 0 | | | | | | | | |
| | 実践 | 0 | | | | | | | | |
| | レポート | 0 | | | | | | | | |
| | その他 | 100 | 各教員が提示する評価方法による | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | テーマにより、ゼミの時間外に課外活動を行うことがあります。 フィードバックの方法等は、担当教員により異なります。 | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 各教員による。 | | | | | | | | | |
| 参考書 | 各教員による。 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|---|-------|-----------------|-------|-----------|-------|-------|--|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | | |
| 科目名 | ゼミナールⅡ E 12055 | 2年通年 | 演習 | 1 | | | | | | |
| 担当教員 | 担当教員 | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 幼児教育学科の各教員が専門に関わるテーマを設定して行い、1年を通じて学びを深めていきます。学内だけでなく学外も含めた多様なフィールドでの学びの機会となります。学生は希望するテーマを選択し、各担当教員の下に1・2年生計10名程度が所属します。縦割りでの学びを通して保育者としての資質を高め、専門的な知識や技能を習得していきます。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・選択したテーマに関する知識や技能を習得する。 ・コミュニケーション能力や協働性など、保育者としての資質を高める。 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | 学修成果4 | 学修成果5 | 学修成果6 | 学修成果7 | | | |
| | ○ | | | ○ | ○ | | | | | |
| 授業計画 | 水曜日2時限のゼミナールの時間に各教員の指導の下で年間15回実施します。15回の授業計画(内容・方法)は、各教員が決定します。担当教員と相談の上、卒業研究に繋げていくことも可能です。ゼミナール活動報告会・卒業研究発表会では、それぞれのゼミナールの1年間の研究・活動について、お互いの学修の成果を共有します。 | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | 選択したテーマについて、ゼミナール以外の時間でも自主的に学習を進め、関連する授業での学びを深めていきましょう。 | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 担当教員の指示により行う。 | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 0 | | | | | | | | |
| | 実践 | 0 | | | | | | | | |
| | レポート | 0 | | | | | | | | |
| | その他 | 100 | 各教員が提示する評価方法による | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | テーマにより、ゼミの時間外に課外活動を行うことがあります。フィードバックの方法等は、担当教員により異なります。 | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 各教員による。 | | | | | | | | | |
| 参考書 | 各教員による。 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|--|-------|---------------------------|-------|-----------|-------|-------|--|--|--|
| 対象学生 | 幼児教育学科 2 | 開講学期 | 授業形態 | 単位数 | 教員免許資格の有無 | | | | | |
| 科目名 | 卒業研究 E12056 | 通年 | 演習 | 2 | | | | | | |
| 担当教員 | 担当教員 | | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 幼児教育学科の学修成果をもとに自らの研究テーマを明確にし、そのテーマに対して、適切な方法（文献研究・調査・実験など）の学修をもとに自らの研究テーマにある課題に対する結論を導き出す、一連の過程を学びます。 | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマを明確にできる。 ・研究テーマを解決するうえで適切な方法（文献研究・調査・実験など）を用いて課題解決ができる。 ・結論に至る経過や、考察の根拠を明瞭且つ論理的に述べることができる。 ・論文の体裁を整え、卒業研究発表会で発表することができる。 | | | | | | | | | |
| 学位授与方針との関連性 | 学修成果1 | 学修成果2 | 学修成果3 | 学修成果4 | 学修成果5 | 学修成果6 | 学修成果7 | | | |
| | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| 授業計画 | <p>【卒業研究の流れ】 履修登録変更期間内に履修登録を行う。 (5月中旬) 「卒業研究申込書」を教務課へ提出 (12月初旬)「卒業研究題目提出書」を教務課へ提出 (1月初旬) 「卒業研究提出票」「卒業研究」を教務課へ提出</p> <p>【卒業研究の授業計画例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究の進め方（スケジュールの確認） ・研究テーマの設定・課題の設定 ・先行研究のまとめ ・方法（文献研究・調査・実験など）の設定 ・研究・中間報告 ・卒業研究要旨の作成 ・発表用 Power point の作成 ・卒業研究発表・リハーサル <p>※担当指導教員の指導方法により授業計画の内容が異なります。 ※ゼミナール内での共同研究も可能です。</p> | | | | | | | | | |
| 事前・事後学習について | <ul style="list-style-type: none"> ・自らの設定したテーマについて、常日頃から情報を収集する視点を持ちましょう。 ・指導教員と連絡を取り合い、率先して卒業研究に向き合いましょう。 | | | | | | | | | |
| 準備学習に必要な時間 | 自らのテーマの課題解決に要する準備学修時間：概ね1時間程度 | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 | | | | | | | |
| | 試験 | 0 | | | | | | | | |
| | 実践 | 50 | 先行文献の検索及びそのまとめ、卒業研究発表での発表 | | | | | | | |
| | レポート | 50 | 論文としての体裁及びその内容、判断力・思考力 | | | | | | | |
| | その他 | 0 | | | | | | | | |
| 受講上の注意・課題のフィードバック | <ul style="list-style-type: none"> ・自らスケジュールを決め、課題解決に向けて計画的に学修をすすめていきましょう。 ・分からないことなどは、早め早めに担当教員に確認しましょう。 | | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 適宜指示する | | | | | | | | | |
| 参考書 | 適宜指示する | | | | | | | | | |

IIDA JUNIOR COLLEGE

学籍番号

氏名